
戦うかじ師の多重転生記

獅狼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦うかじ師の多重転生記

【Nコード】

N8496S

【作者名】

獅狼

【あらすじ】

神様っぽい人の趣味の手伝いのためにアブダクションされてそこから頑張っていく話。

主人公（の仲間や武器のほうが基本的に）最強物、でもそのうちダンジョンに宝箱置くような存在になりたい主人公。

只今、一つ目の世界で頑張っています。

途中まで書き直したので初めて見る方はご注意ください。

第・零話〈事故WWW〉（前書き）

書き換えました 11 / 4

第・零話〈事故WWW〉

さて、昔話・・・と言うほど古くはないがまあ大体半年前の話をしよう。

否、今居る場所には厳密には時間軸が滅茶苦茶で一日が常と同じでは無いのだからこの言い方は間違っているな。

そう、その時から大体半年に相当する回数日が沈んだと言っておう。

あれは生前あそこでの暦で言う大体三月の後半だった。

その瞬間の記憶が余りにも曖昧なのだが・・・そう、その日は、

朝からナニカ（・・・）おかしかった。
と言うより違和感を感じていた。

~~~~~

いつものと同じ天井を見て、いつもと同じ時間に目が覚めた。  
天候は少し雲の多い晴れ、気温は少し上がってきたがまだ少し肌寒い。

二階に在る部屋から通りを眺める、いつも通りそここの車がスムーズに・・・

いや、いつもより少し量が少ないか？

出勤時間であるため自動車は似たような間隔で流れているのが常なのだが・・・

今日は車間距離がまちまちでいつもより広く、自動車の数が少ない気がする。

まあ、俺には関係のない事だ。

むしろ信号まで行かずとも渡る事が出来るかもしれない

しかし、歩いている人の数も少ない気がする。

まあそこら辺はまだ誤差の範囲と言える程度の事だ。

事故があつて規制がかかっているわけでもない。

問題は、家の上と言うよりも俺の真上にUFOみたいな円盤が飛んでいる事だ。

家を出てから気が付いた、空になんか円盤飛んでるって…ッ何だよ！！

しかも追跡してきてるしさ・・・

え、もしかしくても狙われてる？

でも、まだつけて来ているだけだし、影もないことから俺にしか見えてない物だと思われる。

幻覚・・・かなあ・・・出来ればそうであってくれた方が嬉しい。

あれが本物だとしたらリアルで命がピンチ。

アブダクションか？アブダクションされるのか？

俺はUFOなんて読んでないぞ！！

友人？の電波少女が先日、夕方に屋上でお前を呼んでいたからそっちに行ってくれ。

もしくは、いや、むしろ無駄に人を巻き込む悪友「<sup>イケメン</sup>一級旗建築士<sup>フラグメイカー</sup>」  
を連れて行ってくれ。

アイツは全人類+αの1/2とちよつとの敵だ!!

あれ? こう見ると俺って、どっかの小説の主人公っぽい?

・・・

まあ、待て。

人の頭の上で不規則に点滅するのを止めてくれ、特に下に見える丸  
い口の様などころの周辺。

いつ、怪光線で吸い上げられるか不安なんだよ!!

うっかり変な旗立<sup>フラグ</sup>ててしまった気がするからよけいにな!!

召還か? 死亡して転生? 勘弁してくれ!!

ふと、気が付いた。

周りに車も人も居なくなつて・・・

否、後ろから大きなモノの接近を感じる。

しかし、大型トラックかと思えば音がおかしいまるで道路工事で使う大型重機が走っている様なかなり重たい音・・・

ぬう、分からん。

でも、なんだか聞こえ方がおかしい。

まるで、

・  
法規速度を超えて走ってきている様な、しかもいまだに加速して・・・

これはヤバイ、今までの厄介ごとの中でも上位・・・否、一番に来そうな気がする。

後ろに振り向き身構える。その目に映ったのは・・・

六メートル幅の片道一車線道路の中央を走る幅10mは在りそんな巨大なトラック？だ。

何故疑問形かと言うとトラックのようだが明らかに殺意の塊のような刺々しい見た目だからだ。

俺はあれを絶対にトラックとは認めない！！

ドリル一対にその間に在る除雪機についていそうな・・・らせん状

の刃

しかもしっかりと高速回転し（動い）ている。

これで殺意のない飾りだと言われても信じる事は到底出来ない。

転生トラックだったとしてもこれだけには……これだけには  
あああ！！

なぜなら、窓とドリルと回転刃以外のところに絵が描いて在るからだ。  
だ。

否、ドリルと刃にも絵ではないが模様が在るようだ。

痛い、痛いはずなのに素晴らしいと言えるキャラの数々、幾つもの  
作品のキャラが描かれているにもかかわらず違和感の無いほどの調  
和……

イタ（い）トラ（ック）に轢かれて……いや、むしろ挽かれる？  
正直、痛くなくてもごめんだ。

火事場のくそ力なのか、いつも以上に集中力が出て、それをもって  
ギリギリまで引き寄せてから反対路端に向かって全力で飛び込む。

飛びながら後ろを見るとさっき居た所にドリルの片方が真ん中まで  
突き刺さって行く所だった。

危ない、やっぱり追いかけてくるつもりだったみたいだ。もう少し  
遅くても（ドリルで）早くても（ドリルで）やられていた。

こけたりしたら（真ん中の刃で）即挽肉に成っていただろう。

後は受身をうまく取ればそれで無事逃げられるこの体勢なら後ろ受身がいいかな・・・と思った時だ。

背中にナニカ硬い物が当たり水？によって上に跳ね飛ばされた。――

――おそらくマンホールだったのだろう。

背中にかかる圧力と激痛で意識が飛びかけた時だ。

空を見た、何が見えたと思う？

そう、UFOだ。

しかし、今は怪光線が出ると思っていた穴から三本指のアームが向かってきていた。

そのとき、何故か走馬灯が見えたわけじゃなくて怪光線じゃなくてアームだったことに突っ込んでいたな。

ああ、もうあれはどう頑張っても避けようがない。そう、本能が感じていたんだと思う。

そこで俺は意識を失った。



第・零話〈事故WWW〉（後書き）

書き直したら短くなったが、気にしないで欲しい。

**第・零話 就職？決定！！（前書き）**

増えました。

## 第・零話 就職？決定！！

「ハッ！……良かった、夢か……って此処何処だ？」  
目が覚めたら其処は神殿だった。ってか

《漸く、目を覚ましたか、力加減を失敗したか？》

——王座？神殿なのに？

《そういう突っ込みは要らない。》

——文句を言われた、と言うより心が読まれた。偉そうだったのは  
雰囲気からよく分かるんだけど……

《まあ、我はいちよう樹受通神の末席に名を連ねている》

——どんな神か想像も付かない種類の神だった。

《まあ、そうだな普通聞く事のない名前だ。世界樹を受けて樹に通  
じ管理をする神だったかな？、受ける方法は多数あり、上の格の人  
に株分けして貰い育てるか、何らかの方法で苗木か種のような物を  
てにいれここに居たり植えると言うのが主だ。》

——親切にどうも。なんか不安が残る説明だけど……でそのカミ  
サマが何の用でしょうか？

《この木を育てれば神格が上がり能力も上がって複数の木を管理で  
きるようになるんだが……それじゃなくてこの木のバランスを  
整えるためにお前を呼んだ。》

——いや、それじゃなくてってかなり重要なことじゃ……

《いやいや、満足の出来る樹が育てられてこそ一人前だと先輩は言  
っていた。我もそう思う》

——……俺にはよく分かりません。

《まあ、そうだろうな。それでだ、この樹、どうやって育っている  
と思う？》

——え？世界樹だから……大地の魔力とか吸ってですかねえ……

《外れだ。どんな単位かは様々だから我らも分からないが・・・まあ、分かりやすく言うと言葉っぱの一枚一枚が世界だ。枝の中にも世界が在るが・・・そっちは説明が難しいが幹に近いほど根源に近い世界だと思ってくれればいい。ツとこんな話をしても意味が無いな。》

——なんとなく分かるが・・・何故だか頭が痛く・・・

《無理に深く理解しようとするな。樹の存在を魂で直接感じているせいで・・・ふむ、やっぱり少し我慢しろ。能力が目覚めそうだ。悪いが干渉してその能力は別のと取り換えさせてもらう。良い能力だが今の格では使いこなせず暴走しそうだからな。》

——ちょ、なんか頭が凄く痛い。

《あと少しだ頑張れ、それと頭と言ってもお前、肉体無いからそのうち全身がいたいと感じるようになるかもな。そうなたらあと数秒だ。》

——ちよいてっ、いてて。って全身ガッ！！

《お、早かったな。良しじゃあ・・・ア。パ。マ。！！新しい顔<sup>からだ</sup>よ！！！！》

そういいながら何か人のような人形のような物を投げつける神。

「グッ・・・ハア・・・あ、あれ？痛みが・・・無くなった？」

《仮では在るが肉体を与えたからな。無理に理解しようとしなくなつたんだろう、きっと。》

「不確か！？不安の残る言い方は止めてくれ！！」

《ハハハハ、ツツコミする元気が在るとは良いじゃないか。》

「こっちはよろしくない！！ツてかよくみたら顔が識別できない！？」

《そりゃ、我は今、決まった姿をとっていないからなあ。光の粒子

のような物で出来たヒトガタに見えるだろう?」

と、いまさらだが特徴の一切無い声で言う。

「まあ、確かにな。それで?俺に何をやらせよう?」

《ぬ?もうため口で緊張が解けた?順応力も良いとは!》

心底驚いた感じで、一切の驚き無くそう語る。

「いや、話を進めてくれ、お願いだから」

《力力力、いやはや、何故格の違いすぎる者の前にいながらそんな口が聞けるのか!!面白い!!》

《じゃあ、話を進めようか。

さっき言ったとおりやってもらう事はぶっちゃけ、テンプレ?の転生モノだ。

主にいるんな世界に行つて世界を壊さない程度に好き勝手してもらいながら悪性の転生者びようげんきんを始末して、この樹のバランスが良くなるように働いて貰いたいだけだ。

《そして変に強いそう、チート能力はやらない、成長限界をなくしたり、成長速度を上げたりはしてやる。

そうだな・・・魔界戦記デイスガイアの能力を基礎にいろいろとくつつけたのがお前の能力基盤になる。

力とは貰うものじゃなくて得るものだ。貰い物は所詮貰いモノ十全に使いこなすのは難しくそれまでは振り回されることになるからな。

《本当はそれじゃつまらんと考えたからだが、まあ、早々に消えて貰つては困ると言うのも事実だな。

《次に、今後の事だが先ずはお前には職業を選んでその身体に転生

してもらっ。そして、しばらく・・・専用の場所で数年くらいになるか？

修行してもらっ。

《そのあとにいろいろな世界に転生して生きてもらっ。

《そうだ、これを渡しておく。

ん？P。Pじゃないかって？ 其処は気にするな、

《話を戻すぞ、それはお前が自身のステータスを確認したり、特定のものの中に入れて管理できたり、ボーナスポイント（以降BP）を特典に代えたりするためのものだ。

無くすなよ？壊すなよ？作り直すのは面倒だからな。

もし修理、再発行が必要な状態にしたらそのときのコストは高いぞ？

《大体大雑把にこんな感じだ。分かったな？》

「まあ、大体は。それで拒否権は？」

もう既に悟った感じで問う。

《カカカ、分かっているくせに聞くな。ないに決まっているだろう。

》

そうして、新しい就職？先が（強制的に）出来た俺だった。

超蛇足

「そついえばキャラ、安定しているようで不安定つすよね？」  
《姿形も不確定だからな。固定すればあわせて安定する。》

## 第零話 拠点（前書き）

書き換え済み

どこかで上手く合流できるかなあゝ

## 第零話 拠点

気が付いたら木製の小屋、ログハウスが一軒だけ建っている草原にいた。

《さて、とりあえず今、此所には小屋がひとつしかない建築物を増やすにもポイントを使ってもらうことになる。

手に入れたものは特定の建物に仕舞えば何時でもP。Pから取り出せるようになる。

まだその建物は無いけどな。

此所までいいか？》

「了解、でも前置きくらいはして欲しい。いきなり話に入られて困惑している。」

《次に能力だ。デイスガイア設定はかなりのチートになると思っただろうが、経験を積んでレベルアップだと限界がある、そのための能力だ。

お前の能力は、『倒した相手の力を吸収する程度の能力』だ。

これによって倒した相手の力、殺した場合は魂の一部を所謂、経験値として取り込む事が出来るようになる。

これでゲームと同じように経験値が得られレベルが上がるようになる。

言っておくが倒した相手の技が使えるとか無いからな。》

「確かにそうだな、普通に経験を積んでとか基準が分からないがレベルはかなり上がりにくいだろうな。」

《そして次にこれだP。Pを特殊改造した物でな。

これを使つて、『転生』『アイテム界』『ステータス』などいろいろなことができる。

ただし、時間が止まったりしないから注意しろ。  
うっかり壊すと再発行に100万マナ必要だからな」

「確かマナは倒した相手のレベル分じゃなかったか？」

「ああ、そうだ。故に、もしすぐに壊したら現状5レベルに苦戦するだろうから・・・アイテム拾った物のみ、職業固定、携帯アイテム制限などの縛りが付くな。正直、正気が貴様？と言うレベルの縛りプレイになる。」

「それは・・・嫌だなあ。」

《紛失しなければ良い。》

「だよなあ。で、今の俺の職業は？」

《ない。》

「え？」

《だから、無い。》

「如何言う事だ？」

《ただの人形だからな。いうなれば、称号『人形の転生者』？》

「それは嫌だな。でも、それはいいから何の職業に成れるのか教えてほしいのだが？」

《仕方が無い。》

1・戦士

2・魔法使い

3・格闘家

4・アーチャー

5・盗賊

6・覆面ヒーロー

さあ、選べ！！」

「ん。って六番なに？覆面ヒーローって職業！？」

《ん？六番がいいのか？いきなりマニアックなのから行くな〜こいつの持つ特殊能力は移動距離が長いほど回避率が上がると言う面白い物だ！！更にはレベルとP。Pの特定の欄を開放することによって特殊能力チキンハート【攻防を犠牲に機動力を上げる】を覚える！！

よ〜し良いだろう、希望通り覆面ヒーローに「待てえええい！！」  
如何した？》

「何？その心底何で止めたんだよって顔は！！嫌だよ！！いきなりそんな色物嫌だよ！！」

《え〜〜〜〜〜》

「え〜じゃ、ない！！戦士で、戦士をお願いします！！」

《ツチ仕方がないいいだろう戦士（女）にして「止める！！」だから如何した。》

「隠す心算ないだろ！！しっかり（女）って言いやがって。男にしろ！！いや、してください！！」

《了解、分かったよ。》

「急に大人しく引くなよ・・・裏がありそうで怖いだろ・・・」

《じゃ、戦士な。あと、流石に武器無しじゃ大変だろうから・・・》

なべつかみ、おもちゃの剣、見習いの槍、おもちゃの弓、おもちゃの銃、安物の斧、見習いの杖  
を手に入れた。

「・・・ひのきのぼうとどっちが良いんだろう・・・」

《じゃ、納得いくまで修行してくれ。だけどどんなに遅くとも総レベル500になったら次に行くから。》

「了解、せいぜい第二の人生を楽しませてもらうか・・・」

《ああ、そうだ、いちよう種族は半魔みたいなもんだから。》

「え？」

《あと、初めは経験値の入手量、ゲームの1/5から始まるから。》

「え！？」

《最後に、転生は何回もする事になるからね》

「おい！！！」

《覆面ヒーローに成りたくなったら何時でも行ってくれ即刻覆面ヒーローにしてやろう！！》

「言わねえよ！！！」

第零話 拠点（後書き）

とりあえず能力

???（名無し）  
ファイター  
戦士

LV1

HP 30 SP 10

ATK 20 DEF 20

INT 10 RES 10

HIT 15 SPD 15

武器なし

装備なし

なし

なし

## 零話 補足説明と初戦闘へ（前書き）

《あ、そういえば昨日話していた中でポイントって言ったよな、そのポイントはBPポイントと言うそのままのもので、入手はマナからの方  
通行な変換だけだ。

交換レートは基本1：100だ。

無論BPが1の方な。》

「へーどんな物と交換できるんだ？」

《ふむ、いいだろう此处で少し紹介しよう。

|                            |        |
|----------------------------|--------|
| 小屋の拡張一段階                   | 100BP  |
| 携帯小部屋                      | 500BP  |
| 記録図書館                      | 1000BP |
| 特殊工房                       | 要相談    |
| 新能力 <small>スキル</small> （初） | 500～BP |

まあ、最初に使うのはこのあたりだろう。  
詳しい説明は必要な時にする以上！！》

## 零話 補足説明と初戦闘へ

さて、昨日の今日だが早速修行を始めようと思う。

何時までもここに居た所で此処に在るのは寝食を取るための小屋のみ、やることなんて何も無い。

故に修行だ。

神が言うには俺は今、種族が戦士、ランクがファイターだそうだ。

これはデイスガイアのものであり戦士族はその名の通り戦士の種族、戦う事が当たり前なんだそうだ。

得意な武器は斧<剣<槍<拳<弓>>>銃<杖の順、とりあえず使いやすそうな剣と拳をメインにしていこう。

おもちゃの剣と安物の斧、なべつかみを持って、神の用意したチュートリアルを行おう。

このチュートリアルで出てくるのはこのために作つたと言う防御も攻撃も一の貰える経験値はほとんど零と言う半生物で

常に十五体が100メートル四方のフィールド上に存在し、ランダムパターンで動くので一定時間戦い続けて戦い、武器の扱いに慣れ

ると言う物だ。

だが零と言うのも問題なので最低でも値として、ここでは0・1他では1を得ることが出来るように成っているそうだ。

ということ、初めに一番得意だと言う斧を使い武器を変えて再びここに来て練習を合計三回やろうと思っている。

何体倒せるか分からないが最初のレベルアップは確か15必要だったと思う故に150倒せばおそらくレベルが上がるのだろう。

神の話だと準備を整えて掲示板に在る用紙を取って外に出れば良いとの事だが……

なになに？

---

チュートリアル

目標 『制限時間の間生き残る』

制限時間 『5：00』

戦場 『道場』

出現する敵 モンスター

『チュートリアルドール』

---

五分か・・・四回行くと二十分、一分回に七体か八体ほど倒して行けばレベルが上がることになる。

でもやっぱり出来る限り全力で早く慣れるように頑張っていこう。

その紙を剥がして武器を与えられた道具袋（容量24）に入れて出口に向かう。

「今後どういう方針で修行していこう・・・」

デイスガイアの武器をそろえて武器を育てて最強の武器を作るのは王道であり当たり前な事だ。

しかし、もしかしたら此処からの持ち出しが出来ない形での転生、むしろ召還のようなものが在るかもしれない。

故に俺は1から武器防具を作ろう、その技術を持とう。実は刀鍛冶とか少しあこがれのようなものを感じていたんだよね。

だから最初に貰うボーナスはそれに使えそうなスキルか、鍛冶場にしよう。うん、そうしよう。」

いろいろの物語をベースにした世界とか言っていた気がするし、それに・・・宝具みたいな物作って使ってみたいんだ。

確かにランク40の武器は宝具だ、対星宝具といっても問題ないレ

ベルにまで鍛える事も出来るかもしれない。

だがしかし、俺には成長限界がないらしい、だからそれを超えるものを作ることが出来るようになる………

ま、まあ、早い話がロマンだ！！とこの際言い切ってしまおう。

「よし、さあ、行くか。」

変な方向に行きかけた思考を切り替えて、取っ手に手を掛ける。

そしてそのまま外に………

扉を開けるとそこには………鏡面？

銀色に輝くナニかが在った。

「これの中に入れと言う事か？」

しかし、このまま観察していた所で何かが解決される訳ではないので………

左手を突っ込む。

何の抵抗もなく吸い込まれる。鏡面は波打つ。問題なく取り出せる。

「………」

右手も突っ込む。かき混ぜる、本物の水面みたいに波打つ。

両手を抜いて脚を上げ構える。そして蹴りを・・・

《何時までも遊んでいないでさっさと入れ！！》

かまそうとして後ろから何かに押され鏡面の中に飛び込むことになった。

「おっと・・・」

そのまま敷居をまたいだような気軽さで見知らぬ空間へ放り出された。

周りを見るに目標の場所『道場』・・・・・・・・とは思えないような場所だ。

完全に真っ白、部屋の角が目を凝らしてやっと分かるくらいに綺麗なつなぎ目。

周辺に居る十五対の操り人形マリオネットの原型のような特徴がないのが特徴と言える人間大の人形。

昨日、教えられていた目に魔力を少量集めて相手を見る初步的な技スキル術。

相手のステータスを見るものらしい。しかしこれは使い手の技術と相手の抗魔力に大きく作用されるらしく、酷い時は何も見えないらしい。

聞いた事であり使ったことがないので全部伝聞形だ。

試しに使ってみることにしよう。

って、魔力ってどうやって集めるんだ？

**零話 補足説明と初戦闘へ（後書き）**

追加した一話です。

第壱話 『初戦闘』（前書き）

完全書き直し、原型が無い・・・

## 第巻話 『初戦闘』

何とか逃げ回りながらもこつを掴めステータスを見ることが出来るようになった。

実はそれよりも先に腕や脚に魔力通すのが先に出来た。

更に言うならもう既に十数体倒している。

それは置いておいて敵のステータスはこれだ。

||||||||||||||||||||

チュートリアルドール Lv0

攻撃力F -      防御力F -

情報

練習用人形、ちゃんと攻撃もしてきてくれる木<sup>デク</sup>人形。

しかし、材質は木ではなく、本当に物質かどうか分からない謎のモノで出来ている。

フィールドに常に十五体存在する。

思考力は皆無で視界に入った同種以外のものに対して近づいて攻撃をすることしかない。

0.5〜1の経験値をくれる。どれだけ入手効率が上がろうとこの範囲から外れる事は無い。

攻撃力はF-、ほぼ零だが当たれば僅かにダメージを受けるため油断をしていると気が付いたらHPが零になることも在る。

——意思無き、数の暴力に五分生き延びる事が出来るか!?

||||||||||||||||||||

道理で、HPが2減っているわけだ。しかし受けた攻撃は三発、平均0.67で現在、経過時間は30秒足らず。

このペースでダメージを受けるのならば五分持つ、しかしこっちの動きが鈍る事を考えると回避、防御もちゃんと出来るようにする必要あり。

うれしい事に人形の攻撃パターンは大振りの右左のパンチにキック、タックルの三つ避けるのが容易いテレフォンパンだが如何せん、数が多い。

しかも常に十五体なため、酷い時は倒した直後真後ろに出現からの攻撃とかがある。(一発喰らった。)

今まではまだヤツラは広がっていたが今はもう全員こっちに気が付いて向かってきている、何故か歩く早さで。

今は対4で戦っている。

正直、結構辛いです。まだ辛うじて避けてはいるもののこの調子だと限界は同時六体、残り九体は手に余る。

今の状況でも正面に二体を置いて視界の中に四体とも入れて戦っているのだが……

一体倒して後ろから殴られて、二体倒して二体合流して、また倒して一体増えて、三体倒して四体合流、後ろから一体に蹴られる。一体倒して三体合流！！

さあ問題、今何体と戦闘中でしょう？

正解は九体。

その後、

防いで避けて斬って殴られて蹴られて斬ってタックル喰らって数体

同時に切り払って大きく避けて突撃回転斬り斬り上げ斬り下ろし横に転がって回避後蹴られ起き上がり囲まれリンチされた後、キレて半分力技でふつとばして……………

みたいな事を繰り返す四分。

開始から4分40秒で、あと二十秒残り体力3、持っている回復アイテム：ふつうのガム×2 かんだガム×1

疲労困憊、とても疲れている。

・  
・  
一体一体の動きは単調だが数が集まると辛い。これが数の暴力か・

しかも、初めて持った剣の使い方なんて知らないから初めの方なんかただ振り回しているだけだった。

しかし、何でか知らないが段々とうまく使えるようになって今は二週間剣道を教えてもらったレベル（予想）

なかなか素晴らしい才能の体だな、スベック ボディーまだ五分経っていないのに二週間分技術。

一体何倍なのだろう、っと、体力が1になったので残り時間は少ないがかんだガムでHPを回復。

と、まあ、そんな事をやっているうちに時間が来たようだ。世界が停止して、今回の結果が出てきた。

|         |    |    |
|---------|----|----|
| 受けたダメージ | 63 | 評価 |
|         |    | F  |

|   |    |   |
|---|----|---|
| ・ | 評価 | F |
| ・ |    |   |
| ・ |    |   |
| 2 |    |   |
| 1 |    |   |
| 0 |    |   |
| % |    |   |

・  
・  
・  
・  
・  
1  
6  
7  
体 / 3  
0  
0  
s

評価  
F

コメント

もつと攻撃を避けて効率よく敵を倒しましょう。

[illegible]

《説明してやろう!!》

「うわ！！突然話しかけるなよ……ビックリしたなあ」

「いや……確かにそうだけどさ、いきなりの大声はカンベンしてくれ。」

《そうか・・・・・・・・・・善処しよう。》

「間が長すぎだろ……まあいい、で、これは如何いう基準で？」

今回の被ダメのCは25、最大HPとの比較は50%、撃墜数は300に設定しておいた。

経験値は0・5×167で端数切り捨てて80、おめでとう、レベルが3あがって4になった。》

「何か、漢字表記の出来ないゲームみたいな言い方だな・・・しかし、まだ先は長いな・・・倍以上動けるように成らないといけないのか・・・」

《え？何言ってるの？こいつら、防御が限りなく零な紙どころか湿った手で和紙を突付くが如くだぞ？体力も当たれば無くなる程度に設定して在るから・・・掠りでも二発、ちゃんと当てれば一撃で倒せる相手なんだが・・・弱くても範囲攻撃連打で撃墜は楽じゃ無いのか？

ああ、あとAからSランクでご褒美が出る。頑張れ！》

小屋に戻り情報整理をして思い返す。

そつえば軟らか装甲の軍団だったな・・・

つまりは急所狙いや切断は必要ない。

次は・・・槍・・・ひたすら振り回すか、そうすればじゃんじやん倒せるだろう、出来れば零槍兵のように双槍でやってみたい。ほら、双剣って何でか知らないけど良く在るじゃん、でもあんなふうに普通片手で持てない槍を二本持って戦うって・・・なんだか憧れる！！

あーでも今見習いの槍しか持ってないからな。お預けだな。まだ腕力も長時間二槍で長時間戦えるとは思わないしね。

しかし、一秒に一体倒せと来るか、しかもそれがC（望まれる期待値）、AとかSはどれくらいで取れるのだろうか。

出来れば最初の楽なステージでは高得点を取りたいそして良いアイテム貰って楽しみたいというのがこの俺！！

と、言う事で評価Sが出るまでひたすら武器を変えながらも狩り続けるという実り<sup>けいけんち</sup>は在るが一後の楽しみ《マナが無いからボーナス》が無い作業にはいきまゝす。

そしてこのあと1週間近くとにかく人形狩りを行うのであった。

第弐話―作業↓戦闘―（前書き）

書き換え！！

結構無理にもとのルートに戻そうとした感が・・・

でも設定が変わったので少しずつでもほぼ全部書き直すことに・・・

やっちゃまった

第3話―作業↓戦闘―

さて、チュートリアル1を始めてから半年、1週間ずっとやっていてAランクは取れたんだ。

あと倒した数分のH.L.(お金)は貰っていたからそれで武器も新調してそのあと数日でSランクも取れたのだが……

あのやろつ、今は買えない武器をくれたのはいいが、

《よし、じゃあ更なる数の暴力とやってもらおう。次、30体同時存在で、更に速度も1・2倍、防御攻撃も10くらい、一撃で一は少なくとも受けるだろうだから今までの三倍の勢い……いや、数が増えたからそれ以上の速度でHP減って行くから注意しろ。  
視界が人形で埋められる戦いになりそうだな。

ああ、あとこいつらはL.V.1だからマナが入るねおめでとう。》

――チュートリアル2が追加された!!

と言い出しやがって、それも一月近く頑張ってSランククリアしたら、

《じゃあ、次は自分より常に少し強い相手との戦闘な。》

と言って常に一体、自分より1レベル上の相手との戦闘ってなって。これも何とか一ヶ月頑張ってSランク取って、

《次は獣型とだ。》

って言い出して、人形と同じように15、30、少し上をやって、Sランククリア、

《よし、これでチュートリアルは終わりだ対大型!!》

で、巨大な骨竜?のような今までのと同じ様な材質で出来た竜と戦った、これは時間無制限で倒すか倒されるかの戦いだった。

まさかリアルモンハンもどきをチュートリアルでする事に成るとは思わなかった。

さて、そんなこんなで今現在、初期より1.5倍以上の大きさの竜モドキと戦闘中です。

何故か戦うたびに大きくなって今六回目、大きくなるにつれ質量が増えて攻防ともに強くなる。

攻撃範囲も広がりやがりまして・・・三回に一回避け損なって思いつきりふつとばされています。

タイミングがシビアすぎる。尻尾とか突進は動き出す直前に逃げないと如何頑張っても当たると言う外道設定。

初期ですら10m位の大きさが今では15m・・・攻撃範囲も1.5倍、なのに動きは早い、とっても大変です。

しかもマジモンハン、頭を斧で攻撃したのに何発も当てないと怯みさえしない。

よく分からん物体をはいてきたりもする。

しかも二回までは倒れても復活すると言う親切設計。

Sランク取るために20m級倒す必要が在るみたいで困る。

この戦いが終わったら俺、熟睡するんだ。

「だから、さつさと、死ねエエエ!!」

持っている剣から光が溢れ巨大な光の剣となる。

——大次元断ッ!!

竜が振り向いた時にちょうど当たるように振ったため、もの見事に頭から尻尾まで真つ二つになり、徐々に気化し始める。

「ふう・・・おっと、剥ぎ取り、剥ぎ取り。」

——模型竜の割れた骨を手に入れた

——模型竜の割れた頭骨を手に入れた

——模型竜の割れた尾骨を手に入れた

・・・これ使い道有るのかなあ？

清算アイテムか？

うんそれっぽい、割れてるから半分だけどそこそこの値で買い取ってもらえるみたい。

さて、

寝るか。

1週間後

漸く18mクリア何故か動きは鈍いかなり頑丈で隠れながら三日戦い続けた。

更に一週間後

何とか20mクリア。

形も動きも全然違って何回も食われて失敗に終わった。  
十回挑んで何とかクリア。

「漸く終わった・・・何時の間にやらLv96に成ってる・・・」

《よし、一回目の転生としようか、そのあとは今までの人形とは違

う本物の生き物と戦ってもらう。

でも流石にそのレベルじゃあ、つまらゲフン、修行になりにくいか  
ら転生してもらおう。》

「おい、今つまらないって言いかけただろ。」

《何のことやら……掲示板に俺が見たッ……お前の状況に  
相応しいだろうモノを貼っておくから好きに選ぶと言い。》

「さつきから本音駄々漏れだな……POPの機能は買物、ボ  
ーナス、自己ステータス、道具<sup>アイテム</sup>収納……他にもなんか在るみたい  
なのだが……???はどうやったら使えるように？」

《ボーナスの欄にそのときが来たら追加される。》

「了解。」

《じゃあ、次の職業は？そのまま戦士族で良いか？》

「ああ、ただランクを上げてくれ、ファイターからウォーリアーに  
Lvがこれだけ有れば条件は満たしているだろ？」

《ああ、可能だ……よし、設定完了だ、明日になったらラ  
ンクアップしての転生だ。》

「りょうかい。」

流石の死闘のあとか、すぐに寝る事が出来た。

二日間休憩無しの死闘をすれば当たり前か。

**第参話    クエスト・・・イベントアイテム？（前書き）**

此処からは（改変）前と似たような形にしていくつもりです。

どんどん短くなる・・・

## 第参話 クエスト・・・イベントアイテム？

さて、

クエストLv1「黄巾の乱」

制限時間20:00

クリア条件

- ・黄巾賊の壊滅
- ・連合軍の壊滅
- ・時間の経過

のいずれかを満たしたとき。

ボーナス：悪性転生者の殺害、消滅

を受注したんだが・・・

まだ、この水銀の幕のようなものをくぐることに慣れないため、もう十分此处で立ち往生している。

クエスト自体はそうでもないのだがこの門をくぐる事に勇気が必要、時々変なものが見えるから。

ピンク色の髪とか赤色の髪とか青色の髪とか妙にカラフルな髪をした子供たちが・・・

対人戦闘は・・・あのチュートリアル2でSをとった後経験値とマナのために狩ろうと思ったたら、

《そんな楽な真似させるわけが無いだろう?》って言って人形の強度は人間と同じ攻撃は人間の半分と言う単なる一対三十の戦いになった。

まだ攻撃力が半分なのは良心なのだろうか・・・

と、そのような事があり、まあ、対人戦には慣れたものだ。

出血とか感覚とかは今の種族柄、問題になら無いだろう。

・・・

・・・

・・・

何時までもここに居ても仕方無いか・・・

・・・よし、行くか。

そしてそのまま・・・とは言えない、両手に二本の槍、右が長く左が少し短いを持った臨戦状態で、

ゲート  
門に向け駆け出しそのまま飛び込んだ。

「ヒヤッハアアアア!」

忘れていた、テンプレ「天空から落下」の事を。

あの野郎、ノリでやりやがったな。

まだ、この高さなら問題ないだろう。(地上50m)

・・・あれ? なんだかおかしい。

槍が重いと言うか・・・

身体が重いと言うか・・・

・・・・・・あ・・・

Lv1に成っていたんだった・・・

やっべ、ATKとSPDに半分ずつ振ったといってもLv1じゃ転生前の身体能力の100分の1・・・もしくはそれ以下かもしれない

着地で失敗したら即死しそう。人外では在るが50mからだとか大ダメージから即死の心配が在るな。

何処かに柔らかい……クッションになるようなものは……

あ、あった。

ズドンッ！！

ゲハアッ！！

「黄色い布を入手した」

「しかし、持ち物が一杯だ。」

「黄色い布は呪われている、捨てられない。」

「黄色い布を倉庫に送った。このクエスト中、このコメントは省略されます」

は？呪われた黄色い布？

持ち物を捨てて新しく入れるじゃなくて倉庫に直送？

なんで……ツチ

背後に横薙ぎ、今足元にいるクッションが身に着けていたのと同じ黄色い布をつけた奴が斬りかかって来ていたのでから空きの横っ腹に槍をぶち込む。

ゴキヤツ！！

||||| 血で真つ赤な布を手に入れた（

中略）呪われている（後略）

一度に大量の骨が折れ、二・三本反対側から飛び出している。

そのまま他の者に対して飛んで行き……飛び出している骨が刺さったりその血が目に入ったりで大混乱。

そこで——流石に大人数の胸をなぎ払うのは無理なので——数人を吹き飛ばし、動きを阻害し突き刺す。

流石に被害者以外はもう戦闘態勢に成っている。

最初の一撃は自分でも予想外だった。

殴り倒せても殴り飛ばせるとは思わなかった。

俺はレベルが下がっていると知っているから慢心しない。

正確に、すばやく始末していつてやるぜ。

心臓目掛けて突きを連打する。しかし、後半何人が突く時にすでに心臓を守っているのが居たりして、殺し損ねたのが三割もいた。

——剣は粉碎して肋骨は砕いたけど。

腕も使いものにならないんじゃないかな？

「かち割れる！！」

斧に持ち替え恐怖を煽るために力いっぱい脳天から割る。

割断・・・何処かの誰かを思い出しそうになるがあれは槍だ！！  
・・・多分・・・

「死ぬか！！消えるか！！土下座しても生き延びるのか！！」

そう言いながらも魔神剣の如く衝撃波を飛ばしながら近場の敵を直接割断していく。

「ハッハア真つ二つだ！！」

妙にテンションが上がって来た気がするが気にしない。

「消し飛ばえイ！！」CV：若○

残り時間10分から

魔力放出をフルに使い、広範囲なぎ払いをひたすらに行う。

だが、

三分でS P：0に、そのあとはアイテムで回復して少し慎重に技を使って時間まで戦いきった。

入手したもの・・・

黄色い布×50

血で真つ赤に染まった布×50

これで新しいものが出来ます。  
作りますか？

Yes / はい / もちろんさ！

・・・え？拒否権なしなの？

完成しました。

〓 〓 教祖なピエロの服一式を手に入れた。 〓 〓

〓 〓 これには強力な呪が掛かっている。 〓 〓 〓

〓 〓 捨てる事が出来ない。 〓 〓 〓

選ぶことすら!？

## ステータス一回目

総レベル 96

現在Lv 34

名前：.....

職業：戦士

クラス：ウォリアー(2)

\*素質値

能力名 一元↓特殊ボーナス追加後 素質ボーナス追加後

HP ー 30 ↓ 30 ー 30

SP ー 7 ↓ 10 ー 10

ATK ー 18 ↓ 20 ー 27

DEF ー 18 ↓ 20 ー 20

INT ー 7 ↓ 10 ー 10

RES ー 7 ↓ 10 ー 10

HIT ー 13 ↓ 15 ー 10

SPD ー 11 ↓ 15 ー 21

計 ー 111 ↓ 130 ー 143

・基準

合計100ポイントが平均、だが人によって上下する

\*最強装備

教祖なピエロ装備

悪夢の装備、装備して拠点から出ると意識を乗っ取られる。

スキル  
\* 固有技能

・ レベルアップ

一定量経験値魂を集めることで能力が素質値に依存して全体的に上昇する。

しかし、筋トレなどをしても多少経験値が貯まり、かすかなボーナスが付くだけで普通の人のように腕力が上がったりしない。(例：腕立て伏せ一回毎に【経験値1】と次回レベルアップ時にATKにボーナス【能力上昇値+0.000001%】)

・ 経験値取得 C

はじめはEだったが、チュートリアルドール練習用人形での修行中に効率良く経験値魂の破片の集め方を頭ではなく魂で覚えたため徐々に上り現在Cランク、これはゲームでの取得量と同じくらいである。

・ 限界突破 EX

LV、能力に上限がない、本来レベル上限は9999のところそれ以上に上がることができるが、必要経験値も増え続ける。

素質ボーナスにも限界がないため、頑張れば生まれながらの人外もなれる。(赤子で腕力が大人を超える等)

・ 異端回避

特別に与えられた今は意味の無いスキル。

決まった年齢までにその年齢にふさわしい身体能力になる封印がかけれる。

赤子の時は赤子らしく非力として居られるため人外認定はされにくい。(身体能力限定)

・ ????

まだ使えないスキル

詳細不明

・???????

本来持つ筈だったスキル

この仕事にむいてるらしいが取り扱いが難しいらしく今は没収されている。

詳細不明

マスタリー  
\*熟練度

斧 4 0

剣 3 6

槍 3 2

拳 2 7

銃 1 0

弓 6

杖 0

・BP500で新項目追加可能。よく使うモノなら追加したほうが上達しやすい。

黄巾の乱二回目 狂気乱舞（前書き）

・・・安定しない

## 黄巾の乱二回目 狂気乱舞

キング・クリムゾン！

時間は消し飛び……

『結果』だけが残る！！

そして1週間後

強制的に出撃させられる前にクエストを受け、出撃しなければいけない。

残り時間はあと一時間ない。

装備を確認しもう一度、黄巾の乱に行く事にしよう。

評価が高い時に何を貰えるのかも気になるしな。

何を装備していこう……

家の倉庫を確認するか……

ん？

ああ、このなんかいやな予感のする装備どんな能力が見ていなかったな。

もし呪われていても能力が高ければ解除方法がわかるまで装備していても良いしな。

〃 〃 〃 ダイスロール 〃 〃 〃

〃 〃 〃 3 5 6 / 1 7 〃 〃 〃

〃 〃 〃 失敗 〃 〃 〃

〃 〃 〃 強制装備 〃 〃 〃

は？

「この装備は、一度出撃しないと外せません。」

おいおい、本当に呪われた装備かよ。

でも、なんだよ、このハイスペック。

これ着れば、一般人でも最強クラスの下のほう……くらい行くんじゃないか？

やべ、外そうとしていたらだいぶ時間食っちゃった。

アイテム、適当に携帯袋に入れて急ぐか。

・

・

・

さてと、黄巾の乱で、

ん？同盟願？

ああ、これでどっかの陣営と同盟できるのか。

何々……開始の前に行って自力で交渉？

要らんな、これだと、取り分が減る。

縛りも多いだろうし、経験値稼ぎとかには向かないな。

これでよし、っと

・

・

・

今度は、普通じゃなくて特急みたいな感じで、前より早く目的地に着くんだってさ。

でもどうしようかな、今まであまり拳の武器あまり使ってなかったからなあ……

これだけ強ければいいか。

でもこの装備イノセントを移動できるスペースが無いんだよな、マナ増加屋とか入れたかったんだけど1/1で特殊イノセント（犯ヴァーガー屋）入ってた。

どんな能力なんだろう。

《まもなく到着だ、覚悟を決めてお待ちください、こんな感じか？》

でも、このアナウンス、何とかならないかな？  
 つてかなんで渋い声なんだよ！！その声なら後半の中途半端な敬語  
 やめろ！！

そんな事をいいながら目的地に飛び出した。

「アラーツ！」ズドン！！

「テメエよくも兄貴を、死ねえ！！」

「らんらんー」

⌈  
■  
...  
■  
■  
■  
—  
!  
!  
!  
!

「どうしつガ！！や、やめ・・・」

「嬉しくなるとついやっちゃうんだ」

「ああ？・・・な、なんだあ！！あれは！！」

「犯ヴァーガーだ♪」

うあー

「。ナル。は今ダンスに・・・

~~~~~

ミッション1 三国志外史―黄巾の乱―

時間内に1000撃破	43861/1000	成功
敵中隊長格全撃破	20/20	成功
敵総大将撃破	1/1	成功
三姉妹撃破or捕獲	3/3	成功
諸侯に対する攻撃	壊滅的	
同盟相手	――	
最大コンボ	2862 HIT	
撃破数	43861人	

総評価――100over/100 ランクEX

〓〓〓クエストクリア〓〓〓

〓〓〓お疲れ様でした。〓〓〓

〓〓〓ランクに応じた報酬が与えられます。〓〓〓

〓〓〓報酬〓〓〓

P○Pの機能が一つ開放されました。

経験値+450000

1000000HL

1000000マナ

〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓

・・・ハア？

ちよっと待て、行き成りなんで終了？

気がついたら評価、報酬画面？

何があつた

ん？ちよつと待て、あの装備全部あわせるとあれに成らないか？あの…赤毛のピエロ、ちよ、ま、

〓〓〓拠点に戻ります〓〓〓

――装備の能力が発動――

一部の記憶があやふやになった。

発狂地獄 二回目の別視点バージョン（前書き）

難しい・・・先行きが不安ですが、
精一杯頑張ります

発狂地獄 二回目の別視点バージョン

Side ○○

「今日はどの歌から始める？」

「ちいはいこれからはじめたい！」

まったく、この二人は

「歌う順番はもう決めてあるわよ、開演まであと半刻しかないのに
今から話し合い始めても間に合わないでしょ？」

「「え」」

「仕方ないでしょ、二人ともわがままばかり言って譲らないんだから。」

それにしても、外の騒がしさがいつもと違った感じで・・・何だか近い？

「ねえ、二人とも何だか外、変じゃない？何だかいつもと違うと言
うか・・・」

「ん？そういえば何だか聞こえてくる声が違うね」

「これは・・・何だろう、喧嘩には何だか変だし・・・」

「ちょっと・・・何だか悲鳴が混ざってない？」

「・・・確かに、いつもの叫び声と違って何だか必死な感じの音が
混ざっているわね。」

「・・・ちよつと、外を見てみる。」

そう言つてちい姉さんが外に顔を出し様子を伺う・・・
すぐに顔を引つ込めた。

何だか信じれないものを見たような表情でこつちを見る。

「ちよ、ちよつと、急いで逃げる準備して。なんか皆が剣まで取り出してる。」

「え？どう言う事？どこかの軍が攻めてきたの？」

「ちがう・・・皆黄色い布つけてたし、何でか分からないけど・・・
何だか普通じゃなかった。」

「普通じゃない？」

「だって・・・ドンツ！！！！！！」

「・・・rア アアア a a a n！！」

一人のおかしな雰囲気の方が天幕の中に入ってきた。

「ひっ・・・」

「な、なに！？」

「う、腕が・・・」

その男は片腕が無い。

だがしかし、痛みを感じている様子が無い
そして、足を引きずるようにこちらに近付いて来る。

グッ・・・

兵士の歩みが止まる。

私は、視線を下に下ろすと、一人の兵士・自衛団の一員（じきん）だろう
が男の脚2しがみ付いていた。

「お逃げ……ください……陣の中は……半数が、……こ、
この者のように……」

「……アアアアa a a n!!」

ザシュツ!!

「グア!!」

男が兵士に剣を突き刺す。

そして刺したまま横に払い、脚にしがみ付いていた兵士を転がす。

「あ、ああ」

「こ、来ないで……」

「だ、誰か——!!」

ズシャ

天幕の入り口がナニカに切り開かれる。

其処にいたのは

返り血で体を真っ赤にし

中には四肢のどれかを無くしている者もいる

目の前にいる男と同じ目をした、集団だった。

「……rウウウウウウuuuu!!!!!!」

「side out」

another side 霸王

鍛錬は十二分、士気は高く、策も練った。

低い損害で終らせれる戦のはずだった。

しかし、あれの、あれのせいで、数倍、もしくは十数倍の被害が出てしまった。

攻め込み始めて、向こうの動きが無かったため、所詮は賊か、と思っていた。

敵陣に攻め入ってはじめに見たものは、

黄色い布を赤く染め、異様な雰囲気の集団と、足元に転がる大量の死体

それらがこちらに気付き、グリーンといわんばかりにこっちを一斉に向く。

その異様な雰囲気、不気味さにのまれ、一瞬動きが止まるが、各将の号令とともに攻め始める。

やつらはおかしかった、胴体を袈裟に斬りつけても、腕を切り落としても、何も無かったかのように攻撃をしてくる。

まるで何かに操られているかのように。

一部の兵から妖術だ！の声も上がり士気が下がりがけたが将達が首を落とせば倒せると鼓舞し、何とか士気を保つ。

そして、集団の中心付近に来たとき、より、異様、否、異常な集団がいた。

黄色い服、赤と白の縞々、真っ赤な髪、異様な存在、ある一人の異形ともいえそうな男？を中心に、数十人が踊っている。

その集団は、こちらの兵が切りかかっても踊りを止めず、不可思議な動きで避け、ほら、また一人。

「乱、乱、流ー！！！」

ドカ、バキ、ドガッ！！

器用な三連激で吹飛ばされる。

隣にいる一刀が信じられないものを見るような顔で中心の激しく踊っている男を見ている。

さて問いたですとしよう。

「一刀？あの男に関して何か知っているわね、言いなさい。」

「あ、ああ、言うがちょっと待ってくれ、確証がほしい、何かを言っているのか聞こえそうなんだ。」

「仕方ないわね、少しだけ待ってあげる。」

「らんら、らんら、らんららんら、らんららんららんらん
らんらんらんるーーーらんらんるーー
これかこれかこれかこれかこれかこれかこれかこれか
あつらーあつらーあつらーあつらー
あらーー
らんらんるーーー
・・・・・」

「うそだろ、嘘だと言ってくれ!!」
「ちよつとどうしたの一刀!!」
「なんであいつがいるんだ!!」
「一刀!!、落ち着きなさい!!そしてあれはいったい何なの?」
「ハアハア・・・ふう、ごめん、取り乱した。
でアイツに関してだったな、ある場所では教祖とか狂気のピエロ・
・道化師だとか言われている。」
「宗教家?」
「そんなものじゃない。場合によっては撤退も考えたほうがいい。」
「どういうこと?撤退だなんてそんな「兵の大半を失う事になるか
もしれない」っ!!」
「黄巾のやつらを見ただろ?あれは、おそらく洗脳とかされた結果
だと思う。」
「・・・」
「なるべくアイツを見ないように待機だ。もしかしたら帰ってくれ
るかもしれない。」
「おそらく、周りにいる奴の数倍は強いだろうと思う。」
「弱点とかは無いの?」

「分からない。あいつにはいくつか種類がある。そのどれなのかも分からない。でも長期戦だけはだめだ。あの踊りに感性が合うと間違えなくあっちに行ってしまう。」

「それで、どうする？戦うか、後退して、待機か。」

・
・
・
・
・
・

そして、私は可能性の薄い待機より、戦う方を選び全軍を投入し、周辺のやつらを先に片付け、大群でアイツを押しつぶそうとした。所詮は一人、数には勝てまい、そう思っていた。

しかし、奴はそれをあざ笑うかのように素手で渡り合い時には、何か食べ物のような物を投げて攻撃してきたり空に跳んだと思ったら巨大な食べ物や、お盆にのった定食？を落としたりもしてきた。

そのたびに一刀が何かを叫んでいたけど、煩かったので少し黙らせた。

正直、春蘭たちが巻き込まれていない事が幸運だったとしかいえない

そして、少ししたら、奴は初めからいなかったかのように消えた。

消えて少ししてからあれが去ったと実感して不覚にも座り込んでしまった。

周りを見てみると戦っていたものたちは互いに抱き合い生をかみ締めていた。

一刀だけが他とは違う反応をしていたけど・・・どうでも良いわね、

それは。

壁は大きいほど燃えるみたいなのを言ったけど、
あんな天災はもうカンベンしてほしいわ。

発狂地獄 二回目の別視点バージョン（後書き）

とりあえずオリ主の元のレベル

17

戦闘による経験値でのレベル

24

ボーナス経験値による現在のレベル

60

1週間後のレベル

68

45000人から力を短時間で集めた為吸収効率が跳ね上がり
生2・03% 死5・46%

申し訳ない、早く自由度をあげたいんだ。

考察 初めての敗北（しばう）（前書き）

うん、最近デイスガイアの小説が増えてきた気がする。
この小説の影が薄くなる・・・元からか。

4の武器や技も出したいのだが、やる時間が無かった、そしてPS
3が故障・・・

まあそれで、こっちに時間を使っているのだが・・・

うん、粗雑な物だが、出来れば楽しんで欲しい。

おまけを編集 6 / 8

考察 初めての敗北（しばう）

さて、前回のクエストの最中の出来事は覚えていないが、かなりの大人数を短期間で倒すor殺す事で飛躍的に吸収効率を上げれることが分かった。

更に、開放された機能が『装備進化』と言う素晴らしくも難しい機能だった。

この機能は武器を経験値のようなものによって成長させ一定レベルで武器が変質すると言うもの。

しかし武器の経験値は確認できず、もしこの機能で経験値の足りてない武器を進化・成長させようとするとエラーが出て武器の経験値が無くなる。

要するに自分が絶対これなら大丈夫と言う状態でやらないと・・・いや、もしそれでも、失敗すれば、それまでその武器を使って倒した数以上をその武器でもって倒さなければいけないということになる。

しかし武器の経験値の上がる条件は種類によって変わるようで、刀とかは妖刀と言うべきか・・・血を吸うというか・・・その剣を持つて普通に斬れば言いのか？まあ、血が関るのだろう。

そんな感じの説明があった。
普通に使えば問題ない。

そして試しに最初の頃から使っていた初代愛用の釘バット（コモン）を成長させてみた。

すると、レベルが2上がった。全能力が常時+20%されるらしい。これは魅力的だ。

とりあえずATK屋456、SPD屋342、HIT屋268を入れておいた。

レベルも上がった事なので、この釘バット×2のレベルをあげれるところまで上げておこう。

アイテム界にいる間は日付が変わらないからレベル上げは今のところここが一番効率がいいと思う。

・・・でもやっぱりクエストの方が効率いいかもしれない。

キングクリムゾン！！

1週間、時間をふっ飛ばす！！

b y 仮名：神

ふう、さて、釘バットもLv30超えたし、レベルも68、そろそろ董卓討伐戦に挑戦するか。

〓〓お知らせ〓〓

ようやくベースパネルの設置が可能になりました

b y 神（仮）

Lv2クエスト以下の設定でよろしいですか？

同盟なし

虎牢関から

ベースパネル崖の上

制限時間30分

目標1000人撃破

ボーナナス条件 各武将撃破

ベースパネル使用

董卓討伐戦、第三勢力

ニア Yes

No

スタート
開始

さてと、ベースパネルのおかげで何処に出るのか分かるようになったのは良いが・・・

どうも様子を見るとまだ動くのには時間がかかりそうだ。

門が開くまで待つか、

さすがに連合のほうをいき成り襲撃とかは無理がある。

武将がうようよいるからな・・・このレベルなら勝てなくても逃げ出す事は出来るだろ。

いや、この世界の基準が分からないからどうか分からないな。

ろっと！・・・もといおつと、そろそろ動きがありそうだが、目指すは乱戦のど真ん中、しかし目を付けられないように地味に、密かに其処まで向かわねばならない、ということで崖を、目に付きにくい場所から降りて戦場のど真ん中に釘バットで邪魔な奴を殴り倒しながら向かう。

・・・何だろういくつか視線が突き刺さっている気がする。

——中心から少し門よりの所——

其処には最強の武将といわれる、呂布が居た。

「……………」

「どうしたのですか、呂布殿？」

「…向こうからなにか来る」

「連合の奴らのことではないのですか」

「……………違う」

「なぜ違うと？」

「……………気配、強くて薄い」

「強くて薄い？・・・よく分からないのです。」

呂布は戦場に向かい歩み始めた。

「伝令！！」

「どうしたんだ？」

「側面から棍棒のようなものを持った男が一人前線に乱入して来て軍に関らず攻撃を仕掛けてきております。」

「何で一人来ただけなのに伝令を？」

「は、はい、奴は一撃一殺の勢いで暴れていて我々では適わず数が減る一方、なので指示を仰ぎに来ました。」

「・・・棍棒のようなとはいったいどういうことなんだ？」

「それは・・・木製の棍棒に金属らしきものを打ち込んだ不思議なものでして・・・」

（まさか釘バット？）

「仕方ありませんね、近くにいる武將に当たらせてください。」

しかし、その伝令が将に届く前にこの事は解決する事となる。

——主人公（名無し）——

「オルアアア！！」ズガアア！！
近くにいた奴をなぎ払う

「ブーメラントマホーク！！」
釘バット（一応だけ斧扱い）をブーメランのように投げ遠くに
いる奴に攻撃、5・6人目で止まってしまったので、最低限を素手で
殴り退かして、釘バットを拾い振り向きながらフルスイング。

「グラビトンフレア！！」
一人（数名巻き添え）を打ち上げそれより高く飛び回転しながら斧
（釘バット）の頭で押しながら地面に落とす、その時の勢いで周り
を巻き込む。
途中で（被害者が）だめにならないように手加減をする事も忘れな
い。

これで大体300と18・・・

ゾクッ！！

右後方より危険を感じ右に釘バットを持って行き盾にすr・・・し
まった！！

そう思ったときには遅く大きな鉾の刃が釘バットを砕き、そのまま
胴を抉る。

俺は釘^{これ}バットが木製だと言っ事を忘れていた。

これは現実^{リアル}、ゲームと違い武器が壊れる。

それ故、木製武器は『金属と比べ脆い』ため攻撃を防ぐ事は難しい。
迂闊だった。

そう考えながら

体が自分の作りし死体の転がる所へ飛ばされるのを感じながら意識
を失った。

おまけ——これは未来あるかもしれない物語。

やあ、十数万年ぶりだね。

いや君たちにとってはまだ、若く弱い私の物語を見ている最中かな？

私は……今までの名前が多すぎてどれを名乗ればいいのか分からないが、

今回与えられたルシフェルを使っておこうか。

私は仕事柄、キャラも一定でなく、名前に至っては世界ごとに別の名前って言うくらいだった。

今回、私を与えられた仕事は、新しい転生者^{ヤッ}を見つけ、そいつに、気に入ったら能力を与え、問題児狩りなど行うというものだ。

まあ、ぶっちゃけると、私が作れる世界の色彩が少なくなってきたから私の代わりを探すということなんだがね。

私は基本バランス型でね、転生する際に多少の大小はつけていたけど……まあ、それはいい。

つまりはバランスが取れていると特化型の物語は難しい。

それでだ、

いろいろ考えたんだ、そして、最初に四つのカードを用意した。

パワー
攻撃特化、
ディフェンス
防御特化、
スピード
速度特化、
テクニク
技術特化

今回はとある人^{読者}の薦めにより速度^{スピード}にする事にした。

おっと、時間のような続きはまた次回。

考察 初めての敗北（しぼう）（後書き）

本編、おまけの最初の世界、何処がいいのか悩んでいて・・・
作者が知っているモノに出ないと無理だが・・・
いい案があつたら言ってください。
感想待ってます。

その後 能力追加（前書き）

がんばりました。直すかもしれません。

その後 能力追加

目を覚ますと其処には知らない……。いやいやそうでなくて、神殿と王室？を足して割ったような天井だった。

「おお、転生者^{ゆっしや}よ。死んでしまうとは情けない。」

・・・第一声がそれか・・・

「さて、死んだペナルティーだが……。持ち金の9割な。」

九割イイ！！

おいおい、ゲームだと途中からインフレ状態に成ってそれほど重要じゃなくなるが、リアルじゃかなり重用だぞ！！そしてまだインフレになるような強さは持っていない！！

「えっと、今大体200万HLあるから180万もらっていくぞ。」
「は？」

「おい、四捨五入するな！！せめて196万だろ！！」
ちなみに195万と7431だ。

「こっちのほうがりいいいだろ。」

「そんなんで4万は大きいぞ！！」

蛇足だがHLは金銀銅のほぼ純度100%の硬貨

「ああそつだ、前に航空機隊一個師団落とす程度になったら世界作るって言っていたが

世界によって強さの基準違うから三桁になったら任意でいけるよう

にしてやる。

500 になったら強制にはじめるがな。」

「話し聞けよ!!」

それも重用だけどさ

「はあ、仕方ない。

で、どうだった？初めて死んだ感想は？」

「ああ、だんだん視界が霞んできて、痛みすら感じなくなってくる・
・あまり体験したい物ではなかったな。そして、防御力の重要さに気がついた・・じゃなくて!!」

「ここにあるお前の本体・・否、セーブデータのほうが適切だな。
オートセーブが原作キャラとの遭遇時などに設定してあるから・・
よかったな、その前の三百はちゃんと倒したことになる。

壊された武器も壊れてない事に成っているな。よかったじゃないか。

」

「確かにそれはよかった・・・って違う!!」

「大丈夫だ、新しい能力が入手できるだけのマナがあるじゃないか
一つだけどな。

残りは建物を建てるのに使えばいい。はっきり言って建物も重用だぞ？

だが注意しろ、土地も買う必要があるからな。」

「そつえば前ので10万マナ手に入っていたな。・・・もついい
よ・・・。」

「ようやくあきらめたか。今ここで変えるか？」

「いや、拠点で考えながら変えることにする。」

そして、外に出るため反転しようとする。

「そうだ、忘れていた。手に入る能力は使って成長させなくちゃならないからな。」

「最初はたいして使えないと言うことか？」

「そこはなんとも言えないな。」

B Pで強化する事も出来るが・・・強くて世界からの修正を受けやすい能力であるほど必要になるぞ。」

なるほど、世界に深く干渉するタイプはコストが高い、と。

「だが世界に干渉するタイプでも作用範囲の大きさによっても変わる。これも覚えておけ。」

時間だと世界全体になるからコストが高い。だがこの前に『物の』などが着いて単体の時間となると多少コストも下がる。まあそんな感じだ。一度に出来る数とか条件付けをしても多少よくなるかもしれないな。

鍛えていく理由は世界によって修正力が違ってそれによる能力の強さが変わるのを感じて知るためだな。

一つ目で10秒時間を止めていたのに次で5秒だけとなったならそれが原因でやられるかもしれないからな。」

「あくまで可能性か・・・だが、いい事を聞いた。ありがとう。それと、理由は最初に言えよ。」

俺は出口に向かい歩き出す・・・

「おっと、能力の所の数値は許容値キャパシティー、コストがこれを超えないようにな、

項目は残りポイントの数になるが能力が選択不能になったりはしないから

今が・・・5だから、たとえばコストが4の能力をつけたあとコスト2のをつけたりすると・・・

コストが許容値を超えて、

能力が暴走したり、状態異常とかの問題が発生するから。」

「先に言えよ！！聞き逃したらどうするんだ！！」

さて、拠点に戻ってきたが・・・先ず、能力をどうするか・・・

能力は〴〵程度の能力表記とそれ以外があるのか・・・

付与師のような能力も魅力的だし、

重力もいい、時間もいいがコストが・・・

魔法とかも良いな。

え？なにこれ、見稽古？ああ、あの人の

コストは・・・最大許容値+1？

・・・つまり、強すぎるが故に虚弱になると・・・

確かに、これ一つで能力入手し放題になるな。
でもなあ

とりあえず今回は『付与師』にするか。
応用利きそうだからな。

15万マナをBPに変換
1万BPで付与師を入手
残りで建物を購入するか。

武器庫に鍛冶場、図書館を購入。
これで土地が無くなった。

土地の拡張10000BP まだ無理だな。

付与の仕方がうまくイメージが出来ないため、武器を打ちながら付与してコツをつかもうと考えた。
正直、うまく作れるようになればあの武器を再現できるかもというのが大きい。

ウエポンマスタリーの一番下に『追加5000マナ』とあったので
選択し、鍛冶師を追加・・・

したつもりが入力ミスで家事師に成ってしまい『追加10000マナ』で正しく追加した。勿体無い。

よく見ると武器熟練度^{ウエポンマスタリー}が熟練度^{マスタリー}に変わった。
武器じゃないの混ざったからかな？

雑貨屋で鍛冶用道具を買い……

途中で金が尽きたので、稼ぐため、アイテムダンジョンに向かった。

おまけ

さて、前から数年かけてようやく、

不運にも、事故で、亡くなってしまった、欲の強すぎない人を見つけた。

趣味のおかげで、つれてきた所でテンプレで済ませてくれそうだ。

うん、この子に決めた。話もちゃんと聞いてくれそうだ。

前の6734人は人の話を聞かなかったからな。

少しなら許すけど暴走しすぎでそのたびに始末して……ああww
w心が痛んだよwww。

一番よかったのは・・・そう、久我直路だ。

彼はよかった、話は聞かないが真っ直ぐだった。
しかし、兄貴分とかじゃなくて完全な兄貴キャラだったのが問題だった。

そう、

短命だったのだ。

彼の最後の台詞は何だったかな？

そう、

「三度目の人生を与えられ、そこで俺は光どころか時間にまでたどり着いた。もう満足だ。」

だったかな？

彼は凄かった。他が完全に停止するほど加速したのだから。

いや、あれは其処まで自分の時間を引き延ばしたといったほうがいいのかな？

まさか、能力の対修正力を超えるとは予想外だった。

彼は、速さを求めすぎたのだ。

そのせいで、神が「葉が燃える、始末してくれ。」と言って来たのだからな。

閑話休題、それは置いておこう。

それ以来、制限リミッターをつけるようにしたからそんな事は起こっていないのだから。

さて、

>五代目『速刀・錘おもり』<を迎えに行こうか。

え？何で五代目か？

それは、初代の久我君までろくなのがいなくて、それからも人欲がで在り過ぎたり、
まあ、私の注意を聞かず、早急に死んでしまったのが一番多かったな。

この子ならきつと五代目に成ってくれる。そう思いも込めている。

おっと、長話が過ぎてもう時間だ。

わるいね、これはあくまでおまけなんだ。
また次回を待ってくれ。

その後 能力追加（後書き）

本編最初はFATEから行こうかと、うん今回の能力が旗のつもりなんだ。

おまけは本編後の話のつもり、だけど逆輸入するかもしれない。

今回出てきたやつの正式名称？は

。。。作の変体刀―人刀じんとう―体型ヒトガタナ《人刀》―の速刀・錘

ってとこかな？

うん、気にしないでほしい。

・時間ができて刀語みてついやっちゃったんだ。後悔はしていない・・・

おまけ、

外伝とかにしてほしい人が多ければそうします。

クエスト、キンクリ 初作品作成

キング・クリムゾン！！

~~~~~  
1週間後クエスト終了  
~~~~~

ふう、黄巾の乱は楽に成ってきたな。

剣、斧、槍の熟練度が20あると楽でいい、範囲攻撃も有るから。

この話は置いていて、だ。

道具はそろえた、時間もできた。

さあ、一本剣を打ってみるか。

いきなり日本刀は無理だから西洋の大剣にするか。

刃渡りは・・・80cm

幅は・・・もういいや、今決めた所で初心者にその大きさで作れるわけが無い。

とりあえず適当にこれくらいって素材を用意して整形すればいい。

材料は、大体・・・5kgくらいでいいかな？やっぱり予備も含めて10kgにしておこう。

柄は握り手を滑り止めにして布を巻くとして、25cm + 柄頭で大体30cmくらいかな？

さて、材料良し、道具良し、機材良し、参考資料良し！！

さて始めようか。

——前準備中——

ゴォー——

ガンッ！！ガンッ！！ガンッ！！
ジュウウウウ！！

ガンッ！！ガンッ！！ゴンッ！！ガッ！！ドゴッ！！

ゴシャッ・・・・・・

ガンッ！！ガンッ！！ガンッ！！

~~~~~

↓27時間後

~~~~~  
けっこううまくできた。

途中で力み過ぎて形が歪んだが問題なくバランスは取れた。

しかしだ、

終了後に気が付いたのだが、自分がやっているのは日本刀の製造法だったと。

そして、西洋の剣も所詮は人の使いし物、ゲームや漫画などファンタジーなどに出てくる化け物みたいな肉厚のものを使えるはずが無い。

しかし、自分は、そつちを意識して

しかも、日本刀の作り方で、両刃の大剣を作ってしまった。

振るえる人はいるのだろうか・・・少なくとも長期戦は無理だ。

リアルの三倍、大体9kg以上はあるのだから。

失敗した。

だが、この程度だったら使えるだろう。

もっとでかいの使ってる奴とかもいるのだから。

こうして、初の武器製作はとりあえず無事？に終わった。

俺が目指すのは、四季崎記紀の変体刀、あれはただの時代を先取りした物理法則に則ったものだそうだが、自分はこの付加能力を活かし、それ以上の『俺の変体刀』を作り上げる事だ。

とりあえずの目標は一月、四週間で、絶刀。

頑丈さだな。

さて何処まで不壊に出来るか……。

おまけ

おや？私とは違うようだ。

私は武器を作った事が無い、つまり私は可能性の一つの『自分のみを鍛え続けた』ということかな？

名無しで一括りにできないな、もしかしたら自分の名前を手に入れるかもしれないからね。

これでなんとなく理解したよ。

自分の強さに上限が無いとはいえ、私は、自分の身体一つを鍛えて殴る事くらいしかできないのにどうやって能力を与えていたのか謎だったのだが……この杖によって他の私から力を借りていた、という事か。まあ、殴打する事に変わらないので私にも楽にできるから便利だ。

ん？何で殴るのかって？そういう物だとしか知らないからな

私はこれを渡されてこれで殴れば付与できると言われていただけだからという物が分からないんだ。

まあ、こんな話は置いて。

何処まで話していたかな？

そう、彼いや彼女だったか？

否、やっぱり彼だったな。

何の問題も無く滞りも無く終わったよ。

だけど原作の記憶は薄くして、説明には

漫画に似た世界に飛ばす、第二の人生いや刃生と言った方が良いかな？まあ、精一杯頑張ってくれ。君の良いと思うように生きてくれとかまわない。

といってもナニカ切っ掛けがあるまではちょっと特殊な一般人なんだけどね。

ってくらいしかいってないんだけどね。

時間のようだ。本編がある程度進むまでおまけは中断する事になる。乳児時代なんて話しても仕方ないしね。
どの世界かは物語の中で、

え？私が自分のことを殴る事しか出来ないと今回言ったのに前回バランス型と言っていた事について？

能力のバランスがよく、気弾や魔王球で遠距離も問題なく戦えるからバランス型だよ？

ただ、武器を一使わ（頼ら）ないだけ。攻撃魔法を一使わ（頼ら）ないだけ。能力上昇系魔法はよく使うけどね。

物理効かない奴には魔力を拳に溜めて殴れば大抵何とかなるんだ。今までではそうしてきた、今後もしうしていく。どうしてもって時は上司に可能性の投影。^{かみ}

所謂、某世界の第二魔法を使わせてもらう方向で行こうかな、無いだろうけど。

さて、では本当にまた次の機会に。

クエスト、キンクリ 初作品作成（後書き）

初作品の能力^{すてーたす}

銘 初打ち・微熱

能力：熱を付与、未熟故、摩擦熱による発熱を少し大きくする程度。
鰐迫り合いにおいて相手の武器によっては役に立つ・・・か
も知れない

耐熱性が多少高い。

金欠から修行 (黒い思い付き)・クエスト確認(前書き)

少しずつ書いて、ようやく更新!!

金欠から修行（黒い思い付き）・クエスト確認

さて、作品もいくつか作り上げ最初に選んだ《高熱》も86本を経てようやく250 まで来た。

初めはなかなか感覚がつかめなくて50本くらいは温度の上がる条件が変わったりした程度で長期戦で無いと、否、そうであってもたいてい使えないと言う駄作だった。

そして今だんだんとコツがつかめてきて、

資金不足に陥った。

《熱》以外にもいろいろと作っていて、鉄やら何やらを買っていただけだよ？

だって、実際には無い不思議な鉱物、ミスリルとかが有ったから、混ぜたりして使っていたらあつという間に・・・

高いんだよあれ。ミスリル級となると10000HL/gと言う異常さ・・・一千万HL/kgだな

ヒビロカネ級にいたっては時価、大体は200000HL/gと二十倍が最低金額かな

1kgで2億HLは掛かると言う異常さ・・・

まあ、だから資金稼ぎに・・・修行しようかと思つてね。

そろそろLv100に近くなってきたから練武の洞窟とか行けるよ

うにしておこうかなと思って議会に来ているわけだ。
やれることはまだ少ないみたいであまり来る事が無いんだよね

練武の洞窟はあっさり行けるようになった訳だが・・・ついでに軍資金が欲しいも議案として出したんだ。

うん、否決されたよ。

まあ、議員たちのレベルもそう高くなかったから力ずくで可決する事にしたわけだ。

今戦っている所だよ。

おっと、危ない。

机をうまく利用して一対一を繰り返すようにしているから負けることはなさそうだ。

初期位置から移動していき、一列になったところで

超次元断！！

残り三体。槍に持ち替え刺す、棒高跳びの要領でそのまま飛び上がり後ろに居るのを上から串刺し。

そのままの勢いで横薙ぎにして三体目を倒す。

拳に変えてマウントで殴る、殴る殴る殴る殴る殴る蹴る殴る殴る蹴る蹴る！！

正直言って相手は自分よりだいぶ大きい。マウントの意味はほとん

ど無いのでただ起き上がれないように顎を殴り続け脳を揺らし隙が出来たら蹴っただけ。

でも、ウッドゴーレムに脳ってあるのか？

それは置いといて
閑話休題

まあ、無事に可決したわけだ。

いくらもらえたと思う？

2500HLだけだった・・・戦闘でもらった方が多かったのは何故？

なんだか悲しかったな。しかも四捨五入して2500だから・・・

これも置いといて
閑話休題

と言うわけで練武の洞窟で適当に金稼ぎながらレベル上げ、一階でも苦労しただけだね。

だからクエストと逝こう。

いきなり話がとんで分らない？

自分は、まだクエストの1と2しかやっていないのだよ。

簡単で大量に狩る事が出来るから、能力の成長にちょうどいいと言う理由でだ。

どうも同じ物語から来るクエストは全部ランクB以上になると新しい物が出てくるみたいだ。

2のほうで武将の強いのに遭わないように頑張っていたらCランクが取れてそしたら1、2をつないでそこから?????てのが出てきたのだよ。

まあ、あくまで予想だけどね。

まだ開放されていない物を気にしても仕方が無い

それ以降のものを見ていくことにしよう。

- 3 . 妖精大戦争
- 4 . 底級転生者
- 5 . 式紙妖怪×25
- 6 . 底級転生者(二人組)
- 7 . 式紙妖怪×100
- 8 . 低級転生者
- 9 . 魔法使い×100くらい殲滅
- 10 . 魔法使い×約500000狩り 放題 ボーナステージ
.
.
.
.
.
.
.
.
.
.

一つ置きに転生者狩りがある!?
そしてボーナスステージって何だ!!

これ以降も50くらいまでは、5から8割転生者狩りだし、能力別に分けられているものまである。
そんなに転生者に困っているのか？

後半は数と質量の暴力が多い！！と言っても2から3割だけど。

うん、正直困ってる。好き放題やり過ぎで大変なのを筆頭に能力はそれ程じゃないけど精神干渉系だったり。オーバーテクノロジーばら撒いて世界の法則が乱れたりってね。いやゝ末端の奴まで管理が行き届かないのだよ困った困った。

返答ありがとう、だけど地の文を読むな！！後、軽い！！困っているように思えない！！

いやいや、前からやっているけど読心術だよ。そして近くに居ないので脳に直接語りかけている。

何さらつとやってんだよ！！自然すぎて今までも違和感無く話していたじゃないか！！

本番までに直さないと無口なキャラになってしまっうね。

「やつべ、そうだった。」

このままだと無口の暗い奴に成ってしまう。

今さらだね、正直ここに来てから口でちゃんと話しているのは2、3割がいいところ。

五月蠅い！！気付いていたなら言えよ！！

いや、こつちにあわせてくれているのかと・・・

いつも思考を読んでくるから喋るのを忘れていただけだ！！
そもそも・・・

「以下、誤魔化し、愚痴、文句などを30分にわたり言い続ける。
」

「なんか、カットされた！！」

閑話休題
これも置いといて

ん？さてよ、そうだあれとあの能力を持っている奴をああすれば効率よくレベルを上げれる。

そのために必要なのは必殺できる武器に絶対に壊れない拘束具だな。

それが出来ればそこからは楽勝だ！！

武器の作成の方向は決まった。

目標は一月以内完成すればここから先はレベルのほうは楽になる。

いや捕まえるのが大変か。人気が高いから数は多いのだが・・・。

一度ヤツテしまえばいいか。

いや、よく見ればこんな方法が見つかるのか・・・そうと決まれば資金集めに修行、熟練度上げて武器鍛えれば・・・Lv100でもあれば練武のレベル上げに便利な所にいけるな。

クエスト妖精大戦争に行つてからアイテム界にもぐるか・・・百烈拳で武器上達屋を集めて・・・

クエスト：妖精大戦争

ある妖精がいたずらに対しての仕返しに向かい結果、戦争のような大事になった。

正直鬱陶しいので鎮圧してください。

依頼人：善良な外来人

なお、ルールに則り、弾幕戦しかできません
御注意ください。

突っ込み所が幾つか在るが・・・まあいいだろう。

魔力弾を打つ銃を持って・・・

サブマシンガンにショットガン、ガトリング・・・

よし準備完了、弾幕戦の開始だ！！

くくく少・・・青年？戦争中・・・

撃墜率 78.97%

グレイズ 4739

残機 0

評価 C

報酬

50000HL

経験値+45000

おはぎ

今回の評価がいつもより雑だな・・・・・・？

残機って何だ!!

何だよ残機ってなに? エクステンドしろってこと?

ん? 特に意味は無い? だったら入れるなよ!!

え? 頑張ってエクステンドすればいいじゃないか?

どうやってするんだよ!!

(以下略)

閑話休題

正直言って妖精だからとなめていました。

何度被弾しかけた事か・・・かなり情けない避け方をしていたよなあゝ俺・・・

木々の影からだったり堂々と姿を十匹単位で出てきたり...

奇数偶数ばらまき自機狙い...

兎に角、数が多かった。

自分で弾幕がはれるようにならないと厳しいな。

妖精はせいぜい子供くらいの大きさで結構遠くから撃ってくるからこっちも遠くから狙わないといけない。

別に銃でも問題ないのだが、重さから取り回しに難が有る。

うっかりすればすぐに被弾するくらいに弾が多いのだ。

これでもノーマルだと言うのだから、流石と言っべきか・・・

とりあえず、ミッションはやったからアイテム界にいくか・・・

あと1767武器上達屋を集めて・・・

それだけど、イノセントは経験値屋400、武器上達屋1900、技上達屋400いやこれは900にしておこう、これら以外のATK屋とかの上限は取っ払っておこう。やったね！武器の強さに上限がなくなっただよ！！

・・・まあ、上限があるのを限界まで集めておくか・・・

キングクリムゾン
朱色の王！！

金欠から修行（黒い思い付き）・クエスト確認（後書き）

分かる人にはどう言う方法を思いついたのか分かってしまうかな？

結構外道な方法なんだよね。

4週間後 目標に届かず（前書き）

遅くなりました。

いろいろとあつて忙しくて書く時間も無くてっ！！

一人語りのような形式です？

4週間後 目標に届かず

さてさて、転生者狩りで一気にレベルを上げようと考え、必要な武器を作り始めたのはいいけど・・・

流石にまだ作れるような熟練度を持っていない。

要するに無理だったと言う事さ。

変わりに高温低温に電流は結構なレベルになった。

高温は520ケルビン、低温は157Kヴォルト要するに-80ヴォルトぐらい、電流は10万V

更にはまだ真打とは言えないけど絶刀・鉋、斬刀・鈍も出来た。

絶刀は折ろうと思えば折れてしまうし、斬刀はまだ何でも切れるとはいえない。

魔界基準だけどさ。

ウッドゴーレムの上位種の攻撃を正面から受けて鉋は折れちゃったし、鈍ではピンポイントバリアで防がれた。

まあでも十分な力はあるから真打ではなくとも数打として何本も打ってだんだん完成度は上がっているけど数をそろえている。

まあよく考えたら鈍は分子結合とかに干渉して切るんだからそういう概念こめないと作れないな

つてことで今回作った鈍の数打は鈍ではない物とした。

数打の癖に使い手が上の下位からなら斬鉄が出来るくらいの刀だから斬鉄 数打とした。

次は賊刀・鎧でも作るか・・・

例の案はいったん凍結だな。もっと上達して聖剣魔剣を打つようになってからにしよう。

まだ毒が弱く、担い手を選んで使わせるような物は・・・作れないはず・・・。

だからまだ即死と不殺の矛盾概念は出来ない。

死なない程度に殺す事が目的だから出来れば死んでいるけど死んでないが最高なだけだね。

やっぱり不死性を持った奴を使うのが一番かな？

ああ、でもそれなら不死殺しも用意しないと。処理に困る事になるから。

ああ、やっぱり問題が多いな時間を掛けていくか・・・

ハア・・・

今が103レベルだから・・・200いや250くらいで転生するか・・・

いろいろな技術も収めておかないとな。

さて、頑張るか。

今週は新しいモノに手を出してみるか。

そうだなあ・・・大気や地中などの自然から又は魔力、気を水として変換し集める所謂、水属性の刀を打つか・・・

本来は刀と違う物になるから創るつもりは無かったんだが・・・よく考えずとも変態き等の中に炎刀とか刀として否、もはや刀ではなかったり使い方がまったく違ったり（悪刀）・・・

なのでもう気にする事を止めた。

見た目が刀、剣である事を否定するような形でも、使い方が明らか

に違う物になろうとも

——この考え方の変化が魔剣、妖刀の完成に先立つ物だとこの時俺は思っていなかった。

この刀は担い手を選ぶ物でいいか、使う者の実力が無ければただの刀、その程度になるモノで・・・

しかし使いこなせばとっても強いそんなもので素材は如何するか・

・
まだ、全部特殊鋼、魔法鋼、別名ファンタジー鉱物で造るような財力はまだ無い。

出来ても中級鋼で一本ってとこかな。

でも無一文になる。

あゝ何時か、良綱を溶かして新しいのが造りたい。

あの高純度の魔力鋼ともいえる魔界でも最上位に存在する肉厚の黒電を纏い続けるほどの魔力を秘めた剣・・・いつたいどのくらいの力を持っているのだろう・・・早く見てみたい物だ。

さて、50くらいの時にすっかり釘バットでガードして一回死んじやったから今度はそういうことが無いように武器、戦闘時の気の持

ち方に注意して、死なないように頑張るか・・・

残念ながら、記録ほんたいは不死不滅だけど、肉体こきは死んじゃうんだよなあゝ
そこも考えないといけないなあ、相手が広範囲即死とか使ってきたらどうしようもないかもしれないからねえ。

ハァー不安な事がいっぱいだな。

次回には何種類か新しいのを作っておくことにしよう。
半年以内にはおそらく転生となるだろうな。

その半年の半分を武器作り、もう半分の半分を修行とするか。

それでは、

See you again

真打三本（仮） - ボーナス？クエストの前準備（前書き）

先週、親知らずを抜きまして、それも極悪だったそうで。
正直、いまだに食事がとりにくいです。

今日、糸を抜きに行くんだ。

ってことで質はいつもどおり期待しないで欲しい

真打三本（仮） - ボーナス？クエストの前準備

あれから、刀を打ち続けた。コツを掴んでからの成長が早く熱刀、冷刀は割と早く目標にたどり着いた。

熱刀は目標最高温度の1700 を超え1800 まで達した。

鋼を溶かせる温度が目標だったので、こいつを使えば相手の武器が普通の業物とかなら負ける事はまず無い・・・それ以前に熱すぎる刃とその周辺の温度を隔絶しようかと思っている。

冷刀は目標最低温度の - 150 を下回り - 165 まで下がった。こちらもこれまた問題が、なんと水面に刺す事が出来るのだ！！と言っても触れる前から水を凍らせてしまっんだから水面と言うのは過去形となる。

コイツも前述の処理をしようと考えている。

雷刀は本物の雷を常に纏っている様な状態までたどり着いた。

うん、本物の雷とたいして変わらないんだ。

敵味方担い手関係なく雷を撒き散らすから内部に溜め込むように処理しようかと思う。

それぞれに鞘を作り、鞘から抜かないと普通の刀・・・のつもりだったんだけど、存在感が半端じゃない。

外見は赤白黄だ。そこに更にそれぞれを代表する模様、しかし立派な芸術品といえるデザイン。

実際にそれぞれを利用した物なので半自然の模様なんだけどね。

本当は黄ではなく紫にしようと思ったが黄色の方が分かりやすいと思ったから黄にした。

紫は他の物にも使えるからこの色にした。

実はこの三本、非現実鉦ファンタジーを50%未満でしか使っていないモノでも
っと多くバランスのいい割合で混ぜれば
飛躍的に性能が上がるだろう。

水刀はまだそれ程の物ではなく400m/s程度、水道と同じく
らいだ。いや、水道よりは多いのかな？

ここまではまだ準備段階のようなものだ。
実際に理解できる（解明されている）現象を付与する工程更に視認
可、不可に分けたりもする。

次は解り易い概念を付加、そして最後には理解できない、してはい
けないクラスの概念付加。

ここが最終目標だ。

順に例を挙げると水、雷、重力や原子などが第一、ついでに火や氷
は熱として判断するので不可視グループ。

不変、不可視、必中などが第二。

必殺とかの真理に近い物は全てが第三に分類される。

まあ所詮今の考えだ。作れる作りたいものから作るのだからこんな
こと、意味が無くなる。

さて次に俺自身の修行の話だな。

資金難に陥ったり、行き詰ったりした時にも修行をしていた。

知っているか？

俺はレベルUPで頭もよくなるんだぜ……

だから行き詰った時には気分転換もかねて修行をした。

そんなに厳しくないだらした修行だったけど。
せいぜいランダム10体くらいを5 10セット要するにだいたい
アイテム界で5 10階分と言うことだね。

まあそんなこんなで半年たってしまった。

本来はこの半分の積もりだったのだがうまくいくようになってつい
ついがんばってしまった。

で、気が付いたら半年たっていたと言う話さ。

笑えねえ……レベルもいつのまにか150くらい。

転生しておこうかな・・・上のランクの戦士か他の職業で・・・それにしてもまさかこんな短い間でここまでのが出来るとは思わなかった。

熟練度見てみると鍛冶が拳や剣よりも高いんだ。

次いで槍、斧、銃、弓、杖そして・・・何故が一番が家事。

そう、一番熟練している物は鍛冶じゃなくて家事。

そりゃあ毎日やる事だけどさ、他のより密度が低く……く無いな……こだわって下ごしらえとかで時間掛ける事もあるんだよね……休息日の時なんか半日かけて下ごしらえした事もあったからな……日に日に掃除に掛ける時間も短くなって、最初は2時間以上かかっていた家の全体掃除も今じゃ一時間弱で終わる用に成った。

自分は何を目指しているんだろう……こう考えると分からなくなってくる……

戦う鍛冶師とかそんなのを目指しているつもりなだけど……

このままだと戦う家事師につ――

きをとりのおして
閑話休題

さてと、まあ、100UPが目標ってことでLV250越えを目指して修行開始だ！！

お金たまったら武器作るかもしれないけど！！

それじゃまずは・・・クエストのボーナスステージの対50000くらいの魔法使いとやらをやってみるか。

まあ、その魔法使いとやらの実力にもよるけど、
五万でボーナスってあるくらいだから質はそこその、数に頼った
物軍勢かな？

装備は三本の真打、でもこれ等は今リミッターが無いから無差別な
兵器となっている。

鞘に入っている間は大丈夫だけど、出したままにしておくとな柄の温

度が変わらないとかそういうのが意味を成さなくなる。

周辺の空気が大変な事になる。

熱刀は放置すれば地球温暖化が超加速。

冷刀は…永久凍土を作りかねん。

雷刀は…危険極まりないな、ひたすら放電してるんだから。
細かい話になると化学反応で…と言う問題も出る。

まあ、そんなことは後で如何にでもなる。って言うより何とかする。

前に言ったように主に触れた物体のみにはたらくような加工、封印
処理をすればいい。

つまりだ、三本の今現在が一番大きな欠点は対象を選ばない所だ。
持ち主でさえその対象と成り得る。

特に雷刀なんかそうだ。鞘から出している間は常に絶縁タイプの障
壁を張っておかないと即座に感電する。

耐熱耐寒耐電の装備が必要だな。

アクセサリにすればいいか。

首飾り、腕輪 指輪・・・今日はこれの作成で終わるな。

早めに魔法覚えてアクセサリ無しで大丈夫なようにならないとな。

まあ今は目先の戦争に集中する事にしよう。

習作、斬刀・鈍モドキも五百本に届きそうだし、絶刀・鉋モドキも五百近いからな。

どこかで消費しないといけないな。

流石に自分で全部まとめて処理するのは大変だから使い捨てにしたりして少しずつ減らさないか。

でも今回はこの三本で精一杯だな。機会が有ったらで良いか。

いや、バランスをとるために一本だけもって行くか。

明日のために早急にでもしっかりした物を作ってさっさと寝るか。

あ、どんな服で行こう、今回は流石に数が数でしかも相手はほとんど遠距離専門だと考えると、

いつものようなマントとかローブは問題だな。

あれだと中がほぼ私服でも問題なかったんだけどな、仕方ない。一着改造するか・・・

用意する物は

耐電耐熱耐寒のアクセサリに戦闘服

左右に二本鞘をつける装備と真打三本、一番完成度の高い絶刀・鉋を一本

後は保険に道具袋に剣を除いた全種類の武器も入れておく。

250になるまでに熟練度の順位をひっくり返すつもりで、明日か

ら修羅になるつもりで、

むしろ零崎になるつもり…は流石に問題か。

まあ、そのくらいの思いで一心不乱に修行に励もう。

——目標レベルまであと100

真打三本（仮） - ボーナス？クエストの前準備（後書き）

やっぱり話をうまくつなげる事が出来ない。

なんでこつも唐突なかたちに成ってしまうんだろう

なんとなく、二週間前くらいに未来の話みたいな外伝を書いてみた所
まだ早いだろと言われ検索避けしています。

三十話まで行った頃に解除する事になるかと。

一時間耐久！！ - 対五万の魔法使い（前書き）

はい、修行編最初、とりあえず無双

後二話くらい修行はやるつもりです

一時間耐久!!! - 対五万の魔法使い

さて、無事に準備も整ったのでクエストを受けようと思う。

クエストの内容は

||||||||||||||||||||

クエスト ボーナスステージ

五万の魔法使いの軍隊を相手に大立回りをしろ!!!

クリア条件

一時間耐え切る

敵軍の撤退

失敗条件

一時間耐え切れずに死亡する

第二勢力の少年の完全な死亡

ボーナスに関係する事柄

擊破數

少年の被害

自分の被害

コンボ

封殺度

[illegible]

毎回思うけど毎回表示パターン変わるよなコレ。

まあ、今回はわかりやすいから良いけど。

さて、準備は万端だし、早速やるか。

食塩水を入れる限り道具袋に押し込みゲートに向かう。

結果、
10k?入った

轉送地點選択

敵軍一部ピツ

▲ 上空 100 m シェル

ニアEnter Back カチッ

敵軍北部上空1000mから開始します

数値をいじり出現ポイントを決める。

そして食塩水を適当な袋に小分けして入れいつでも使えるように持つ
そしてゲートに入る。

次に見た光景は小さなものが蠢く浮遊大陸。

食塩水を自分にかからないように着地予想地点周辺にまけるように
袋を投げる。

そして銃を装備し、袋が残り50mの所で打ち抜き食塩水をばら撒き、

銃を仕舞い、腰の黄色い刀に手をかける。

~~~~~

side 雑ゲフンツ…一般兵

今我々は聖地解放のため邪魔な逃亡する敵を打ち滅ぼすために進行している

「ん、雨か？」

軽く上のほうを見る。しかし、何かがおかしい……  
そうか、

「何故雲も無いのに雨が……」

「そうだな、もしかして通り雨か？」

そして隣の奴が真上を見る。

「あゝ…ん？っぺっぺツッ何だこれしょっぺえ。」

その隣の奴は……

「はは、まさか、雨がそんな、つてめ、目があー！ー！！目があああああー！！」

目を押さえて転がり始めた。しかも両目。

「おい、どうした？急に転がりだして。」

「水が目に入ったら激痛がつてまたアアアメエエエガアアアアア！！」

運の無い事に何とか目を開けたところでまた入ったみたいだ。

塩辛く、目に入ったら痛い

「つまりコレは塩水ってことか。でもなん…

——大ッ正解イ！！

ん？　　がああああアアアアアアアアア！！」

何か<sup>意識が途切れる</sup>が聞こえたと思つた瞬間全身を焼かれるような痛みが駆け巡り、  
視界が暗くなる寸前に見たのは

頭から黒い煙を上げて前身から血を噴出し焼け爛れている仲間

ああそうか、自分もああなっているのか、とおかしな思考のまま地に倒れ伏せた。

■ ■ B r a c k   O u t ■ ■

~~~~~

塩水ぶちまけたあと少しおいて雷刀を鞘から抜きすぐに投げつけた。

100人弱は削れたかな？

着地してすぐに刀を納めて次に絶刀を取り出し、一番近くにいる生

きている奴に向かい走り出す。

当然雷が発生して、奴らの常識とはかけ離れた威力だったのか、混乱している。

そして俺は近い中でも復帰の遅そうな軍団に向かい走っている。

絶刀の限定奥義『報復絶刀』（斬）と言ってもただ単に丈夫さに特化したこの刀の特性を利用したただの全力の振り下ろし、その後薙ぎ払いに繋げ一人を振るスイングで目に入る中で一番固まっている所にぶつ飛ばす。

そしてようやく後ろに詰めてきた奴らに残っていた塩水1k?をかける。

そして雷刀を投げつけ数瞬置いて回収し、一番燃えやすそうな服を着た居る奴に対して熱刀を投げつける。

そいつが燃え、爆発が起こる。

そして自分はちゃっかり対爆発姿勢。

近くで爆発の衝撃波を受けた者は平衡感覚をなくす者から耳から血を流す者まで色々と居る。

だがそんなことは知った事ではなく引き抜いた熱刀で片っ端から斬って行く。

斬った時に出る、血などが燃えて短距離だが飛んでいく。

刀の血を払い……全て燃え、蒸発し、炭などに関しても振ったときに落ちてしまっているの付いていなかったが……。

そして、再び絶刀を持ち、報復絶刀で相手の攻撃、魔法を避け、かき消しながら一動一殺のつもりで切り倒していく。時には敵を盾にして、時には相打ちをさせたり。して、十数分した所で冷刀に持ち替え地面に突き刺す。

すると地面が凍りつき死体、血の池も凍りつく、無論そこに足を入れていた奴らの足を固定してだ。

実を言うと水刀を鞘から出して腰にぶら下げ最初から水をばら撒いていたためかなりの水分を含む地面に成っていた。

と言っても相手の大半、いやむしろ全部と言っているほどが魔法使い、自分のいる位置から動かないような奴らの集まりだが追い立てたり誘い出したりしながら範囲を広げ一気に凍らせたわけだ。

奴らの中の火を使える奴が魔法で溶かそうとしている。

そんなことをさせるわけが無い、凍り付いて脚が動かない奴らの中にいき冷刀を地面に刺しなおし、水刀を頭の上で高速回転させながら壊れるほどの魔力を流し込み暴走させ一気に水を作り出しばら撒き、ある程度凍った所（周りの奴らは氷像）で冷刀を雷刀に持ち替え、動けない奴らの間を時々斬り付けながら走り回る。

するとあら不思議感電死するものが大量発生。

収束性の無いばら撒くだけの雷を利用した戦い方。

水刀が作り出すのは純水なので電気を通さないのが残念な所だ。

時間があれば雨を降らせてそこで使ってやるのに・・・

今の損害は

- ・水刀大破
- ・ローブ半焼
- ・プロテクター数箇所破損

敵に与えた被害は

約二千ちよつと。

初撃で約200

その後の行動で10とちよつと、

次の爆破で200

余波で100追加で狩って+150

凍死が240、感電死が930

そして今、三本を細かく変えながら300とちよつと。

時間にして45分くらい

何故か半数近くがこつちに向かってきている。

まあ、おかげで第二勢力の少年とやらの死亡率が僅かにでも減っているのはいいことだ。

後十五分、ボーナスのために全力で狩るとしよう。

しかし・・・なんだ、魔界の奴らとだけ戦っていたせいか、人が凄

く脆く見える。

確かに奴らに対しても熱冷雷の三本はかなり、いや結構効くが中にはマグマで料理をしたりマグマの中に住んでいたり・・・極地に対応した奴も多いから困る。

魔王クラスとかだと対艦レーザーみたいな物喰らってもほんの少し焦げるだけだったり殺す気の毒盛られても（二年間の）お昼寝程度ですんだりするから怖い。

そんなことを考えながら水刀にワイヤーをつけて反対には雷刀の柄、水刀を持ち、大きく回しながら歩き回る。

ワイヤーの長さは10m、鍛えた力があるからこそその力技。

かなり効率がいい。柄につけてるとは言え、刀身にも当てているためワイヤーも帯電しているため必殺になる。

残りの十五分は主にコレで行こうと思う。

と言いながら数分後にはワイヤーが切れ味がいいとはいえないので人に巻きつき始めて使えなくなった。

仕方ないので雷刀を密集した集団に投げ込みそこまで冷熱と絶刀で斬りながら取りに行くを繰り返した。

中には使おうとしたのか自ら近づいたように刀に向かい倒れているものも居た。

そんなこんなで残り五分。

雷刀を多く使っていたせいかお守りが壊れた。

ダメージを受けながらも早急に鞘に収めて何とかしたが、やっぱり耐久力が無く温度とは違い、余波では無いせいか持たなかった。

好機と思つて皆して魔法を打つて来るもんだから、世界観を壊さないために使わなかった大次元断を使つてしまった。

しかし、ここは一樣浮遊大陸だったと思うので真横に振つた。

まあ、そこで時間が来たわけだ。

自分も何の対処も無く雷に数秒間当たっていたわけだからHPがヤバイ。

奴らも数に物を言わせて困んで撃つて来るもんだから、最終的には最大の1/4（雷で1/2分）まで削られた。

ここまで抑えたのは絶刀のおかげだろう。

しかしまだ完成度が低いせいか少し歪みが出てしまった。

流石に大型のゴーレムとか、大質量に対しても渡り合っていたので

当然ともいえる。

他の刀だったら2・3体目でへし折れていただろう。
コイツで数十体を破壊してこの程度で済んでいるので
十分に折れず曲がらず刃毀れしなと言えるだろう。

その前に担い手が壊れてしまっただろうから。

閑話休題

今回のクエストは遠距離攻撃、広範囲攻撃が出来る物には確かにボ
ーナスだろう。

最初の頃にやっていたのとは違い向こうからは近づいてきてくれな
い。

そのせいでさくさく狩る事が難しかった。

それでも

撃破数 3219

少年の被害 九割

自分の被害 七割五分（自傷四割）

コンボ 129

封殺度 中の下

ボーナスランク 10段階評価中・・・G（7）

半分以下の結果だった。

おそらく五万といえるんだから九から八割…四万以上は倒さないとAは取れないだろう。

今回は一割も削る事が出来なかった。

まあ、あれだけの数の敵相手に自傷を除いてここまで被害を抑えられたのはなかなかだったとおもう。

レベルにして9UP。

うん、おかしいよね三千KILLして九、能力のおかげで四倍から五倍の経験値を入手している俺がだ。

まあ、Lv150だからそんなもんだよね。

やっぱり魔界の方が密度は高い。

大体中間ちよい下あたりの強さの奴が千単位で出てきてくれると一番効率がいいかもしれない。

まあ、今後は一段階下の強さの奴相手数体を相手に死闘を繰り返すつもりなんだけどね。

しかし、このクエストによって慢心が生まれたせいで
次の戦闘でバツサリとやられ、その次の戦闘で後ろからザックリや
られるのをこのときの俺は知らない。

ステータス、修行開始（前書き）

とりあえず書いてみた。

今後に変更するかもしれない。

ステータス、修行開始

名前：まだ無い

職業：ファイター

性別：男

レベル：1 6 1

ATK：1 6 2 1

DEF：1 6 2 1

INT：8 1 0

RES：8 1 0

HIT：1 1 3 5

SPD：1 1 3 5

スキルマスタリー
技能熟練度

鍛冶 4 8

剣 4 3

斧 4 0

槍 3 8

拳 3 5

銃 2 7

弓 2 3

杖 1 0

家事 6 8

スキル
技能

『倒した相手の力を溜め成長する程度の能力』 解りやすく変更

倒した相手の力を取り込んで成長する。

倒しただけか殺したか、によって吸収量が変わる。

しかし、吸収できる回数がだいぶ違うのでどっちの方がいいかはよく分らない。

現在 殺す 10・6% / 20・0% 倒す 2・13% / 5・0%

経験値増加屋が400まで入れれるためあわせる事で更に五倍に出来る。

『何かを付与する程度の能力』

イメージに大きく作用される。

属性の追加などもこの能力によって行っている。

最初から刀を打ちながら付与していたせいで正しくは『打つことにより』が前に着くくらい付与する時のイメージが固まっている。付け与える対象は選ばないが入れることの出来る量に限りがある。

『成長欲 B+』

三大欲求の中に食い込み4大にするくらいに成ってきている。

一種の病気、Aランクになると直らなくなる。

成長に対して非常に貪欲になる。

『世界中の管理者の玩具^{バシリ}』

最近改名を考え始めた管理者による呪^{ほんたい}つぽいもの。

彼の持つている魂が消滅、または解放されない限り

死んでも彼の御前にて生き返る。

『管理者の加護』

上のものを言い換えただけ。

製作物代表・既出物

熱刀・釜	A T K	9 0 0	炎	1 8 0
冷刀・鉢	A T K	9 0 0	冷	2 0 0
雷刀・錦	A T K	9 0 0	雷	1 5 0
絶刀・鉋	A T K	8 4 0	耐久力：1 7 5 9 t	
斬刀・鈍	A T K	1 6 2 0	切味 斬鉄：厚み 3 0 c m	
??? ???	A T K	??? ?	侵??? ? ? ? ?	
? 魔剣				
??? ???				
妖刀		??? ?	??? 呪	??? ?
悪刀・鏢モドキ	リミッター 身体能力の上昇 カット			

愛用の釘バット (Legend) P.O.Pの武器成長の効果を見るため?の武器。

ランク3、魔界では子供の玩具レベル。
イツノマニカ愛用品に、真つ赤な釘バ

ット

対衝の手甲 衝撃 - 1 5 %
退電の腕輪 一定以上の電流を弾く。 現在破損中
対変温の腕輪 周辺に断熱結界を張る。
髑髏の仮面 詳細無掲載

黄色いつなぎ 赤いアフロとセットでお使いください。 封印中

石製の仮面 製作途中

・・・最近の悩み・・・

金偏統一がつらいからそろそろ縛りを止めようと思っている。

最近、魔剣、妖刀に分類できるものが出来た、しかし聖剣は一向に兆しが見えない。

って言うより作った剣から滲み出る禍々しさに困る。
神々しさが出ない。

修行 練武の洞窟？（前書き）

久しぶりの更新。

戦闘なのか説明なのかよく分からない物に成ってしまった。

修行 練武の洞窟？

「ふんっ！！ハッ！！報復絶刀（突）！！」

今、俺は練武の洞窟二階を攻略中だ。

どうやらここは地形は2の練武の洞窟みたいで、半々に違う色のジオパネルが敷いてあり、半分に遠距離攻撃禁止のジオシンボル。もう半分に近接攻撃禁止のジオシンボルが置いてあって効果を発揮している。シオシンボル通しの間には立ち入り禁止の区域が在る。

ついでに一階はジオシンボル運んで一つ破壊したら連鎖の結果敵が全滅、経験値はボーナスでしか入ってこなかった。

ここは二回目なのだが前回は原作に似た奴らだったのだが、今回は魔物型のみでネコマタ、骨竜、ウッドゴーレムが近接地帯、ゴースト、白竜、バキエルが遠距離地帯

何でだろう・・・供給が追いつかなかった？

まあゲームじゃなくて現実なのだから同じ種族ばかりってことは無いよな。

近接はもうネコマタ、骨竜を倒したので残りはウッドゴーレム
ウッドゴーレムは木製なので熱刀でとにかく斬りつける。

コイツは一定時間で体力の1割そんな速度で常時回復している、植物だから成長して傷を塞いでいるが正しいのかな？

そのため焼きながら斬っている訳だ。修復を上回る攻撃であればいいのだが、いまは必然的に殴りあい斬り合いになるから被害を抑えるためにヒットアンドアウェイを繰り返している

どうやら遠距離禁止は素手、武器による攻撃かつ短距離。銃、弓、魔法はせいぜい3〜5メートルが限界射程。

ウッドゴーレム二体を相手にしているので攻撃したら両者の範囲外に逃げるを繰り返している。

これが終わったら次はジオシンボルを破壊してもう片方に乗り込もうと思う。

うれしい事にジオシンボルは一箇所に固まっているので破壊は楽に行える。

遠距離禁止を報復絶刀（突）で破壊すると足元のパネルの色が反対側と同じ色に変色し、近接攻撃禁止になる。

なお、蛇足だが変色の際に円形に領域が広がるように変色してその境界に入る時に衝撃でダメージを受ける。（何故かこれは固定ダメージ）

そして炎刀・銃（オリジナルの数倍弾を搭載できるように魔改造した回転式連発拳銃と自動式連発拳銃）

に持ち替え立ち入り禁止と近接攻撃禁止のジオシンボルを破壊して弾を込めなおす。

発砲音とエリアの変色による衝撃のダメージで気付いた奴らがこっちを向いて何らかの遠距離攻撃をする予備動作に移ろうとするので急ぎ弾込め行う、すでに薬莢を捨てた回転式の方が早く込め終わるので自動式の弾込め後回しにして、一番近くに居てここにいる奴らの中で一番攻撃力の強いバキエル種二体を優先して打つ。

そしてもったいないが自動式のほうのマガジンを地面に落とし予備マガジンを入れ残りに向けて銃口を向ける。

しかし間に合わなかったようでその後ろにいた翼竜とゴーストたちから大量の光の羽と何処から持ってきたのか家具が沢山飛んできた。流石に受けるわけには行かないので、全力で右に逃げる。

家具は何とか避けられたが光の羽は避けきることが出来ず、何本か

身体に突き刺さる。

羽は他のものが地面に突き刺さり数瞬置いて弾けた。

「ぐあ……」

左腕に二本刺さっていたため危うく炎刀の片方を落としそうになるが何とか耐える。

そして、後で拾えたかもしれないマガジンは見事にスクラップになった。

「あ、あ、あ、あああああああ！！！！テメエあれ作るの結構大変なんだぞ！！如何してくれる！！」

そう、普通回転式より自動式のほうが再装弾リロードが早いのに後にしたのは、マガジンの数が無いから。回転式の細工は割りと楽だったが自動式のほうはかなり細かい作業が必要だったのだ。

まあ、おかげで回転式が二倍、12発なのに自動式は三倍、33発入れておける。

弾だけなら某奇妙な冒険で出てくるミスタのように体中に仕込んであるから……ごめんあそこまでは仕込んでない。

容量十数倍に改造した戦闘服のポケットに詰め込んでいるだけ……

・結構な量か。

それは置いといて、

相手の返答は……

メガファネオクール
火と氷でした♪

じゃ、ねえよ

何て良いコンビネーションだ!!

半分ずつ焼いて凍らせるような絶妙な位置を中心に同時に発動ウ!!

「つて、ギヤアアア!!」

転がって火を消しつつ氷をその熱で溶かしながら物陰に入って道具袋からチヨコレートを出し食べる。

「ハアハアハア・・・ふう、なんだよあいつらなんで魔法でコンビネーション決めれるんだ。
はんにこうげき

つて待て今のは二体分の魔法だった奴らはまだ六体いた筈だつまりまだ四体攻撃していないのがある…」

物陰からそつと見てみると・・・

見えた物は通常の四倍の光の羽と大小あわせた家具やつぱりこつちも通常の三倍くらい、しかも大型家具の比率が大きい

・・・奴ら溜めていやがった

今隠れているのはお世辞にも丈夫とはいえない、最初の家具でめくれた地面が斜めに立っただけのものだ。

大型家具なんか飛んできたならそのまま潰されて終わる……

しかしここで今動くと弾幕に襲われる事になる、だから限界までひきつけてから回避を行った方が良さだろう、とそこまで考えた所で瓦礫に背を預けていた俺の左側の擦れ擦れをソファーらしき物が瓦礫を粉碎して目の前の地面に着弾した。

悪寒に従いすぐさま左に跳び、転がり向きを変え家具と羽を避け、撃って軌道をずらしたりしながら奴らを中心にした円を描くように回避しながら走る。

なお、悪寒は正しく瓦礫にはダブルベットが突っ込んでいた。

四体は羽と家具を当てようと工夫して飛ばしてきやがるし、残りの二体も黙っては居らず

避けた先で光つばいのが集まって拘束しようとしたり、走る先に羽が刺さってそこから十字型の光みたいなのが上がったり……

にもかかわらず攻撃がぶつかり合ったりせずにつまく飛んで来る。

だからと言って一方的に攻撃されるのは癪に障る。

リロードは終わっているので先ずはゴースト、防御の薄い方から狙う。

銃弾に魔力を込めて威力を上げる。

熟練度が上がるにつれ込め易く効率のいいやり方で出来るようになってきた。

それでもまだ50にすら成っていないので。まだまだ十全に使えているというわけではないだろう。

最近出来るようになったわけだし当たり前なんだが・・・

そのうち拳銃で砲の威力が出せるようになるかもしれない。

閑話休題

ゴーストは黒い目？が付いた人魂っぽいのがローブ羽織ったような姿なので人魂の丸くて大きい頭？見たいなところを狙って一体目に自動式で六発撃ち込み、回転式をチャージ。

「イ————！！」金切り音のような甲高い悲鳴を上げている。

結構なダメージが入ったのか、おかげで浮いている家具の半分が明後日の方向へ飛んでいく。

ちらりと確認するとローブの袖の部分で顔？を抑えている、どうやら目とかの急所に当たった様だ。

しかし、残っている奴には白竜が三体いる。奴らは回復魔法が使えるようなので回復される前に止めを刺す必要がある。

なのでたった数秒足らずのチャージだったが回転式で動きを止め正確に頭部を狙い撃つ。

同時に自動式を道具袋にしまい、絶刀を取り出す。

その数四本。

先に三本を地面に刺して柵のようにし、残り一本を取り出し押さえ（冊↑のような形）家具に対する盾にする。

足が止まったのをいいことに大型家具を飛ばしてきたので押さえに

していた物を振りかぶり、
柵に当たるとタイミングを合わせ柵を叩き勢いを削る。

家具が幾つか柵に当たり壁が出来た所で、更に三本取り出し投擲する。

悪魔になり上昇した筋力による三本のほぼ不折不曲刃おれずまがらす毀れしない刀を投げつけるのだ。

速さは銃弾に及ばないが破壊力では上を行く。

的である敵はそれぞれ3～5mの間を空けているがまあ、大きさもあって固まっていると言える。

そこに投げ込んだのだが、一本は白竜の羽をいくらか削るに終わり、一本はゴーストの人魂の尻尾？を切り落とし（あけ？結構致命傷？）一本は唯一回転せずに飛び、白竜に直撃し体の中心に柄の方が半分刺さった状態までしつかり突き刺さった。

この時点で白竜は一体確実に獲った！！と判断した。

その通りで白竜と尻尾切ったゴーストが倒れ（消え）、動かなくなつた。

残りは白竜2ゴースト1、今回はウエポンマスタリーの強化のために極力低い物を使おうとしていたが、杖を使うにもまだ魔法は初級ファイア魔法しか使えないので今の状況では決定打に欠ける。

ん？戦士族ファイターなのに魔法使えるのかつて？

実は杖に術式書いてファイアモドキ使っているんだ。

それでも熟練度は上がる不思議だね。

閑話休題

再び炎刀を取り出し残っている弾、回転式から十、自動式から二十七発その半分ずつ白竜二匹に打ち込む。

その間も動きは止めない自分の周囲でも火や氷、羽が飛んでくる。かすり、削り時には羽が突き刺さる。

付与師のスキルをもっているおかげか薄らと魔法の発動が見えるため前者は発動エリアから逃げればいいが羽は線で更に避けた所を狙ったり他の攻撃の隙間を飛んできたり時には虚を付いて正面から、エンチャントと言う二体がひたすら攻撃残り一体が隙を狙うと言う随分な連携をコンレネーション決めてきやがる。

接近はこつちに有利だと分かっているのか近づけないように攻撃してくる。

白竜だけならSP切れを狙ってもいいが妖霊族は樹巨人族（ウッドゴ・レム）とにて一定時間でSPを一割回復、レベルが上がるとまさに無限の魔力（SP）を持つといえるようになる厄介な奴だ。

そして俺は接近戦は得意だが遠距離が苦手と言う完全戦士系、実際戦士なんだけどね。

次は遠距離の出来る奴に転生するかな・・・
そんなことは今はおいておこう。

現状は持っている銃器は炎刀・銃だけで弾切れ再装填リロードの必要あり近接武器は後五本は在るってか三本やつらの周りに落ちていて三本離れた所に刺さっている。

さっきの銃弾が割わりと効いたのかゴーストが攻撃で白竜二体は回

復をしようとしている。

好機と見て雷刀の放電防止結界を解除して投げつける、
しかしゴーストの家具によって防がれる。

ポルターガイストは現実だとゲームよりかなり厄介だ。
物体なので盾にも出来るつてのが凄く厄介だ。

しかし、そのために棚を持ってきたのは失態だったな、
幽霊ゴースト！！

棚の陰に隠れ一気に近づく雷刀を抜き鞘に押し込み、
冷刀、熱刀を取りゴーストを一文字…いや二文字スラッシュで切り
裂く。

そのまま白竜にそれぞれ刀を突き刺し魔力でブースト、刺した所か
ら凍り内臓を中途半端に凍らせて刀を抜く、もう一方は周辺が炭化
し、発火した所で抜く。

これでステージクリアだ。

無論、絶刀/数打を全部回収するのは忘れない。

|||||

本日の成果、

レベルにして4の上昇。

そこそこの金（HL）。

損傷

最終残りHP3割

炎刀・銃のマガジン

回復アイテム少々

修行 練武の洞窟？（後書き）

三千文字前後書いてからしか更新しないようにしているからなかなか・・・

数が量どっちがいいんだろう・・・

質？あまり期待できないと思う。

初転生および新職、機能解放（前書き）

どうも、遅くなりました。

初転生および新職、機能解放

次は三階、ここは何ともやり難い。

離れた陸地にワープのジオシンボルとジオパネルつまりランダムでワープしながら敵を倒していかないといけない、更に敵は怪鳥族、いろいろな状態異常を引き起こすヤバイ奴だ。

遠近ともに使えるもし麻痺にされると目標の場所についても動けずにまた飛ばされることになる。

最後には離れたワープできないエリアにいる一つランク上の奴もいる。

そして一つ言っておこう・・・

俺は、遠距離攻撃が苦手だ（戦士だから）正直遠距離攻撃は能力の関係から威力もあまり見込めない（戦士だからHITはある程度有るけどINT低い）

まあ、剣の特殊技にも遠距離攻撃は有るけど動作が大きく一発の範囲は大きいが連射は無理だ。

それでも普通の人には避けられないだろう。ほぼ一瞬で幅が5m越えの巨大な寝た形の斬撃が飛んでくる。それを見てから避けるやつらもいる、流石魔界、悪魔の強さがワンランク以上ずれているとしかいえない。といってもそいつはアイテム界の界賊でレベルが四桁、無論逃げ切れずサククリやられた。

管理者の話だと（異世界への）転生の時はレベルは無論1から強さにはそれぞれの世界に基準が有るとか、まあいろいろと細かく言っていたが、実際行けば分かると言われて話は終わったな。

閑話休題

それよりも三階だな。やっぱりきつい所が有るのでいつそのこと別の職業に転生する事にする。

シーフ、盗賊だなコイツは確か銃が得意だったはずだ。

ついでに三回の一番強い奴はシンボルを持っているからそれも回収しよう。

おつとその前に必要なマナを残してBPに変換しておかないと勿体無いことになる。

・・・総計約8500BPか・・・単純計算で85000→85850マナを変換したことになるから・・・

頑張ったよな俺、今まで倒してきた奴らの最高レベルは三桁いつてないから千単位で倒したって事だからな・・・

それまでも倒していたけどレベル一桁の人を万単位でまあ、それはいいか。

それよりさつさと転生してレベル上げに行かないと。

たしか練武の洞窟三階はレベル三桁が出てくるはず。

ついでにそいつが持っているシンボルも貰う事にしよう。

暗黒議会

L 転生する

L 盗賊 ランク1：シーフ

L 素質ボーナス10

L HIT、SPD 5ずつ

L 確定

名無し

に転生しました。

本来の基本能力値 + 特殊^{かみさま}ボーナスによる強化 + 自動素質ボーナス
素質値 + 手動素質ボーナス

HP 14 +1 +8 || 23

SP 11 +4 +6 || 21

ATK 10 +5 +7 || 22

DEF 7 +3 +7 || 17

INT 8 +2 +6 || 16

RES 10 +5 +6 || 21

HIT 12 +3 +6 || 21 + 5 || 26

SPD 16 +4 +6 || 26 + 5 || 31

特殊ボーナスは気分できりのいい数になるように設定されます（5
か10の倍数になるように0～9）。

一気にバランスがよくなったな。

前はSPが少なくてあまり特殊技を使わないようにしていたことも
有るし、道具袋の中にもSP回復道具をそこそこ入れていたから二
倍は助かる。

そして大きすぎる問題が一つ、

シーフは、女だった！！

うん、いきなりと言うか、目が覚めたらアレがなくなっていて驚いた。

この体の調子を見るためにいろいろ動いていたら違和感を感じて何だ？と思ったら性別が変わっていた。

だから三階クリアしたらまた転生するつもりなんだ。

でもレベルアップもしなくちゃいけない。

少なくとも150くらいまでは。

経験値の入手効率は結構高いから前ほど時間を掛ける必要は無いと思うけどそれでも武器が変わるから面倒だ。

いっそのこと武器上達屋を限界まで集めて武器に頼った方が早い気がしてきた。

同時に経験値増加屋も集めればなおのこと良し。

でもそのイノセントの入手が大変なんだよなあ〜

経験値増加屋は決まったアイテムにしか居ないから。

あ、そうだ。

B P使ってなんか開放できるシステム無いか見てみようもしかした

ら・・・

P o P V e r 2 . 0 5

アイテム

装備

ステータス

特技

イノセント

B P ショップ

記録図書館

その他

なんかバージョンアップしてる！！

ま、まあそれは置いておこう。

B P ショップか

何が有るんだろう

えーと？

購入、改造、解放。

解放だな。

解放

？便？

限？突？L V 1

イ？セ？？制？解？1

？？界？由？歩

壱千五百

壱拾萬

壱萬

壱千萬

ジョブ解放

人型汎用

戦士 ♂ ♀	解放済み
魔法使い ♂ ♀	解放済み
僧侶 ♂ ♀	解放済み
格闘家 ♂ ♀	解放済み
盗賊 ♀	解放済み
アーチャー ♂ ♀	五百
ガンナー ♂ ♀	六百
忍者 ♂ ♀	六百
侍 ♂ ♀	七百
重騎士 ♂	七百
賢者 ♂	六百
魔物使い ♀	七百
狂戦士 ♂	八百
呪術師 ♀	七百
覆面ヒーロー ♂	八百
魔法剣士 ♀	八百
応援師 ♀	七百
魔人 ♂	壹千五百
魔物型汎用	条件不十分にて解放不可
特殊技能	要相談
弟子を作る	条件不十分

まだ有るけどまあ今はいいか。

とりあえず？便？おそらく郵便屋

此处で前科を取れるようになれば経験値が更に増やせる。

お、正解か、？が消えて郵便屋に表示が変わった。

ん、注意？

『解放すると経験値屋、前科の効果は半減、2で1%分になる』
今が30も無いから別に問題に成るほどでもないか。

解放つと

これで残りが7000足りないくらい

ガンナーから応援師・・・だと僅かに足りないからアーチャーから
魔法剣士までで6800BP
そうすると残るのは168BP

これは残しておく事にしよう。

それじゃ、解放して、早速郵便屋に行つて、罪状貰つてアイテム界
へ。

とりあえず、前科を三十まで集めるとすると、今だと一回で2か4
そして階数は低め。

まあ、数をこなせば良い話だ。

レベルの低いアイテムに裁判屋を移してイノセントを服従させながら
前科を集める。

方針は決まった、装備は銃、あと靴とめがねにシンボル

あ、弓も持つて行くか。

前と違って相手を近付けさせないように戦わないとな。

銃器好き―射撃狂（前書き）

軽度のスランプに重なり

軽いトラウマモノな事故が重なり遅くなりました。

そろそろタイトルが苦しい

違和感があつたら是非頑張つて直す努力をしますんで。

銃器好き―射撃狂

キングクリムゾンッ!!

レベル上げの過程を消し飛ばしLv150に至った結果を残す!!

簡単に言ってしまうえば前科を上げながらイノセントを集めて、そのついでに敵を倒していただけだからね。

前科は126犯、経験値屋は84まで集まって105%増加、つまり2.05倍。

能力の効率も上がってゲームで素の状態の約四倍と一倍になったんだ。

といっても現段階であってレベル上げの最中は此処までじゃなかったから・・・まあ、始めのうちは慣れて無くて大変だったと言っておこう。

まさか途中から楽しくなって魔力で弾丸を複製する銃を作ってトリガーハッピーよろしくやっていたなんて事実はない!!・・・無いはずだよ。

ちゃ、ちゃんと弓も使ってたんだから!!

決してトリガーハッピーなんかじゃ・・・ない!はず...

熟練度が26から71に上がるほど使ったけど・・・
他の武器の数倍使用していて一度使い始めたら、相手が蜂の巣にまでオーバークイルしてたけど・・・

トリガーハッピーじゃないんだから!!

・・・
・・・
・・・

いや、ごめん自信なくなってきた・・・

弾が狙った場所に向かって飛ぶもんだから楽しくなっちゃって・・・
でも、まだトリガーハッピーの領域には至ってないはずだよ!!

ガンナーになつたらどうか知らないけどさ。

うーん何だかこの身体に成ってからと言うもの時折、話し方がボクツ娘みたいになる事があってね

だいぶ身体に影響を受けるようだ。まだまだ駆け出しの俺は体の影響を受けやすいようで、
手癖の方もだいぶ悪くなって、欲しい物があつたらいつの間にか盗んでいる事が時々・・・

ステータスは簡易でこんな感じだよ。

名前： | L V 1 5 2

職業： 盜賊^{シーフ}

称号： 銃器^{トリガー}大好き射撃狂有段者

A T K

―― まで！！

待て待て待て待てえええ！！！！

もう有段者に成ってるう！？

えっ、ちよつま・・・え？

まだ大丈夫だっと思ってたのに・・・

いや確かに思い出して少し揺らいだけどさまさか有段者レベルだと
は流石に・・・

あれ？見たことのないスキルがっ・・・とりがー・・・はっぴー？

そのまんまトリガーハッピーなのか！！

能力は、

銃器関係の扱いがうまくなる、効率が上がる。

しかし、一度引き金^{トリガー}を引くと少なくともマガジンを一本使い切るま
で、要するに弾切れになるまでは止められないし止まらない。
もしくはターゲットの完全崩壊まで止まらない。

わーい、凄く、トリガーハッピー射撃狂だ♪

少し、自重する必要があるな、このままじゃヤバイ。

冷静な事運びが出来そうにもない、まだ『トリガー引き金を引く』が発動条件なだけまだいいけどこれが発展すると『銃器を取り出す』に成りかねない。

そうなる前に自重できるようにしないと。

今まで楽しいもんだから、必要最低限の買い物と家事だけでそれ以外の時はずっと銃を片手に戦場って状態だったからな。流石にこのことを考えると私はトリガーハッピーです。としか言えないなあ。

H Lお金もマナも貯まる一方で消費はほぼ無し最近、何も作ってないから鍛冶のレベルもなんか下がっちゃってる・・・

唯一の救いはイノセント収集と前科はしっかりとしていた事だろう。今、確認した所とにかく適当に乱獲したようにイノセントが集まっていた。

集めて移ただけで合体させていなかったのか、イノセントを五十体以上入れることが出来るP。Pのイノセントルーム（仮）の中身もいっぱいで服従させたイノセントの入った武器が倉庫の中に沢山あった。

ちなみに何でか知らないが（結構前に）作ることの出来た魔剣？と妖刀は武器庫の最奥で禍々しい氣を放オーラっている。一般人じゃ倉庫の中間地点に行く前にUターンしそうなくらいだ。

結構狭いから中間といってもそれ程じゃない最奥からせいぜい10mくらい。

最近また氣が漏れてきたのが原因だと思ふ。封印が弱くなつたのか
剣が強くなつたのか・・・前者であつて欲しい。

使う時は出来れば来ないで欲しい。

強いんだけど廃リスクハイリターン

別の世界にいけるようになったらどこかにダンジョン作つて一番奥
においておくと面白い事になるかもっ！！

ついでにその近くに有る重金属製の箱の中には黄色いのと赤白の服
赤いアフロのカツラが入っていて、これでもかと言うくらい嚴重に
鎖に鍵穴を溶かした南京錠、箱に在る鍵は合計二十全ての鍵穴に鉛
やはんだその他いろいろな比較的溶けやすい金属で埋めて在る。
その服は最近どうやったのか知らないが力をつけ近くに居る者に自
分を着させようと暗示をかけるようになった。そのための処置だ。

もう二度と使うもんか。

そのためにも一に修行、二に生産、三四に殲滅、五に収集。

と、とりあえず、またアイテム界でイノセント集め兼経験値集め兼
前科増やしに行つてくるかな。

先ずはブレイブキャノン、マナ増加屋が居るからこれにしよう。

練武の洞窟三階 そう、まるでこれは・・・（前書き）

一月近くなってすみません

練武の洞窟三階 そう、まるでこれは・・・

さてさて、160までレベルを上げてやってきました練武の洞窟（2モデル）三階

ここに居るのはコカトリス・・・怪鳥種の結構上位種、最上位種をランク6とすると4が10体前後5が一体配置されているはず。

前を考えると・・・まあ、一回目は大丈夫だろ・・・

それはおいとして
閑話休題

情報を整理しよう。

怪鳥族は状態異常を引き起こす技ばかりを覚えており、更に近くに居ると能力が二割下がる。
どんな原理かは知らない。

もし3もしくは4の基準なら魔ビリティーによって変わるからどんな能力を持っているか分からなくなるが、まだその項目がないから敵にも適用されていないだろう。

今までもそうだったからおそらくそうであるはず。
隣接した敵の特殊技を使えなくなると・・・

ま、まあその場合でも接近して戦わなければ問題ない。

もつとも、持って行くのは銃と弓だけだしね！！

そして戦闘・・・と、言ってもただ単に遠くから一方的な射撃でほとんど終わったから大半は省かせて貰うけどね。

ただフルフル、ランク5の奴はシンボルを持っていたからね、都合のいい配置で他の奴を倒してから一対一で戦闘できる状況が作れたから

シンボル
プリオールの羽を盗んで、倒そうとしたら、盗んだ直後に卵ぶつけられて、ド忘れ（特殊技が使えない）になってしまつて、一瞬自分が何をしていたか忘れて、だけど戦闘中（目の前に敵）だったのですぐに切り替え、何故か特殊技の使い方が分からなかったけど、とりあえず敵勢力を殲滅することが先だと判断して、とりあえず蜂の巣にして、その後（正気に戻って）に漸くそれがド忘れだと気付いた。

そのまんまの意味でド忘れだった為、もしかしたら混乱した状態で、でっかい鶏につつかれて死亡も有り得たかもしれない。

正直、今回はトリガーハッピーに救われた。

何せ、敵目の前、両手に銃器、引き金に指をかけている。

後は撃つしかないだろう？ってか何時の間にか目の前に銃痕だらけの死体が転がっていたんだけどね。

うん、俺がやるんだ。誰だってそうするはずだ。

え？それはないって？

いやいや、目の前はかなり大きな・・・そう2m以上の身長の鶏みたいなのがいるんだ。

手に銃を持っていれば討つてしまっても仕方ないじゃないか。

そう、之は仕方のなかったことなんだ。

言っている事が矛盾しているって？

気にしないでくれ敵とは言えあまりにも可哀想な仏だったんだ。

罪悪感に襲われるほどに見事な蜂の巣だったんだ。と言うよりむしろ挽肉だ。^{ミンチ}

自分を正当化したくなるってくらいに。

鉄板を貫けるくらいには強いはずの嘴ですら原型を留めていなかったくらいだから、ね。

そして正気に戻った時何故か始めの時に持っていた筈の二丁じゃなくて散弾銃を二丁持っていたのは如何してだろう・・・（遠い目をしながら）

この散弾銃はポンプアクションで薬莖を捨てる、そして力を込めてかなり説明が面倒な方法で弾を精製する。（簡単に言うと高密度の魔力弾を作るってのが一番近い。）

これは散弾銃の試作品で効率、精度を無視してとりあえず強度、頑丈に作った訳なんだが・・・

牽制のための銃で暴走↓銃器の種類が少なく弾幕が薄い↓懐に入られる↓ザツクリ

なんてことになったら目も当てられない。

・・・装備が足りないってならなければそれも無さそうだけど

もはや、これは

狂化A（銃器限定）

理性が完全になくなる代わりに能力が大幅に強化される。

になりかけているから本当にヤバイ。

何と言うか・・・某聖杯戦争で召還されたあの神の子でもBランクだったと思う

・・・

・・・

いや、違うな。

わた・・・俺のは狂化じゃなくて気分効用アップ

銃を撃つと段々気分が良くなって・・・

そう、これは、まるで・・・

つて麻薬かッ!!

練武の洞窟三階 そう、まるでこれは・・・（後書き）

名無しは

レベルが5上がった

現在LV165

後、魔法使い 赤青緑のどれかになったら、
どこかの世界へ行きます。

参考に

ファタリカインド

赤青緑のどれがいいでしょうか・・・

世界は今考え中です。

練武の洞窟四階 いい加減次行くぞ (前書き)

次からは何かの物語に行く事になります。

あとがきでアンケートをとりたいなーと思ってるのでぜひお願いします。

練武の洞窟四階 いい加減次行くぞ

さて次はいよいよ練武の洞窟四階

此処は傀儡族マリオネットの上位種が4×2で並んでいて、その周辺が経験値、マナ+100%のエリアに成っている。

魔拳ビッグバンや飛天無双斬のような3×3技か魔法の範囲攻撃6マスか9マスが有れば

一撃で六体倒す事ができてかなり楽になる。

俺は前者の両方が使えるので一撃かまして残党狩り、これで行くか。

この時は忘れていた、ゲームと違ってターン制じゃないので1対8になるということを。

よっし着いた。さあ、いづくぞ

ベースパネルから出てすぐに物陰に入り位置を確認して、

敵集団に向かい走って近づき・・・

「――魔拳ツビッグバン!!」

不意打ち成功!!

よし、直撃次は・・・ツ!!

一体も倒れていないだと!!
ちょっ、え? ん、レベルは?

に、にひゃくおーばー!!?

50レベル差で能力もHIT以外は劣っているみたいだし、これじゃ勝てないよ!!

こ、此処は銃撃で一方的にツ!!

って、もう囲まれてる!!

「ちょ、ま、待ってよ話し合いは・・・無理ですか、そうですね
不意打ちしたの私ですからね。」

4体に囲まれ残りの四体は少し離れた所で遠距離攻撃の準備かな?

ナイフをジャグリングしてるよ。

「で、出来れば穏便にツ……って、ぎゃーーーーー!!」

返事は正面に居る一体が4体に分身してまるで碟のように腕を真っ直ぐに固定し其処からナイフが覗く、脚も回転しやすいように……
・って回転始めたあ!!

——イリユージョンこれがその技の名前だったはずだ。

あれ？確か相手を囲むように4体に分かれる筈……!!?

「え？」

うっかり声をこぼしてしまった。

何故なら周りに16体のマリオネットが回転していたのだから!!

こいつら!!同時に使いやがったツ……!!

その後は

8体に轢かれ宙に跳ね上げられて落ちる直前に残りの8体に、を数回繰り返されて……

次にランダムに切りつけるを繰り返した後、思いつきり跳ね上げられて其処にナイフが四方から飛んできて剣山に。
ゲームオーバー

オーバーキルだよなこれ、飛んできたナイフの数が一体で軽く10は超えていたしさ（途中でもう死んでいたからそれ以上は分からない）。

今度は二百以上にレベルを上げてリベンジ・・・

《ハイ、ストップ。いい加減次行くよ、ずっと修行で飽きたから、次から修行光景は基本とばすから。^{キング・クリムゾン}》

しかし！！勘違いするなよ、決して書くのが・・・とかネタが切れそうで怖いとかそんなのじゃない！！

分かったな！！ただでさえ戦闘描写がつらい・・・じゃなくてそういう作者の理由じゃ・・・・・・・・・・いや、ちょっとは在るけど・・・・・・・・

ない！！

だから妙な勘ぐりとかは・・・・

いい加減本題に入ろう
閑話休題

《まあ、もうお前も総レベル300越えだそろそろ次行ってもいいんじゃないか？》

「いや、限界の500まで粘りたいんだが・・・」

《・・・ツチ・・・分かったよ、今すぐ、戦士か侍に転生しても

らう。それと後これだ経験値ポーションレベル20後半まで上げられるだろう。転生してこれを飲んだら神殿じんぐうに來い、分かったな?」

「あ、ああ分かった。」

有無を言わせぬ雰囲気ですう言う神に飲まれ文句を言えずにうなづく。

そして、戦士に転生して経験値ポーションを飲んで神の神殿じんぐうに入ると・・・

《これだけを持って行け、総レベルが500になった所で強制呼び出しをするそれまでせいぜい暴れて來い》

そう言う俺の持っていたP.O.Pとその他武器と、最低限の服を残して余分な防具が消え道具袋四次元のみが手元に残る。

「おい、防具無しじゃ流石に・・・《道具袋の中を見れば納得できるだろう。故に逝け》きついいイイ!!」

最後の一言の半分が聞えた時には足元に穴が開いていた。

「ちつくしょうがああああ!!」

「ふっ」ズンッ

はあ、経験のおかげで何とか着地できた。

身体的なレベルは低いから少し脚が痺れたが・・・

さて此処は？

地形・・・洞窟っぽい

地面・・・全体が一色に薄く光っている——ジオパネルだ。

ジオシンボル・・・二つ、10マス分は離れた離れた離れ小島（洞窟なのに・・・こういう構想に成ってんだ？）に置いてある。能力は・・・経験値+50が二つ

特殊・・・赤いベースパネル×8、青いのは・・・ない、どうせいないけど仲間は呼べない。

気になる物・・・天井に映る長針と秒針しかない時計で、てっぺん三分前の映像

「あきらかに後三分で何かが起こるということだろう、後確認するのは道具袋、何か強い武器でも・・・・・・あ？」

信じられない物が中に入っていた。

それは初めて作った魔剣、神サマが持ってきた雷獣の牙（と言っていた）を細かく砕いて心鉄に練りこんで打った剣、しかしそれが大

間違いだった。

その剣はしばらく置いて俺の入れた術式、その剣を基点に球形に（電磁）結界のようなものが広がり最後に中であんなでもない放電が行われるそんな魔剣だ。（某神喰の雷獣の技参照）

——まあ、使い方によつては雷無効とかそういうものが必要だけど牙でうまく強化出来るかな？
と思っていたら・・・

乗っ取られました。

あの牙、雷獣は雷獣でも本当に某荒神の雷獣ヴァジュラの物だったツ！！

腕輪のない神機（旧型：ロング）は魔剣としか言いようがない。

見た目はちよつと帯電した普通の大剣何だけどさ・・・

強力な力を得る代わりに少ししたら世界を喰らう危険満載の化物に成ってしまうのだから。

でも、どうしてこうなったのかは解らない。

「ちよwwwこれは無いwww」

《安心しろ、時が来たらコアを潰してやる。》

急に離しかけてくる神ゲトウ

「安心できねえ．．．要するに死んだばつかでまた死ぬという事だろ？さつき九割こつそりしつかり持つて行かれたばかりだからかなり懐が寒いんだが．．．億単位のＨＬが二桁へって１００万単位に成ってしまうのか？」

《どうせ通貨の違う世界に行くんだから問題ないだろ．．．まあ、仕方が無いから今回は一分（１／１００）にしておいてやろう、なお、この金はお前の新しい体造りに使われる。俺の趣味満載のな。だから出来れば修行場こくでは死にまくってほしいくらいだ。》

「．．．．．はあ．．．．．」

《おいおい、早く用意しないでいいのか？後一分切ったぞ？》

「仕方．．．．．無い、か。」

道具袋から唯一の内容物、魔剣《荒神・雷獣》で、いいかな名前は、今決めた。

それを右手で握り取り出す。

その直後握った右手が異形の手と化した。

猫科の爪に毛むくじやら、雷獣ヴァジュラの牙を用いてその力を模範しようとしただけ在ってハンニバルとかでは無くてヴァジュラになるようだ。

どこかで偏食細胞を手に入れたものだ。

侵食が肘まで来た所で天井の時計が０を指して、重たい鐘の音が鳴り響き、赤いベースパネルからそれぞれから魔人（ランク１）が剣を携えて現れる、レベルは．．．３０、結構なスパルタだな、ＮＯダメージでクリアしろってか？

「やってやろっじゃねえか!!」

そう叫び、オラクル細胞で強化された脚力で駆け出す。

「ふっ、これで十回目終了!!」

十回目、80体目の魔人を切り倒す、完全に異形と化した右腕、右手の爪で。

剣は左に持ち替えた。流石にこの手では持てない。

右腕が完全に獣の腕に成り何とか肩で侵食を押さえられているが、左腕ももう後三分と持たないだろう。

辛うじて剣が握れる程度で肘まで毛むくじやら。

いや、正直今すぐにでも急速に進行してもおかしくない。

回数を重ねるたびに強くなる敵、魔力を薄くすると急速化する侵食、剣の能力は使う際に同時に侵食を抑える事が出来ないのもそれで右

腕は完全に飲まれた。

そして、もう、その魔力すら餌にする細胞^{ヤツラ}が出てきてさっきの言った三分は正直、左腕じゃなくて意識と言った方がいいのかもしれない。

「はぁ・・・休ませてくれよ・・・」

こっちの事情はお構い無しに現れる魔人、しかも今回の装備は銃、自己防衛か傷を受けた場所は真っ先に侵食され傷がふさがる、おかげで体中が中途半端に毛むくじらになっている。

「ハア・・・」

抗うのを諦めた。ゲームでの飲まれた後にあっただであろう精神内での戦いを考えて鬱になるが仕方が無い、遅いか早いかの違いだ。早く成つてよく食った方が荒神^{オレ}も多少は楽^{強く}になるだろう。

だらんと腕の力を抜く、と同時に全身を銃弾が貫く、魔力切れ——
——オラクル細胞に食われ続け今ほぼ無^{カラに}くなった。

それと受けたダメージによりもう意識も薄れてきた、いや飲まれ始めたのかな。

持っていた大剣も身体に吸収（同化）されもう身体はほとんど獣に成っている。

大きさは人より二・三回り大きい程度。サイズが急激に変わるわけも無いか・・・

この身体はもう、俺の制御を受け付けない。

しかし、最後に言いたい。

どいつだ、一人だけ頭に撃ちこんで来たのは!!

■ ■ ———— ! ! ! ! !

獣が吼えた。

そして俺は今、ウロボロスのよりは小さい大きさのヴァジュラと対峙している。

「はっ、コイツに勝って元に戻るか、目標にたどり着くまで生き残るか、デスマッチか……
でか過ぎるだろ……。そしてこいつと戦うには此処は狭すぎるだ

ろ・・・」

用はビルのような虎を相手に戦うと言う事だ。

そして与えられた戦場はこの虎の5×5程度の大きさ・・・

いや、本当はかなり広いんだけどこいつがいると狭く見える。

まあ、どうせ広くても一足で移動する距離が違いすぎて笑い話にもならないけどな。

何だよコイツ、高さ20mは軽いんじゃないのか？

「さて、と。

せいぜい生き残りますか・・・」

——■■■■——■■■■ツ

そして雄叫びを上げるヴァジュラの方に走り出す。

近い方が見失いやすいだろう、踏まれないように足元を逃げ回ってやるッ！！

後日談と言つよりその後の話、と先の話

両手両足を？がれながら魔力放出で飛ぶ、と言つより跳びながら必死に惨めに情けなく逃げ回っていた

体感時間で数時間、実際は二十数分程度だっただろう。

マルカジリされる寸前で意識がまるでコンセントを抜かれたようにとんで、気が付いたら神殿に五体満足で横たわっていた。

そして見た光景は、空間投影ディスプレイ？で荒神化した俺ヴァージュラの戦闘を見ている神・・・

最初は全長3m足らずだったヴァージュラ俺は本来は荒神どうぞくを喰らい進化するのだがどうしてか魔人を喰らって大きくなっていた。

結構な上位種で強いから俺の能力で魂を喰らい、荒神として肉体を喰らってどんどん強く大きくなっていつて、最後には平均的なヴァージュラとしての大きさでとまり、その後は雷撃を多用するようになっていた。

そしてその後少しした時だ、急にガラス玉の碎けるような音と何かが破裂するような音が同時に聞こえた。

するとまるで沼に沈むように自重に堪えれず崩れ落ちながら気化していく……

後には一本の大剣が残りその大剣は光に包まれて消えた。

《これがお前のその後の戦闘だ。しかしなんとも凶悪なヴァジュラだ。電撃飛ばしながら攻撃とか……器用で怖いな、電気玉避けて立て直したら既に突っ込んでできているとか……初見殺し？二回目三回目でも避け切れ無さそうんだけど……》

「俺もそれで腕持って行かれて大変だった。」

《お前も？……ああ、そうか。奪うか奪い返すかの戦闘してたのか……余計なお世話だったか？》

「いや、おかげで助かった。後数瞬遅れたらマルカジリされていた。」

「

《そうか、じゃあはじめの世界に転生と行こう……その前に立派な魔剣を作れたお前にお祝いとして名前をやるう………東西南北……青赤白玄……白玄蒼朱はくげんそうしゅで良いか？》

「適当だなおい！！後、青龍の青は今で言う緑だ！！」

《いや、別に其処はいいでしょ

他の候補には……

一一一ひとこぼしめとか十九十九じゅうしゅうくもとか在るけど……》

「更に雑になってる！？」

《ツチ・・・じゃあ白黒^{シラクロ} 灰根白^{ハイネ}（聖）・・・はまだだが、黒（魔）を両方持ちあわせながらその境界線に立ち、生み出す者、さらに根に・・・っとこんなもんでいいか？》

「その理由、今考えたよね！？そして途中で切らないで！！」

《本名：白黒 灰根、鍛冶銘：白玄 蒼朱これで良いか、よし決定！！》

そう言っ紙を取り出して判子を押す。

《フハハハハ、これで貴様はもう白黒灰根だ！！もう変更は効かない！！手続きが面倒だから。》

さっきの途中で切るなの発言は無かった事になったようだ。

「ちょ、おま、本当にステータスの名前の欄が埋まつてる！？」

名前：白黒 灰根（シラクロ ハイネ）って書いてある。

《ああ、一一に改名したいならしてあげるよ。今の称号、初級転生者、魔剣の鍛冶師に人逸初を追加してね。》

「遠慮しておきますまだこっちの方がギャグじゃない。え？称号？・・・称号と鍛冶師としての称号の二つが在るのか・・・そして例外も在ると。」

ほ兄も気になる所は在るが・・・

《そう、一定時期に変更可能な称号になら変える事も出来る。一種の装備品だな。

まあ、確かに転生して、漢字で名前を書くとき恥ずかしいな。》

「そしてちょっといいか？何でLV0なんだ？」

《あ、そうそう今はもう転生を始めだした状態だから外に出ると体が無いよ》

結構古代に言ってもらう予定だから。人が影も形も無い時代で寿命いっぱいまで大自然を感じて次の糧とするがいい！！そしてさっ

さと職業を選べ！！」

仕方ない・・・ファイターでいいか・・・って

「おい、待て何だ人が影も形も無いってどんな昔だ！！」

確か億単位で昔の話だよな。

「ん」確か、大型爬虫類が闊歩している時代かな？もしかしたらそれ以上前かも。」

「職も決まったようだし行つてらっしゃい。大丈夫、今みたいに栄養とかそういうのが難しい時代だし・・・いろいろあつてせいぜい五十年だから。」

「次回からは物語ベースの世界だから楽しみにしていてね。」

「流石に弱肉強食の世界で親がいないのに赤子からは無茶だから15歳くらいからにしてあげよう。」

転生時の一時的な気絶？というより寝て起きたというのが正しいのか？
死んで生まれた

まあ、その間の空白時は意識がないんだけだな。

それによつて段々意識が遠のく時に聞こえてきた。

「あ、そうだ。この話はキンググリームゾンから。」
飛ばす

ちよつとまでええええええ！！

練武の洞窟四階 いい加減次行くぞ (後書き)

アンケート

最初に行く世界を何処にしようかなと迷っておりまして

- 1 ・恋姫（魏、呉、蜀もしくは第四勢力）
- 2 ・いろいろな世界を旅しながら武器をばら撒く
- 3 ・G O D E A T E R
- 4 ・その他

1か2で自分は迷っていましたが今回の話で神機モドキの量産もい
いかなうと思っしまいました。

期限は1週間以内で

1、4の場合どこかを書いてください。

お願いしまゝす。

つてか、感想くださいお願いします。

最初の転生 ステータス（前書き）

ステータスです。

以上！！

最初の転生 ステータス

現在レベル 0

名前：白黒 灰根 （シラクロ ハイネ）

前総Lv 500

古代での50年によるレベル：64

合計総レベル：564

素質値・・・数値化すると大変なので省略版

Dを一般悪魔とする

体力	B	魔力	C+
攻撃力	B	防御力	B-
魔法攻	C	魔法防	C-
命中	B-	速さ	B

称号（転生者）：初級転生者 特典なし

称号（鍛冶師）：魔剣の鍛冶師 魔剣作成時に補正が付く

称号（悪魔）：中級悪魔 死にくくなる

能力^{スキル}

・使徒^{バシリ}C

ランク分、神性が上がる。
貢献度でランクが変わる。

しかし種族が悪魔なので足し引き零となっている。

エンチャント
・付与師 B + ↓ A

鍛冶師、と言うより魔具を作るのに重要なスキル

ランク相当の宝具が出来る事が在る。

+ 補正が在ると時折実力以上のものが作れる。

トリガーハッピー
・乱射魔 B ++

銃器を持った時に性格が変わる、テンションがおかしくなる等のあ
る種の状態異常に近いモノ。

性格の変化、気分高揚はランクによる。

C から性格が変わり始める。

・悪魔 C

種族での強さ、ランク分の魔性を持つ
C ランクだと中級から上級悪魔

・武器成長 C

自作の以外の魔界の武器を進化させることが出来る。

C ランクだと一段階まで。

多くを進化させればランクが上がる。

・環境適応力 B +

ポータスポイント

非情な環境に耐えるべく B P をかなり使い手に入れた B S。

ポータススキル

非情な環境に対して次回から耐性を持つことが出来る。

しかしあくまで体験した自然に対してのみである。

・炎熱耐性C -

高熱に対する耐性、火山の噴火が間近で起こりそのおかげで近くでの噴火に最低限耐えられるだけの耐性が身に付いた。○ーラー○リンクくらいの耐性

即座に逃げたためにこの程度で済んだ。

・氷雪耐性B

低温に対する耐性、氷河期に巻き込まれ数日生きたのびたために身に付いた耐性。

- 50 以下の状況下で薄着による活動が約一時間出来る程度の能力

・雷電耐性A

雷などの電気に対する耐性、雷の雨に打たれて手に入れた。
雷の直撃でも帯電し、痺れる程度。

・寂しがり屋B

主観時間で100年以上言葉を話せる物との温かいふれあいが無かったため人が恋しくなってきた。

修行時の敵も何故か魔物型か人型でもまともに話さない狂戦士だけだったため、よりランクが上がっている。

・野性B

長いサバイバルで目覚めた。

自然環境に対する適応力が上がり

人間社会に対する適応力が下がる

生活環境でランクは変わる、ランクDで消滅する

・記憶の図書館

記憶を記録として本の形で小型図書館に納めるBS ポーナスキル

勝手に蔵書が増えるため正確には本人の能力スキルとは言いがたい。

- ・倒した相手の力を溜め成長する程度の能力
- ・一番重要で根源的な能力。

簡単に言えばゲームのように経験値を得るための能力である。
これだけでもゲームの二倍強分の経験値が手に入るレベル。

熟練度		名称		レベル	
サバイバル		家事		100	
槍		斧		92	
弓		剣		88	
拳		銃		71	
杖		鍛冶		53	
採取		剥ぎ取り		20	
				105	
				86	

最初の転生 ステータス（後書き）

加筆する可能性があります。

最初（第一章）の転生先は・・・何処？（前書き）

はい、短い更新です。

最初（第一章）の転生先は・・・何処？

やあ、おはよう、それともこんにちは？それともこんばんは、かな？

まあ其処は別にいい。

あのサバイバルの50年が終わって漸く、私は帰ってきたー！！つてのが3日前、最低限の整理、準備をしたらすぐに次の転生だつて飛ばされたんだからね。

その五十年は大変だった。恐竜と戦ったり狩したり、樹の上に家を作ったり洞窟を改造したり・・・

果ては火山の噴火に巻き込まれたり、火山灰で起こる雷に打たれたり、隕石から何とか逃げたと思ったらその隕石で上空に巻き上げられた土砂で氷河期に突入して何とか洞窟の奥に逃げたけど結局助からずに死んじゃったって言う終わり方だった。

アイツのあの時のいろいろ在つてと言う台詞はこの氷河期に入る一連のこと含まれているんだろうな・・・

まあ、それは置いていて。

次からはいよいよ何かの物語に入るって話だから楽しみだつて帰ってきて考えたらいきなり、

よし、次、行くぞ出来るだけ早く用意をしろ。

だもんな〜別に良いのだが、デジタルタイマーを渡されて《それが零になったら転生だから、その前に何の職業にするか決めてそのタイマーの二ページ目のところで選択しておけよ今回の転生先は条件は在るけどそれ以外がランダムで、その体がどういう職業にむいているかは分からない。でも、選んだ職業でそっちの方に育ち易くは成る。例えば魔法使いを選んででも転生先は戦士向きなら結構バランスよく行くかもしれないな。戦士、戦士だと成長速度がかなり高くなったり完全特化型になるな。》

で、そのタイマーは66時間から動き出した。

そして職業は、最初は戦士にしようかかと思っていたけど侍で行く事にした。

何処に行くかは知らないが前みたいに人の一切いない物語は流石に無いだろうだから久しぶりに鍛冶をやりたい。侍なら刀作って試し斬りが楽し、宇練銀閣のような居合いも習得したいから・・・
だって一切見えない光速の居合いって憧れるじゃん！！

ゴホンッ

まあ、そういうわけで帰還した俺は超古代で作った武器やらなんやらが倉庫にあったので整理をして、一つだけ持っていくことを許されたから一番精度の高い斬刀・鈍を持っていくことにした。

今回の転生、行き先によっては俺の変体刀を作ろうと思っている。
一番目二番目は『頑丈さ』『切れ味』で行くつもりだが次からの主トル
題は変更する予定だった。

さて、いろいろとグダグダ話していたが現状について話そう。

今、俺は……

森の中に一人で住んでいる。

え？溜めるほどの事じゃないって？

いやいや、だって、

俺、まだ六歳ですから。

いやゝ三日前に俺を育ててくれていた御爺さんが亡くなってしまつてな、捨て子なのか戦争孤児なのか知らないが俺がまだ零歳？のときに拾ってくれたらしい。

らしいってのはただ単に俺の意識は三歳前くらいから薄らとしか出てこなくてそれまでは赤子の本能のみのような状態だったみたいだ。そして、こんな小さい時つてまるで生後数ヶ月の赤子を指すような大きさのときに拾つたつて言われたから。それは別にどうでもいい。

で、爺さんの話だがどうやら昔、どこかで高官職をやっていたのか・

・ いや、そうじゃないか？

そこら辺はよく分らないけど大分有名だったらしい。
そして周りがうっとおしくなっていてここに住み始めてほとんど此処から出ていないらしい。

しかし、此処には大体のものがそろっている。畑もあり、井戸もあり、小屋は無論在って地下蔵、冷蔵庫のような物も裏の山の洞窟の奥に作って在る。そして何故か鍛冶場であり、鋤から鉋、鎌などおそらく自作であろう物が並んでいて、どうやって一人で作ったのか、皆か！！と言いたくなるような柵がこれ等を囲んでいる。まだ体が幼い為、行動範囲は広げられないが、家畜小屋や畑やらを使って生活している。

まあ、いざとなったら俺の素晴らしいサバイバルスキルを使うまでだ。

鍛冶を行うには最低でも15歳くらいの肉体が欲しい。後九年しかし、使う鉱物が最低限の生活品くらいの量しかない。

これでは刀剣類は作れないやはり15歳に成ってから探しに行くしかないか・・・

今後の方針は

- ・ とりあえず15歳まで成長する。
- ・ 住みやすく少しずつ改造する。
- ・ 爺さんの墓をしつかりした物にする。
- ・ 爺さんの関係者が尋ねてくる可能性を調べる。
- ・ 俺の変体刀一本目の作成。
- ・ てか、ここ何処？
- ・ 何処の世界？
- ・ 服からすると大分昔・・・でも縄文とかじゃないよ？
- ・ でも爺さんただけ万能だったんだ？

あれ？途中から今後の方針じゃなくなってる？
まあ、十五歳までは此処の中、周辺で生きていくしかないんだけど
な。

嗚呼、早く大きくなりたい・・・

最初（第一章）の転生先は・・・何処？（後書き）

どうやらまだ、俺には感想は早かったらしい・・・ッ

誰か書いたら他の人もかいてくれるかなーってリアルで友人にメールで送ってきたのを感想に書いてもらったのだが・・・

七歳の・・・夏？（前書き）

交信・・・もとい更新、タイトルは本編に関係ありません、半分。

十五歳までは一年ずつ書いて行こうかと思っています。

七歳の・・・夏？

一人暮らしが始まり一年がたちました。

誰も尋ねてくることはありません。

爺さんの日記を見つけました。

ほとんど白紙でした。

外に出たことは書いてありました。大体定期で外に行ってます。

同じ日付ばかりなので年に一回くらいのペースで外に何かを買いに行っているようです。

でも・・・

今が何時なのかさっぱり分かりません。

暦もさっぱり分かりません。

でも、此処が地球ならおそらくどこかは分かりました。

きつと此処、中国です。日記が漢字だらけでした・・・ってか漢字しかありませんでした。

三国志の時代ですか？それとももっと前ですか？あの無双系のゲームの世界だったら絶望しかない気がする。軍師がビーム出したりしながら前線を駆け回り総大将が敵大将の所まで突っ込んで無双するとか・・・

フザケテルンデスカ？しかもそんなのが一国に数人もしくはダース居たりするんですね、分かります。

一般兵涙目……

気を取り直して
閑話休題

さて、現状外に出るのは問題だ。木の塀はどうやら上に上れるくらい本格的な塀のようなのだが……如何せん、梯子しかなく七歳児の身体では上れない。

上に何が在るのか木になる……もとい気になる。
それよりも外の様子が気になる。

小屋？の二階から見れば外は森だとわかるのだが……あくまで木が沢山見えるからだ。

と言うよりもさー普通こういうのって敵が来た時上りやすいように階段とか在るもんじゃないの？

いや、なんだ、爺さんが一度この塀を数秒で上りきっていたから不要なんだろうけど……

知っているか？梯子って上る時に使わないんだぜ……降りる時にも使ってなかったけど……

近くの建物の壁を使って三角跳びで登っていくんだ。

降りる時も順番に高い所から低い所を繰り返して降りるし……何に使ってたんだらうこの梯子……

え？何でそんなに元気な爺さんが死んだかって？

風邪だよ、なんか咳が問題だったみたいだ。咳が酷くなって来た時に言っていたな・・・えーっと確か、

ゴホッこ、呼吸がゲホゲホ・・・みだゲホ、れるゴホゴホッは、波紋が・・・ゴフウウウ！！

だっけか？

何で風邪を引いたのかは分からない。何者なのかも分からない。絶対に分からない。

でも風邪を引いてから急激に老化して風邪が治って一月で老死した。最後は百歳を越えていそうな老人だったな。

絶対に気にしない。
閑話休題

とりあえずこの一年は慣れの期間と、農具など此処に在るものに概念付加して使いやすくした。

直接打った訳じゃないからレベルは大分低いがまああの出来だった。

外に出ようとも思ったが・・・門がね、外に向かうあゝなんだ、その・・・物の怪姫のあの門、あんな感じだった。こういうのは開ける装置が在るはずなんだが・・・その装置、なかった。

素手で押し開けてたんだねきつと。

何々在るんだよこの門・・・他と半分同化して分かり難いし・・・初見だとじっくり見ない限り何処から出入りするか分からんぞ。

あと八年・・・長いな

七歳の・・・夏？（後書き）

ヒッハー!!

感想を得るとそのときの状況によるが大体こうなる。

八歳の・・・御告げ!?(前書き)

こうしゅん、十五歳・・・まではこんな感じのを続けるつもりです。

八歳の・・・御告げ！？

漸く八歳、身長もそこそ伸びた。

使っていた鍬がなんか知らないが急速に力をつけてきている。

毎回豊作なんだ・・・おつかしいな大地にマナの還元（少量）をつけて土地が痩せ難くする能力しか付けてないんだけどなあ

解析！！

『農将』の鍬

・能力『魔力浸透C』+8

魔力を大地に浸透させ活性化及び領域作成が出来る。

Cランクだと土地が痩せ難くなり、恩恵は耕した場所とその周辺半径1mを約半年ほど、野生動物、害虫が近寄らなくなる（境界化）。

+補正は能力が少し上昇し、能力によっては一定値でランクが上がる。

農家にとってうれしい能力！？

ん、追記？

PS・出来た作物は栄養価が高くなる。

・・・こ、これは俺に農王に成れとの神からのお告げか！？

《違います》

ならばなつてやろつじゃないか農王に！！

《だから違うつて》

しかし、先ずは保存場所の確保だな、劣化・・・遅延くらいしか今は出来ないが冷蔵庫に付けるか、後、他にも・・・

《キングクリムゾン！！》

この状況が終わるまで時間をふつとばす！！

フハハハハ・・・

出来たぞこれで青物野菜でも新鮮なまま1年は保存できる！！

更に更にイイ農・場・拡・大！！

堀に囲まれた土地全体の5%まで拡大した結果、最大貯蓄で六十人が一月籠城できる

・・・もう堀じゃなくて檻なんじゃないか？と思ってきた今日この頃。来年には堀の上にいけるくらいの身長になれるかなあ・・・。

外が見たいです。五十年以上ぶりに人間に会ってしまったせいか、二年で人が恋しく成ってきました。

・・・つて出入りできないから六十人が一月、単純計算で五人が一年は養えるって、

無駄じゃん。

蝶・・・じゃなくて超無駄じゃん。

お友達は羽を持った生き物限定な今の俺には超無駄じゃん。

家畜の餌は・・・いつそのことグレードアップしてやるつか・・・
別所でも作っているからたいしてこっちは使わないわけだから。

余った分如何しよう・・・

・・・畑の肥やしにして再利用するか・・・

——しかし、このときは気付いていなかった、そんな事すれば収
穫量が増える事に・・・

それにしても此処、広いよな、百人は暮らせそう、と言つかもう既に
村って大きさだから・・・

いつその事孤児やら難民拾ってきて村作るか？

全員何かに特化するように鍛えれば色物集団の出来上がりッ！っ
てか。

まあ、先ずは外に出られるようになる事が先だ。

せめて、外が見たい！！

八歳の・・・御告げ！？（後書き）

おまけ

さあ、いよいよ俺の変体刀造りも終盤だ。

今回作る刀の名前は・・・

王刀！！

ライキリ！！

「ってモンハンかよ！！ジンオウガを狩った覚えは無い！！」ガバ
ッ！！

（・ω・＝・ω・）キョロキョロ

「・・・・・・・・夢落ちかよ・・・・・・・・」

なんだか残念。

九歳・・・疑惑？冗談？（前書き）

本日二回目の更新だぁ！！

うん、その分問題が在るかもしれない何かあったら教えて欲しい。

九歳・・・・・・疑惑？冗談？

ヒヤッハー！！九歳だああ！！

コホンッ

九歳になりました。

身長も大体135cmは超えていると楽になりました。
そして今日、堀に登って外を見ようと決心した！！
と言う事で今、梯子を上っております。

に、してもふざけてるよな、普通にそのまんま木と言えるくらい大きな丸太が並んで固定して在るんだぜ？

どうやって作ったんだよ、堀20m以上の高さが在るんだ。

え？じゃあ何で二階から外の木が見えたのかって？前行ったじゃん小屋？だよ。

裏に在る山、結構使いやすく切り崩したり柵やら何やらを作ったりしていて其処からの進入は一切出来ない。

実はこの山、鉾山のように岩壁を削った所に小屋が建っているんだ。大体20mの高さにね。

其処までは階段だったよ。その小屋の奥に坑道があったのは驚いたけど。

最初行ったときは爺さんに抱っこしてもらって言ったから最近久しぶりに行って坑道に気が付いた。

つるはしや猫車とかが手前の部屋においてあった事からあの道具は全部自作のようだ。しかも鉄鉾石から。

再三思う爺さん・・・何者だ。

ツと、こんな事考えているうちに頂上に付いた。

・・・え〜〜〜

無いわ、これ、何で幅がこんなに？一本の直径が大体2〜3mだったのに上には板張り屋根付きの幅10m以上の通路、何箇所か小屋が在る、角と長い所には等間隔で、其処には扉が付いている事から何かが仕舞って在るのかな？

念願の外は・・・森の深くみたいで、この城壁から20mくらい離れた所から森に成っている。

木を使つての進人も無理だな。しかし、流石に草が茫々だな。

今度何とかするか、蔦が絡み始めてこれじゃ門が開け辛い。こんな風貌じゃ廃棄された皆みたいで迷い込んだできた山賊みたいなヤツが侵入しようとして来たら鬱陶しいからな。

さて、次はあの小屋だ。一つ目のは・・・

バリスタ？

おい待てモンハンで見たような形のバリスタが何故此処に在る！！

て在るんだ？

——趣味もとい浪漫です。by 爺さん

……まあいい、活用させてもらおう。

傀儡兵でも作ってみるかな？

あ、でもその前に工具か……

PS・いつの間にか農将の鍬が農王の鍬に成っていた。魔力浸透がBランクに成って名前まで変わった。

効果期限、範囲が広がり、耕せる範囲も広がった。

何でか耕す時に衝撃波？が出て力の入れ方によって最高5mまで扇状に一気に耕せる。

追記にはあと一息で最終段階！！パオヘエ宝貝になるのも近いかも！！だつてさ。

最初の宝具が鍬！？冗談でも苦笑いしか出ない。

十歳・・・完成、そして遭遇？（前書き）

切り良くかけたので？として投稿。漸く、そしていよいよ新しい人がっ！！

会話が上手くかけるか心配。

十歳・・・完成、そして遭遇？？

ヒヤッハー！！

成長期はまだ続くぜー！！

ついに身長も150を超えた！！

そこそこ身体も出来てきたから出来る事が多くなったぜ。

そして、そしてついに！！

鍬が、

宝具になった！！

豊穰神の鍬 ランクC

結界宝具／対軍宝具

レンジ：1〜約40

最大補足：、

一振りで一石（大体人が一年食べる米の量）の米が取れる範囲（約一反＝1000平方メートル弱）を耕す事が出来る、なお、耕した土地周辺はその土地、作物に害を為すものの進入を拒む。

この鍬を使った土地は、数十年滅多な事では枯れる事が無い。

—— 詳細説明

存在を強化され続け宝具に至った。

基本結界宝具だが領域作成時に衝撃波を出す、それで攻撃する事が出来る。

領域作成はON/OFFが切り換えれる。

領域内に作物が一定期間植えられないと領域は消滅する。

作物の手入れが無くても同様に消滅する。

なお、衝撃波には威力は無い、あくまで害虫などを外に弾き出すためのものである故。

最後に、戦闘時には使用が出来ない。

—— 以上。

つまりは戦闘力が皆無也。

鍬を振る際に体がふら付かない様に、ちゃんと鍬が振れる様になって結構無差別に鍬を持った状態で自分に強化をかけていて、それに鍬が巻き込まれていたようだ。

まあ、守りに回れば最強？そのままだと土地に悪影響を与えない限り侵入は可能だが種さえ蒔けば其処を踏む（踏み固める）ような考えを持っていたり侵入したところでもし踏みそくに成れば領域外まで弾き飛ばされる。（試した）

ああ、あと言い忘れていた。

この宝具は、飢えている人にスッゴイ優しい。

実はこれが出来てから外に出る事が出来るように成っていたから、
といっても壁の上をロープを使って経由してだけど……

そろそろ（鳥以外の）肉も食べたくなくて外に小規模な農場（それでも合計一反分は在る）を作って領域にはじかれた先に罾を作って生け捕りにする（食べれないのがかかって困るから）と言う考えで用意したんだが……

実った頃、肉も手に入れ、作物が良い頃合だから収穫しようとして見たら、

人間が野菜を食べて寝ていました。

大人七人、子供五人合わせて十二人

久しぶりの人に頬が緩みかけたが先に状況判断

見た目から少なくとも二・三日は飲まず食わずだったのか、そして食べたのが水分豊富な物ばかりな事から野菜関係の農業を行っていたのだろう……

まあ、いい。

久しぶりの人だ、飯くらい食わせてやろう。

しかし十歳児の身体では全員を塀を登って中に運ぶのは難しい。

寝かしておいてやりたいが仕方が無い起きてもらい、自力で中に入ってもらおう。

門を開けるには……試作品だが少しは持ってくれるだろうか。
自分ひとりで門を開けるための無理のありすぎる装置を使うしかないか。

さて、ん　ん　　人に話しかけるのも久しぶりだな。

「すみません、起きてもらえますか？」

あれ、そういえばどうしてこの人たちは領域に入れたんだろう？

十歳・・・遭遇？（前書き）

何か上手く掛け合いが出来ない。多くのキャラを使いこなすのは難しい・・・

十歳・・・遭遇？

「すみません、起きてもらえますか？」

その一言を持って一番年上の女性に話しかけた。

だって、一番冷静に事を運べそうだから。

・・・起きない。

仕方がないので少し揺すりながらもう一度言う。

「すみませ〜ん、起きてくださ〜い。」

声も少し大きめで。

「ん・・・ん・・・」

少し反応があつたがまだ寝ていたいようで寝返りを打つ。

前に此処に来たのが二日前、そのときはいなかったので最長で二日前の夜からここに居ることになる。

此処は森が途切れていて壁があつたりで時折変に風が吹いてくる事が在る。なので、余り此処で長くいるのは彼らの疲労した身体にはよろしくないと判断。

一人でこの人数を起こすのは大変なので起きてくれそうな人を起こして。

「すみませ〜ん、起きてください!〜!」

今度は大きく揺する。

「うわ！！なんだ！？誰だ君は！！」

第一村人（仮）との初遭遇（笑）。

「えーと・・・それはこっちの台詞なんですけど・・・

まあ良い、こんな所で如何したんですか？見た所数日間ともに食事を取っていなくてここに来たら野菜が生っていたから思わず食べて在る程度食べた所で満足して寝ていたようなのですが・・・何日前から此処に？最長でも約二日だと思うんですけど？」

笑顔で、有無を言わさない雰囲気を出しながら言い放つ。

「え？あ・・・」

「ゆっくりでいいから、答えてください。」

再び問う。

「あ、ああ、此処に付いたのは夜だった。此処の野菜を食べてすぐに寝て・・・どれだけ寝ていたかは分からない・・・五日以上最低限の水と木の実を少ししか食べてなかったし、ろくな睡眠をとっていなかったから・・・」

「・・・（ふむ）・・・嘘ではなさそうですね、それに何かから逃げてきた様子、皆さんを起こしてください、中でちゃんとした食事と寝床を用意しましょう。」

「な・・・本当か？」

・・・疑心暗鬼になりかけていますか・・・

「はい、その程度でしたら対した事ではないので。元氣になたら農業を手伝ってもらえればそれでいいですよ、外の話も聞かせて欲しいですから。さ、他の人も起こしてください。入り口に案内します。」

「ああ、わかった！！」

よし、第一段階終了。次は・・・門の開閉と急いで中に入ってもらう事か・・・

しっかり動いて皆が入るまで持ってくればいいのだが・・・

さて、

「皆さん起きたようなので門のところに連れて行きます。それについての注意点を先に言っておきますね。」

門が空いたらすぐに中に入ってください。

ただそれだけです。あとは中に入ってからにしましょう。」

「え・・・どういことですか？すぐに閉めないと危険な獣が入ってくるのかですか？」

若い女性が少し焦ったように言う。

「いや、そういうのは近づいてこないの大丈夫です。問題は開閉装置・・・カラクリが私一人で動かせるようにするために無理をしていて・・・長い間持ちそうに無いのでもしもの場合を考えて速やかに入ってもらいたいです。」

「一人？それは・・・」

「その事についても中で話しましょう。子供たちがもう限界みたいですよ？」

「あ！！本当！！」

「じゃあ、内から開ける必要があるのでここで待っていて、開いたらすぐに中に入ってください。」

そういつて鍵爪の付いたロープを投げ門の上に引っ掛け上り始める。

数分後・・・

ゴッ！！ゴゴゴゴゴッ！！

「開いた！？皆、急いで！！って子供たちもう中に！？」

開門から40秒・・・

バキッ！！ヒュ・・・ドゴオオオオン！！

「ふう、皆さんちゃんと全員中に入りましたか？」

「あ、ああちゃんと皆いるぞ。」

「焦りましたよ、まさかカラクリの主軸がポツキリ逝っちゃうとは突然落ちて驚いたでしょう。」

「まさかこう開くとは思わなかったよ。道理で早く入れと・・・」
何かぶつぶつ言い出す男性、

「ごはん」「食べ物どこ」

ご飯を催促する子供たち、

「外から見ても思ったけどかなり広いわね、大人はどこにいるのかしら・・・」

周りを見渡しながら大人は居ないのかと聞いてくる女性。

「大人は・・・あゝ、もともと養父だけでして、その養父も四年ほど前に逝きました。」

そんなに気にしてないので悪い事聞いたみたいな顔してないで着いて来て下さい。」

多くの建物の一つ、食堂らしき建物に案内する。

「今から作り始めるので、この部屋で待っていてください。」
そう言つて厨房に入り考える。

栄養を考えながら胃にやさしく量を用意する？

大変だがやってやろう。

料理開始だ！！

五分後・・・

「一品目完成！！どんどん出すから順に食すが良い！！」

「あ、あじゃあ、いただ・・・やっぱ子供たちもう食べ始めてる！！」

子供たちは妙に行動が早いな

そう思いながらも料理を作る手を止めない、テンションが上がつてくるが気にしない。

「ヒヤッハー！！二品目完成イイイ！！」

「あ、まだそれ食べて無い！！」

「頂きー！！」

「あー！！」

・・・

・・・

・・・

その後難民十二人に対して約三十人前の食事を作るまでこのハイテンションな食事は続いた。

十歳・・・会話？（前書き）

本日二度目の更新、あと数話十歳が続く予定・・・しかし、次で終わるかもしれないし、しつこく続くかも知れない。

十歳・・・会話？

「さて、食事も済んだことだし、いろいろと教えてもらおうか。初めに、いったい如何してこんな森の奥地へ？」

あ、やべ、さつきまで敬語だったな俺。

「そのことですが・・・今年は凶作で私たちの住む国の県令はそれを知ったとたん、突然税収を割合から土地に応じた量を収めろといってきたんだ！！自分が贅沢をするために！！」

ああ、よく在る悪徳政治家か・・・

「それで逃げてきた、と？」

「ああ、俺たち以外にも大体の農民は夜逃げを決めた。あいつは余り自分で考えたりをしていなかったからな、みんなで結託して同時に夜逃げをしてやった。するとだ、気が付いたヤツは軍をけしかけて来やがった。そういえば軍にだけは給料をしっかりと払っていたな、能無しの癖に反乱だけは恐れていたみたいだ。

すまん、話がずれたな。

それでだ、軍が俺たちを捕らえるあるいは殺しに来たんだ。うん？どっちなんて分からない必死で逃げていたし、ヤツらは反応が遅くてもうすでに俺たちはちりじりに数里は移動していたからな。

馬も逃げる時に全部逃がした・・・と言うか何処かへ行かせて一時的かもしれないが使えないようにしたりして置いたから大分距離を稼げたのだが・・・こちらは食料も全部持ってきたから数日後に・・・大体今から五日ほど前に馬に乗った奴らが追いかけてきた・・・本当に何を考えているんだろうな。

逃げて数日経っているにもかかわらず追いかけてくるなんて。

まあ、でも少しの貯蓄とその年の収穫物を全部持つて逃げていたからあちらも逃がしたら領内の収穫物が零つてことになるわけだから分らない事でもないが……

そこで仕方なく大半を置いて逃げたんだ。そのせいでまともな食事を取れなくあそこの畑の作物を食べてしまったんだ。すまない。」

いや、領主も阿呆だがお前らも大概だな、貯蓄も含めて全部持つて集団夜逃げとか驚きたよ。

「別に其処はいいですよ。もともとあれは猪とかを捕まえるための罾のついでに作っていた作物なので。ところであなたたちの関係は？」

「三夫婦とその子供に俺、もともとは男どもで親友四人組だったんだが……俺だけまだ家庭を持っていないと言う状況だ。

今後余裕が出来たらいい加減俺も家庭を持つと思う………
 っつか嫁欲しいイイ!!」

後半、聞いてねえよ。好きにしろよ。何で言うんだよ。

「なるほど、仲の良い者で組んで幾つかに分かれて逃走した、ということですか。

まあ、グダグダ聞いても仕方ないので今日は次の質問で終わらせま
す。

子供たちもおねむの様なんで。

さて、今後行く先は在るんですか？」

子供たちが船をこいでいるのでそろそろ終わりにしよう。

この人数なら・・・まあ、長屋のような所を四家族分用意してやるか。

と言う別ごとを考えながら。予想される答えを待つ。

「残念ながら・・・うわさで聞いたいい県令が治めていると言う国へ行つてそこで働き口を探して暮そうかと思つていたんだが・・・子供たちが限界のようだから暫く此処に置いて貰えないか？」

やっぱりそうなるよな、子供の様子を見ればもう歩きたくないって顔してたしさ。

それに早い話が行き当たりばったりでつてことか。

「まあ、いいですよ？ただし、ちゃんと農業は手伝ってもらふ。働かざる者食うべからずだ。」

「わかった。むしろ他にも手伝わしてくれ。

ところで、何でこんな所に一人で住んでいるんだい？みた所まだ元服を迎えていない用だが・・・」

「ああ、爺さん、養父の事だが。その爺さんがどうやら此処を作つたようなんだ。その爺さんは齡100歳まで若々しくてな、おかしいくらいに。仙人だろ？と聞いてしまつくらいに。そして、その爺さんが亡くなってそのとき俺六歳、正直言つてしまえば、外に出る事が出来なかった。

それで今年に入つて漸くあの城壁を昇り降りして出入りできるようになった。

そしてそうこうしている内に住み慣れてしまつて、外に出る気もなければ外の事も知らないから必然的にここに住んでいる。で、いま

十歳だ。」

聞こえないくらい小さい声で、それに俺の作る物は時代からおかしいかもしれないから外に出るのもな・・・と付け加える。

「ま、そう言う事だからここに住んでもいいぞ？部屋ならまだ大分残っている。」

人も増えたから門を開ける装置もそれ程無理をした物にしくなくても良くなって出入りも楽になるだろうからね。

どうせ、あと何年かしたら住人を集めようかと思っていた所だから。計画が少し前倒しになるだけだ。

返事はまた今度でいいよ。皆で話し合って決めると言い。」
そう言って立ち上がり、

「さあ、着いて来て、寢床に案内しよう。」

「・・・ああ、分かった。話し合わせてもらう、ところでどんな所なんだい？今から案内される場所は？」

はて、どういう意味の質問なんだろう・・・そうか、子供独りしかないってことからどんな建物か気になるのか。

「集合住宅・・・といっても分からないか。長い建物を幾つかに分けて複数の家族が住めるようにした建物だ。まあ、ちゃんとしているから安心して良い。使い方も説明するからな。明日、朝になったら迎えに行くそのあとに食事をして、今後の事はそのあとに相談しよう。」

「分かった、何から何まですまない。」

「まあ気にするな、今度、外の事を教えて欲しい。物心付いたところには既にここに居たからね。」

いつの間にか敬語がなくなっているが・・・問題無さそうだな。
さて、いろいろと用意しておくか・・・

〃〃代表して話していた独り身の男性〃〃

ほっとけ！！俺だって少し気にしているんだ！！

つと、何か言わないといけないと思ったんだ。

それはさておき

渡りに船とはこういうことか行く先も食料もなく路銀も心もとない
そんな状況で大きな壁とそのそばに作物があつて空腹の余り食べて
しまったがその事について何も言われないどころかちゃんとした食
事と寝床を用意してくれると言う話だ。

しかし、これは何かの罠じゃないのか？とどうしても疑ってしまう。
あの少年も異様な雰囲気放っていた・・・

しかし、話をしたら納得できた。少年の言っていた養父はおそらく
あの仙人のことだろう。

昔、力を持った凄い人だったが政権争いに利用されるのが嫌に成っ
て森の中で住んでいると爺様たちが話していたその人だろう。

確か、気を使い、異常なまでの力持ちで余り武器を選ばず時によつ
ては木をそのまま引き抜きそれを振り回していたとも聞いた。

その人が養父ならばあのふんいきも納得が出来る（実際は関係あり
ません）

よく分からないがおそらく仙人もあんな感じで威厳を持っていたんだろう。

賊とかの陰謀ではないだろう、そう思える。

詳しい事は明日考えよう。

久しぶりにゆっくり、身体を休めれそうだ。

十歳・・・話し合い?? (前書き)

雑かもしれませんが更新!!

やっぱり多人数の会話は難しい

十歳・・・話し合い??

「おはよう、良く眠れたか？」

一晩経ち翌朝、俺は独身男性（仮）のもとを訪れた。

彼は独り身、故に部屋に入る前に最低限の合図をしてなかに入って起こす。

「ん、・・・・・・・・ん？ここは・・・・・・・・ああ、そうか、そうだったな。・・・・・・・・おはよう良く眠れたよ。」

自分のいるところが少しだけ分からなかったようだ。

「昨日、食事した場所は覚えているか？」

「あ・・・・・・・・確か・・・・・・・・この家を出て右に行って大通りを左に行って少しで左側だったか？」

「惜しい、大通りを左に行ってあと三階建て・・・・・・・・他より少し大きい建物で右側だ。けどそこまで分かっているなら良い、今から朝食の最後の仕上げをするから、他の人、起こしてから来てくれ。」

「了解、何から何まですまない・・・・」

「なに、元気になったらしっかり働いてもらうさ、その事についての話も食事が終わって落ち着いたらするから、どうしたいのか話し合いながら来るといい、井戸はそっちの扉から出たところにある。じゃあそついうことで、あまり遅くなるなよ、料理が冷めかねないからね。」

そう言い彼に割り当てられた家から出て、まだ寝ている難民家族×3の家の前を通り食堂へ向かう。

家……というより部屋の方がしっくり来るかな？まあ、そんなことは同でも良いか。

これで労働力確保が出来たと見て間違いはないだろう。

同じ面積でもしっかり手入れをして良い物が作れるようになる。

いや、作付け面積を広げてもいいかもしれない。

大体五反＋野菜等まで広げて空き地（もう既に何かが在る場所以外）の大体5%……え？

確か……最初が大体一反と少し、爺さんは外に山菜取りに言ったり狩りをしていたようで水田以外は割と狭かった。

こう考えると一人分で1%になるということは……全部を農作地化すると100人分になる？

城壁内部に何故これだけの空き地が？

建物とかも良く考えれば100人以上が住める広さと数が在る。

あの爺さんはこの森に隠居したみたいな事を言っていた、他人を寄せ付けないような森の奥深くに。

いちようは、人が二、三人並んで歩ける程度の幅の道はあったそうだが……爺さんが死んでからは誰も使っていなかったので雑草だらけだろう……。どっち道年に一回使っているかどうかだったので正直獣道と変わらないだろう。

ということは……あの人、一人で此処を作ったのか！？

・ ・
・ ・
・ ・
・ ・
・ ・
・ ・

深く考えるのはよそう
閑話休題

それよりも彼らの今後をどうするかだ。

まずは・・・此処でしばらく農業か何かをしてはたらいてもらおう。
農民だつて言っていたし、まあ農業だろうな。

次に外に出て行くのか行かないのか、これは彼らが出て行きたがっても暫くは待ってもらわなければならない。

なぜなら・・・門を開く機械は壊れたからだ！！

うん、前回見事に主軸がへし折れて使い物にならなくなった。

やっぱり、一人で動かせるように——この時代、ベアリング以前にそのようなものを作る技術すらないようで、木同士などの擦り合う摩擦、少なくなるよう間に石を挟んでも限界が在る。

一人で出来るようにするには、装置の重さを抑える必要があった。故に強度が足りず……ボツキリ逝っちゃったんだ。

あの爺さんも何で、も。け姫の門を再現したんだか……

つとこんな事を考えているうちに仕上げも終わってあとは並べるだけ。彼らも、もうじき来るだろう。

俺の作った作物は栄養価が高い、それにマナも豊富だから魔力切れの時にも食べると回復が早い。

今はマナは別にいらないが栄養価が高く吸収消化もなかなか早い。

明日、遅くても明後日には元気に……むしろ、逃げ出す前よりも良くなるかもしれない。

しかし、育ち盛りな子供も居るわけだし、動物の肉も要るよな性たんぱく質……

って、俺も育ち盛りの子供か……！

「さて、全員そろったかな？・・・良しそれでは頂きましょう。」

「はい、頂きます。」

「頂きます。」

「おいしー」

「これうめー」

「だめでしょ、ちゃんとお礼を言ってから食べなさい!!」

「はは、別に良いですよ。さ、冷める前に頂きましょう。」

何故か敬語で話す俺、何でだろう・・・

食事中・・・・・・・・

「さて食事が終わった事ですし、今後のことを話しましょう。」

初めに言っておきます。

暫く、この中からは出れません。

さて、このことをふまえて話し合いを始めましょう。」

「ちよつと待て、ここから出られないとは如何言つ事だ？」

一人身の男性が言う。

「ああ、それはですね。あの門を開けるための装置が昨日大破しまして、確か言いましたよね？主軸が折れてしまったと。そういうことで新しい装置を作るのに時間が掛かるという事です。」

うん確か迎え入れたときに言つた筈だ。

「何とか外に出る方法は無いんですか？」

一人の女性が言う、よくみるとなかなか綺麗な人ばかりだ、中の上？
「在るには在りますが何か急ぎの用でも？ちよつと危険な方法なので・・・」

「いや・・・急ぎの用なんてないよ、良く考えたら此処はかなり

安全な場所だ。

外に出て可能性は低いが、まだ私たちを探している兵士に見つかったら今度は助からないだろう。

だから暫く此処に置いて貰いたい。

と言うのが私の意見だ。」

今まで話していなかった既婚の男性が言う、どうやらこんな状況で現状について考える事の出来る人らしい。

「ふむ、どうやらそのご家族は同じ意見みたいですね。他の人は何か意見はありますか？」

在るわけがないだろう。確か当てはないがいい噂を聞く国へ行つてそこで何か職を探してつて言っていたしな。

「私たちもその案でお願いしたい。」

既婚者の男性Bがそう言う。

「同じく私たちも頼む。」

既婚者Cも同意する。

「私もお願いする。」

独身男性も言う。

「何か、私に対して酷いことを言っていないか？」

・・・勘の良いヤツめ・・・

「と、いうことは皆さん暫く此処に滞在ということですね。」

「ああ、よろしく頼む。」

「まあ、無論働いて貰いますよ。私一人で手が足りなくて困っていたんですよ。」

「とうとうとでいちらにそろしくお願いします。」

と、まあ、こんな感じで労働力を入手した。

十一歳―鉾山―(前書き)

迷走中

十一歳―鉾山―

11歳になりました！！

お陰で身長も150cmに成り、身体もそこそこ出来上がって来たため強化すれば結構重たい丸太も持てる様になりました！！

そこで、他の皆に農業を任せて本日から鉾山に行くことにします。

他にもまだ行けない開かない施設は在るんだけどやっぱり鉾山、そろそろ新しく物を作りたい。

今現在この壁が在るとは言えまだ、守りが十全だとは言えないので装備も更に充実させたい、だがしかしその武器等を使う人が居ない。

これはどうしようもない。

出来るようならラクリ兵を作ってみよう。まあ、その前に何が取れるのか分からないからどうしようもないが・・・

とりあえず、今は自分の（武家）屋敷でP。Pの中のポイント交換の欄で金属などのものを見ている。

その中で気になるのが

合成用『賢者の石』

合わせる金属によってさまざまな特性を持ったものが出来上がる摩訶不思議な石。

うん、オリハルコン精神感应性金属が出来上がりそうな気がする。

でもコストが高い、100000BP/500gだから1gあたり200BP、マナ換算で2000、この世界の基準は分らないけど、あの人たちが並だとすると視たところによると大人でLv5子供でLv1まあ、こんなもんだとすると・・・大人400人分？1グラムで？

うん、見なかった事にしよう。

気が向いたらまた見るということ。

ということやってきました坑道入り口の在る小屋に！！

此処に来るのは大分前にちょっと覗いた時だけ、あの時は坑道へ繋がる厳重な鉄の扉に鍵が掛かっていなくて何とかあけただけだったか今は身長が在るからここに来るのも楽だった。

あの時は余り見ていなかったが・・・結構、いろいろ在るな。

大きな机に椅子沢山、灯油？に松明の材料、金属のロッカー・・・
・え？

生前よく見た大きなロッカーが置いてあった。明らかに目立つはずのこれが全然目立たないように周りに溶け込んでいた。

しかし、周辺のものとの違いがよく分かる俺は、これを見逃す事は出来ない。

というより何が入っているのかがすっごい気になる。

そう言う訳で開け・・・・・・・・

開 け ら れ な い ！ ！

鎖＋南京錠＋門（鍵付き）で鍵が無いと開けられない！？

「鍵、鍵は？鍵はどこだ！！」

部屋の中を見渡す・・・・それらしき物は無い。

まだ部屋は在る、故に隣の部屋に向かう。

・・・・・・・・・・・・赤い。

先ず扉が赤い。

部屋の壁も赤い。

家具も赤い。

床も真つ赤な絨毯。

窓も赤いフィルター？が貼つてある。

何のためにこんな部屋をツ……………なるほど。

よく見ると壁はつるつるの金属製、窓も異常に頑丈、扉は外から鍵が掛かる。

更に、他の部屋全てに鍵が掛かる。更に此処はほぼ垂直な岩盤のそこそこの高さの所を削つてそこに立てた小屋だ。

と、更にを多用して根拠をあげて、もしかしたら捕虜を収容する施設かと思つたが違つようだ。

廊下を挟んで反対側の部屋は逆？に青い

そして、中に入ったら暖かい。

どうやら、壁やらに使われている鉱石が暖房の役割をしているようだ。

ならば、青っぽいのは冷房か？

つまり……………ただ、の冷暖房室？

快適に過ごすための？

もしかしてこの外からしか鍵が・・・ってのはただの付け間違え？

直して置けよ爺さん・・・機会があつたら使うか・・・

次の部屋は・・・管理室？なぜか扉の上にそう書いたプレートがある。

まあ、おそらく此処が目的の鍵の在る部屋なんだろう、きっと。

そして中に入る・・・

中は――

妙に丈夫で偉そうな机が一つにこれまたしっかりした椅子。

その前に長机そこそこ豪華な椅子が対称に計六つ。

最初の社長机？の後ろには棚、横に・・・あつた、鍵・・・束？

俺が見たものは、一本が五寸（15cm）くらいの鍵の沢山付いた鉄塊、鍵の穴に通した鉄棒をコの字の鉄塊で固定し束ねた南京錠に近いもの。

これは、誰も盗みたがらないな。

その後社長机（仮）の引き出しから鍵錠（仮）の鍵を見つけた。

こんなものバラさなければまともに使えないのだから在るのだろうと探して正解だった。

正直、鍵も装飾が凝っていて一本500gはありそうな既知外設計それが二十数本。

鍵錠も単体で10kgくらい在るだろう。

結果、軽く20kgを超えている鉄塊が出来上がる。

閑話休題

さて話を戻してそろそろ採掘に向かおうと思う。

さっきの妙に嚴重なロッカーの在る部屋、そのロッカーを開ける・
・・・

どの鍵が正解なんだ？

一番端の鍵から試す、奥まで入らない。

二番目、奥まで入るが回らない。

三番目・・・はまず鍵穴に入らない。

四番目、鍵は回るが錠は外れない。

五番目・・・・開いた！！

ガシャン！！・・・鎖の方を忘れていた。

・・・南京錠に合う大きさの鍵が無い。何処かに無いか
部屋を見渡すとそれっぽい金庫があった。

「こんな時、どんな顔をすればいいのだろう・・・開くかと思っ
たら開かず、その鍵の入っていると思われる金庫は・・・

高い所に置いてある

しかもご丁寧にロッカーの上、今もっているこの鍵束の鍵、三番目

の鍵で開けられるって分かっているのに

身長が足りない!!

ここにおいて在る椅子ではバランスが悪くギリギリの高さだから危ない。

近くの部屋から台になるものを持ってくるしかないか……

正反対の部屋まで行って何とか良い大きさの椅子を見つけた。

他の部屋は何故か私室のようにつくりで坑道の入り口に（の）在る小屋とは思えなかった。

あの青と赤の部屋と同じように成っていてそれぞれ何かの部屋なんだろう。黒と白が残りの部屋の扉及び内装の色、四聖獣から取ったのかな？

ツとまあ、そんなんで漸く開けたロッカーの中にはつるはしが三本、ボロイのと普通のとなんか凄そうなの三つ、あとメモ。真ん中に貼ってあった。

えーっと？

『このつるはしは左から順にボロピッケル、ピッケル、ピッケルグレードと言い、

グレートを使ったものが所有者となる。

所有者は材料があればこの三種の作り方がわかる。

ボロ及び無印のピッケルは他者に使わせることが出来る。

このピッケルは採掘点（一定距離毎に置かれる）にて採掘行為を行うとその場所に応じてさまざまな鉱石が入る。

採掘点は持てば勘で分かる。

後は自分で体験せよ

では、良い採掘生活をWWW『

・・・はい、転生者確定。

波紋は奇妙な冒険の、あとMHの採掘、肉体強化と素材？装備じゃなくて・・・これだけじゃないはずだ。

絶対に何か有る。

まあ、これは置いておいて。

鉄塊かぎたばをP○Pに入れる。

え？なんでP○Pを持っているかつて？
十一歳になった日、枕元に置いてあった。

何でもP。Pかそれに似たものを手に入れることが出来ない場合こ
ういう風に送られるらしい。

これで容量は2 / 24入っているものは、斬刀と鉄塊（鍵束）
そして、何故か、鍵束が、武器に、分類されているッ！！

・・・これに関しては何ももう言わん。

さて、ピッケルグレートを持って採掘に行くか・・・

何が手に入るんだろうか・・・鉄鉱石は絶対に欲しいな・・・

十二歳―氷解―皆の現状（前書き）

次は何を書こう・・・

十二歳―氷解―皆の現状

さて、いよいよ十二歳生前の時代で言えば小学六年生の年齢、体もだいぶ出来上がってきた。

この一年では、武器と鎧（革と鉄の混合）を作って男どもに最低限の自衛（俺基準）ができるように鍛えて、突撃槍、大剣、大槌、片手剣盾付きetc

流石に、これらの武器は俺が作ったわけではない。年齢的にまだ一年くらいは包丁や農具より大きなものは作らないつもりでいるからし。

これらの武器はあの鍵束で大きな倉庫を開けたらそこから出てきた。

それを見て漸く爺さんの得た能力が判った。

モンハンの装備作成技術とその素材を手に入れる方法だ。

そして、ハンター並みの身体能力を手に入れるための波紋。

これだけピンポイントということはどこに転生するか知っていたのだろう。

確かに聞いた話だと現在の主流の武器は剣と弓、しかし、一部例外的な武器を使う人がいるらしい。

まあ、流石に槍は木製の持ち手に鉄製の穂先が主で突撃槍のような重量級の槍は一般的ではないそうだ。

だが、教えた。

大槌は・・・特定の軍には居るらしい、將軍の武器に合わせるように同じ種類の武器を持つ兵士も結構いるらしく、将が大槌だと三

割ほどが影響されたという話を聞いたことがあるらしい。
そして、やっぱり基礎は教えた。

しかし……鉋石が取りやすいとはいえインゴット装備が各10セットあるというのには驚いた。
だけど、残念ながら着てまともに動ける奴はいなかった。そしてこの時、鍛えて使えるようにしてやると決意した。

俺？無理だよ、身長がまず足りない。

今までと同じように成長すれば再来年には使えるくらいの身長、体格になるだろう。

しかし、ここ最近、よくこの森に人が入ってきているようなんだ。ちよつと森の最深部（じふく）から中間地点より外側に山菜採りその他のために出かけた時に森の入口から100m位の地点まで人が入ってきていた。

だけど猪のボス（まるでドスファンゴ）を見て見つかる前に退散していった。

爺さんの能力のせいかな、異常にでかい猪四、五十匹に一頭ドス……じゃなくてボスがいる。

と言っても本当に群れのボスと言う訳ではなくただそれくらいの数、デカイ異種が居るという事だ。

完全にファンゴとドスファンゴなんだけどね。

ほかは普通の動物ばかりだから問題ない。

ファンゴ（仮）の個体数はおそらく500頭ほど、つまりドスは10〜12頭ほど居ると言う訳になる。しかし、何故だか狩っても数

日が増える。

森はかなり広大だが、大猪も一箇所^{ファンゴ}に固まっている筈もなく一緒にいるのは二、三頭。

だから、正直な話三十分も歩けば必ず遭遇する。

俺は肉としてよく狩っているが……。兵士十人いれば半分犠牲に一頭……。否、だいたい二、三頭が固まっているから三十人で頑張つてばらけて狩つて……。担当外のやつ突進をくらう事も考えると……。四分の一が生き残つて三頭狩れるかな？

表皮が分厚いせいでまともに剣が入らないんだ……

俺は斬刀で狩りを行なっているから関係ないのだが……。この剣は斬るは斬るでも叩き切るだから、ちょっと難しいなダメージは入られるけど致命傷は与えにくいだろう。

と言つても十歳六ヶ月位から一頭だけのところを背後から一刀両断していて、最近漸く正面から狩れるようになった。

何度が死にかけたのはいい思い出。

まさか、倒して欲しい分の肉を剥ぎ取ろうとしてところで草叢から出てくるなんてタイミングが悪い。

目的の半分だけとつて逃げたよ、その時は。

ドスと？流石にまだ戦おうとは思っていないよ。流石に一発も喰らわずあれを倒すのはきついから、ちゃんとした防具を装備してから狩りに行くよ。

でも、狩る必要性がないから衝突は避けている。

あの人たちが此処にたどり着いた時の事を考えていろいろ用意しておくか……。弩とバリスタのたまを用意して……。門の開閉装置は……。あと少して完成か、真逆、必要な木材が無くなるとは思わなかった。

主軸となる丈夫な太い真直な木がなかなか見つからなくて大変だっ

た。

でもあと少しで完成だ、完成したら男衆連れて猪狩りに行くかな。

実践は重要だ。まあ、こいつらが使えるようになったらドスも狩りに行ってみるか。

あと二、三年掛かりそうだけど!!

まあ、この話は横に置いておこう。

しかし、解体包丁「政宗君」は今日もいい切れ味だ。

粗雑な鎧なら中身ごと三枚おろしにできそうなくらい。

何を解体してるかって？猪に決まってんじゃない。

すぐに解体して処理しないと臭みが残るからね、大急ぎで解体中。

「零閃!!」

今は一機が限界です。

去年から練習を初めて一年でこれだからこの体のスペックはすごい。戦士じゃなくて侍だったらもっと早かったのだろう。

にしても元農民とはいえあの男衆、素振りだけならもうすぐ今年1

1の自分の子供にもう、並ばれそうってどういう事だ!?

癖で切りおろしが鍬を振るように大振りになりすぎるのが良くない。と言つか此処の鍬なら軽くて十分使えるのだからそろそろなんとかして欲しい。

朝昼晩の食前食後の素振りを200から400に増やすか?

ちゃんと体型にあつた重さの木剣とか使わせているんだけどなあ。夕方の模擬戦の密度も上げるか?

毎日ちゃんと波紋の呼吸もどきもさせているのだが・・・やっぱり、全員に武将と一対一で戦えるようにするのは厳しいか?

もう体も農業用にできていたのから作り直さなければいけないから・・・

子供たちは一から作れるから良い出来なんだよなア

でも成人男性四人男の子三人と俺だけだと広さの割に戦力が不足していて護りにくいんだよ・・・

流石に女性にも護身として弩と短刀を簡単に教えてはいるけど・・・
・女の子二人が弩の一番軽いのでダーツのように遊ぶのから下の上の弩でまるで弓やアーチェリーのような競技レベルで遊ぶようになっていたのは驚いたが・・・時々ママさん方も参加しているところを見るが・・・絶対やり込んでいるよ、あの人たち、静止的になら照準合わせるの一瞬だから。

もしかしたら男より女の方が強いかもしれない・・・否、強い?

投げナイフでダーツみたいなことやっていたしさ・・・この調子なら後衛任せでも問題ないかも・・・

ああ、そうだ、難民の皆さん全員此処に定住する事になった。

まあ、去年聞いたら何を今更って感じで言われたんだけど。

さて、さばいた猪肉もすぐ使うもの、燻製にするもの、塩漬けにするものなどに分け燻製以外の処理は終わった。

昼食の下ごしらえも終わったことだ、燻製は・・・まあ、時間まで放置しておけばいいか。燃やす物なら立体渦巻き蚊取り線香のようにして、時間で燃え尽きるようにしたから問題ない、多分。

さて、一人目片手剣

「167、168、169、170・・・」

お、そろそろ終わりそうか・・・でもやっぱり少しブレがあるな。

二人目大剣、あの唯一独り身の人だ。

「フンツー！（。d）ハッ！エイヤアアー！！」

踏み込みながらの三段切りの練習、ノルマの200回素振りはまだ終わって、自主練習のようだ。

途中におふざけが入っていたのは見逃してやろう。

ランス
三人目突撃槍、

「シッ、シッ、シッ！！ハアアアッ！！」

中段下段上段突きからのなぎ払い、突きは小さな動きで鋭く、なぎ払いは奇を狙って唐突に大きく、突きにちよつとのブレがあるがおよそできている。

扱いの難しいこれをなかなかの練度だ。

ただ攻撃からの防御への切り返しが少し遅い。

彼は一日に最低二時間の重装備での走り込みをさせている。突撃槍が突撃できなかったら意味がないからだ。

塀に十等分に壱、式、参と線を引いて書いてあり、一日にどれだけ走ったかをメモするように言っておいた。

成果は出ているみたいで、最初は式、参で倒れていたのが今では一周半くらい行けるようになったそうだ。

外周およそ20kmつまり30kmを約80kgの装備を着て走れると言つ凄いのが出来てしまった。

しかし、最高速度は5秒だけ36km/hつまり、50mを五秒で走り抜ける。

その後著しく動きが鈍るが・・・

さて四人目、大槌^{ハンマー}使い、

「150、151、152、153・・・」

なぜか横振りの練習ばかりしていて、振り下ろしはあまりやらない奴だ。

しかし振り回しが加速してそこからの力チ上げが怖い、そんなやつでもある。

本人曰く、「こっちのほうが当たりやすいし、相手が吹っ飛ぶのつて・・・なんかスツキりする。」

だそうだ。

右からでも左からでも殴れるスイッチハンマーを指摘しているらしい。

次は女性陣……何処だ？

少し歩いて、女性特有の姦しい声が聞こえてきた、何かで盛り上がっている。

どうやら壁の上から……

離れたところに五つの的、壁から三つは80m、二つは60m、それぞれの中率は順に六割七割五割、八割七割。外れたモノも周辺に刺さっていることから、中心を狙えば、相手の大きさによるがだいたい当たるだろう……

つ、次だ!!

男の子達は……

居た、一人が審判をして模擬戦のようだ。

チャンバラとも言っ。

木剣を使って斬り合い、利き手の反対には木製の盾、片手剣での模擬戦のようだ。

良く動く、攻め続けさせないように守ってすぐ攻撃、相手の攻撃の出に盾をぶつけて潰したり、とてもじゃないが子供の遊びではない。

あれ？十分逸般的じゃね？

十三歳―村民増加―

（ゝ・ω・ゝ）やあ

落ち着いて聞いて欲しい。

村民が^{かぞく}増えたんだ。

そして今、俺は部屋割りを決めるのに大忙しなんだ。

成人が27人、子供が33人の計60人。

そう、

村の男どもで^{ファンゴ}大猪狩りに行った時の話だ。

初めて行くから森の浅いところ（なぜか深くだと外側より強い）に行つて獲物を探していた。

するとだ、女子供の悲鳴が聞こえてきて駆け付けたら……うん、何かいっぱいいたんだ。

しかも^{ファンゴ}大猪二頭＋若い^{ドスファンゴ}首領猪に狙われて。

大猪……もうファンゴでいいや、ファンゴ二頭を任せて突進準備のドスファンゴを後ろから零閃で、後ろ足を切り落として横に回

って斬刀で胴体に対し縦に零閃、真つ二つ！！

と言いたところだが・・・残念ながら半分までしか切断できなかったが十分致命傷。

さらに後ろ足はないので近づかなければ危険もない。

残りのファンゴはどうなったのか見たら・・・

一頭はランスで頭をさつくり、突進してきたところをまず片手剣で側面から前足の付け根？を切りつけ、地面に向かい前のめりになったところをブスッ！！とやったのかな？穂先が額に三割刺さっている。

すごいのはランス使いの彼が盾を受ける面を横にして地面にめり込まして自分も先に踏ん張れる準備をして、ランスを押し込まれないように固定していることだ。

もう一頭は・・・こりゃひどい、突っ込んできたところをハンマーの横殴りフルスイングからの大剣振り下ろし（両方走りの勢い付き）で頭がパーン。

しかし、ハンマーの横殴りフルスイングの直撃はすごいな・・・少し跳ね上げられた痕跡がある。

この時点で死んでいたんじゃないか？

ダメ押し大剣で頭力チ割れてるよ。

アルエー？予想以上の強さをもう持っていたようだ。

中層ぐらいなら余裕なんじゃないのか？

武器が良いつてのも有るんだろうけど・・・えらくアッサリ終わっ
たな・・・

まあ、あの猪をどうするかは・・・先にあの人たちをどうにかして
からだ・・・な。

つてな感じで拾ってきた。

しかし、こんなにたくさんの難民、一体何があっただろう・・・

後で聞か、今は女性陣に炊き出しをして貰っている。

家屋は・・・大丈夫、足りそうだ。つてかまだ余裕がある。

10家族に七人の成人、子供は半数が孤児。

幸い？子供は年齢もピンキリ、手のかかりそうな年齢は何処かの家
族に預ければ問題無いな。

みんな教育して、外に出ても名をある程度残せるように育て上げて
やる。

・・・よし、こんな感じでいいか。

まず家族でまとめるのは当たり前で、小さい子は・・・後で預かってもいい人を聞いてその人たちに預けるとして。

あとは独身は仕方がないから一部屋でも優先して子供を預かってしてもらおうしよう。

分別の付きそうな子供は男女に分けて四人一部屋にしておく。

さて、食事中の彼らのところへ行って鍵を渡して来るか。

「さてと、先に皆さんの関係を聞いておいて、部屋割りを決めさせていただきました。」

ついでにこの村の責任者だという事はあらかじめ告げてある。

・・・納得してもらうのに時間がかかったけどね・・・

「部屋をもらえるのですか？」

まあ、今後のことを考えるので食事でもして待っていてください。って言ったただけだからな。

「でもその前に、どうしてここに？巨大な猪が大量に出る危険な森だということは知られていないのでしょうか？」

先日のあの人たちは引き際がよくて被害も大したものではなかったから情報が出回っていてもおかしくないんだけど・・・

「いいえ、確かにここは危険な森だという噂が大分前から流れていました。だからここそこには賊も入ろうとしません。だから、危険を覚悟して入ったのですが・・・」

ああ、なるほど、賊か・・・やっぱりそういう奴らもいるのか、しかし、それなら問題ないか。嘘言っている様子も無いからね。

「なるほど、しかし、一里も行かないうちにファンゴとドスファンゴ・・・ああ、あの犬と巨大猪を私がそう呼んでいんです・・・奴らに見つかって狙われ危機一髪という時に私たちが現れたということですか？」

「・・・いいえ、実は私たちの護衛をしてくれた人が一人いたのですが・・・文字通り、刃も立たずやられてしまい、あの時は彼が惹きつけてくれている間に逃げたのですが追いつかれてしまつて・・・」

ああ、一人犠牲が出たのか・・・だが、おかしい、なぜこんなに少ない？護衛が一人というのもおかしい
村の全員ではなく一部を逃がしたということか？

つまりはその村の壊滅は必死、だから逃した、未来のある若者を逃したと言ったところか？

「ちよつと聞き辛いのですが、逃げて来たのはこれだけですか？他の人は全滅したのか、それとも初めから居ないのか・・・どうなんですか？無理に答えていただく必要はありません。ただ、気になつただけです。」

だけど、目の前で全滅したと言うには精神状況が良いから後者だろう。

「・・・それは・・・私から話します。」え！？」

ん？ほかの人が立候補？

「流石に、一人だけに全部を話させるなんてことはさせません。今でさえ、涙を堪えながら話をしていたのだから。」

実は、私たちの村には老人や私たちの親世代が残り、私たちが逃げたことを悟らせないように惹きつけると言いだし、私たちを逃しました。私たち以外の若いものは外に出稼ぎに出ていたので、ただもう仕送りはいらないとだけ伝令をだし。みんなは村に残つて籠城みたいなみたいなことをすると言っていました。

県令にはもう救援要請を出したから時期に助けが来ると言つて！！」

「……彼らにも分かっているんだな“全滅が避けられないのならせめて”そう考えていたということが。」

「……もういいですよ。分かりました。あなたたちをこの村に受け入れます。ついでに、この村の一員になったからには、皆さんにはこの村を守るための力をつけてもらいます。あと二年したら外に仕入れに行くことにもなるので、その時には少数精鋭かこの村の半分を連れて動くことになると思います。それまでには半数でこの村の防衛が可能になるよう鍛えますので、覚悟してください。」

しかし、悪いことはありませんよ、その中の呼吸法には老化を遅れさせてさらに傷の治りが早くなる力もありますから。」

うおう！！女性陣がなんかすごい反応を見せた。

と、いうことで私を含めて72人の村になりました。

追記、なんか、いま、漢王朝らしいです。

十四歳・巷——異変?——金剛戦士(武将)『阿?』(前書き)

なんとなく今回出るオリキャラ三人を武將にしようかと思い、ここから三話それぞれについて軽く?触れることになります。

こいつはこうした方がよいなどの意見があればお願いします。

十四歳・巻——異変?——金剛戦士(武将)『阿?』

十四歳のある日の出来事。

ある日、森で猪をファンゴ小隊組んで探していたら・・・

山賊の下っ端ABCがあらわれた!!

さんぞくA

「みぐるみを おいていきな!!」

さんぞくB

「いたimeに あいたくないだろ?」

さんぞくC

「ずいぶんと いいものもってんじゃねえか。」

どうする?

はなしあう むしする

けなす せんでひっさつ

ニアことわる さしだす

ふむ、こっちは・・・片手剣に、ランスは・・・こいつらから見るとよくわからない筒なんだろうな。

ハンマーは・・・荷台を引いてもらっているから直ぐには戦闘できないと思ったのか?

「なるほど、確かに臨戦態勢のあなたたちからすれば、俺たちが構える前に攻撃できる自信が有る、そういう事ですか。」

なるほど、なるほど・・・

だが、断る。」

そう、俺が言うと同時に連れてきた三人が飛び出し・・・

「ということだ。」斬ッ！！

「……。」ザシュッ！！

「ハッハア！！相手をお間違えたなあ。」ドグシャッ！！

・・・ハンマーが妙に暑苦しい。

新規加入者を連れてきたんだけどこの人・・・始っから結構な筋肉を持っていたんだが・・・

鍛えたら・・・超マッチョに、今は全身鎧だからわからないけど、普段着だとはち切れんばかりの鋼鉄のような黒光りした肉体を持つ身長2m超の漢。

あれかな？ネタでDCSドーロンヌメフもどきを作って飲ましたのがいけなかったのかな？

というより、今も主食の如く毎日三回飲んでいる。

俺の作ったのは本物にでたらめじゃないから、筋肉の付きがかなり良くなる程度。

しかし、村異値の筋肉こと『阿？』アトンは一緒に、ファンゴを一日一頭と言わんばかりに喰らっている。

DCSを飲み物として。

そして、暇があれば筋トレ、しかも、無駄な筋肉は付けないような鍛え方で。

結果

一年で体重が二倍近くなったそうです。
もう大人なのになぜか身長も伸びて今に至る。

似非『波紋の呼吸』の効果もあるのかな？

つと、筋肉アドンのことはこれくらいにして本題に戻そう。

さて、今俺らは狩りについてに見回り、拾った人たちのような人がいないとは限らないから、時折こうして見回りをしている。

「しかし、何でこんなのがこの森に？この程度三人なら今頃野生動物の餌になっていてもおかしくないのだが……入って来たばかりなのか、大集団なのか……」

「まあ、どちらでも問題ないのでは？今を見る限り大半は訓練を受けていない素人集団。」

大体は自然にやられて自然と数が減っていくだろうから。」

「様子見、推奨。」

「何だア、妙に慎重じゃあないかあ、殲滅うしてしまえば良いのではあ？」

妙に好戦的だな阿？、だがかし。

「残念ながら様子見だ。すまんな、阿呑戦いたいたろうが今回はお預けだ。」

第一、奴等の潜伏場所も分らないんだ、無駄に探し回る必要はない。

それに、その間に入れ違いで村が襲われたら被害が出るだろ？」

「ぬう…ならば仕方がない。」

「被害つていつても精々汚れや傷が付くだけだろ、それも外壁や、周辺にな。」

「同意、彼処は要塞。」

「あー、確かにそうだな。女性陣は弩を始めとした遠距離系の武器的当てをして遊んで競い合っているからな・・・」

「こおの前え、たあしかあ？矢でえ、絵を書いていたなあ」

「…え？」

「細かくう等間隔いに印をつけてえそこに弓を射つてなあ？遠目で見たら立派なあ花に見えたぞお？」

「何ソレ怖い・・・」

どんな精密射撃だよ・・・

「そういえば・・・六つの子が壱番の家の窓から城壁の壱点の上部に付けた的を射って——下に矢が落ちていなかった事からですが——

——三本中三本当てていて、そのあとの一本が継矢になりましたね、

それはもう驚きました。」

「やめろよ、何だよその命中精度・・・怖いよ。」

六歳で？1番地の家から第壹点と言えば大体・・・30m、おそらく窓というのは二回のだから・・・大体直線で35mになるか。

その距離なら100%命中って・・・将来どんなことになるんだろう・・・

と、まあ、そんな雑談をしながらファンゴ二頭、ドスファンゴを一頭（無論それほど強くない個体だ。）

「よし、ここで出来る処理は終わった。あとはできる限り早急に運ぶぞ。阿？、頼んだ。」

処理を終え、台車に固定して阿？に呼びかける。

「御意イ！！」ズンッ！！

超重量の肉が乗った台車——なるべく軽く引けるように重心が置いてあってもかなりきつい。

それを、補助が三人でも大半は一人で引いている阿？にはとことん驚かせられる。

6：1：1：1くらいの割合で阿？に負荷がかかっていると思う。

それを一步の踏み込みで動かし始めるのだからとんでもない。

そして、我々はある速度まで加速をし、その後一定速度を維持して村まで向かう。

その後、持って帰った肉は一週間分になった。

今日の成果

- ・肉、一週間分を入手。
- ・情報《賊の存在》Lv1可能性ありを入手。
- ・阿？の武器に双鉄棍（二本ともが普通に大きい）が追加。
- ・阿？はさらに筋肉ステータスが増えた。
- ・阿？を解析、能力が明らかになった（あとがきに記載）。

十四歳・老——異変?——金剛戦士(武将)『阿?』(後書き)

姓 名 字名：捨てた。

真名：阿^{アドン}?

性別：漢

年齢：23歳(系?)

身長：205cm(未だ増加中)

体重：約0.2t

性格：豪快、暑苦しい

渾名：剛力の阿?

主要武器：大槌、棍、巨塊を削り出したような大剣

自慢の武器：筋肉

誇れるもの：筋肉

体脂肪率：5%以下(完全に脂肪を落としたりはしない。)

好き：筋肉が増えること

嫌い：筋肉が衰えること

信仰対象：筋肉(神)

尊敬する人：村長(灰根)『(本人曰く)素晴らしい肉体をくれた

神のような人』

習慣：一日三回のDCS、筋トレ

八百万の神の話を聞いていったこと。

「あらゆる物に神が・・・筋肉にも神がいるのだな!?素晴らしい・・・」

筋力 B+++

耐久 B+++

俊敏 C

知力 D

技術 D +

所持技能 スキル

鋼の肉体

鈍な武器なら弾くことができる。

剛腕 B

腕力の強さ。

瞬発的に筋力に補正がかかる

十四歳・弑―開戦―、静動騎士『防人』（前書き）

感想が欲しいです・・・

さて更新、中国名とかわからないので大分適当です。

こっちのほうが良いのでは？というのがある人は是非お願いします。

十四歳・式―開戦―、静動騎士『防人』

さて、この村には力、技、速の三人衆がいる。（一週間前に決めた。）

力は阿？、そして今回は・・・

技の『サキモリ防人』

役職から取られた真名の通り、大切な物の為に戦う20歳

大きな盾で敵の攻撃を防ぎ、一瞬の隙を突く、そんな戦闘スタイル体型。

その鋭い動きが、人より理解できる程度早いだけの彼を『極技の』と呼ぶ所以である。

その鋭く無駄のない突きは、極めた証しというほどで、狙った場所に寸分たがわず当たる。

状況、槍の軌跡、狙っている場所など、生半可な動きでは避けることは出来ないそんな攻撃を得意とする。

・・・直撃避けて生身で流す人外は居ただけ・・・普通、決られるはずなのに・・・

とは言うが実は苦行好きの廃人？というべきか、難しい武器ほど使いたがり、極めるまでただひたすら練習、実習を繰り返す。

ランスも、突きと言う点のみの攻撃さらに槍の大きさなどから、ほかより難しいと考え、突きを極めるためにこれを選んだとも言える。

性格は、至って冷静、物静かで動ぜず。

身長は180cm前後、体重は約90kg。

無駄な筋肉は付けず自分の動きに適した筋肉しか持たない。戦闘に至っては静から動へ急速であり予備動作は見えない。

故に静動。

彼との会話なども記したかったが、普段から寡黙故、会話も途切れやすい。

そのためこのような形式になった。

彼の愛用の武器は突撃槍、と言っても馬を使うためのものではなく、本人が地に足を付け使うと言う異端なもの。

ぶつちゃけ、モ。ハンのランスだ。

今更伏字も意味がない気がするがなんとなくなので気にしないで欲しい。

しかし、その中でも場合によって槍を使い分け、得物の射程の違いにもすぐ馴染む。

此処にいるものはなぜか姓名を捨て、真名で互い呼び合っている。おそらく、外から来たものには偽名を用いるのだろう。平均的な知識は持っているものの知恵の足りない阿？はどうか知らないが・・・

「よう、どうしたんだこんなところで？」

武器庫の奥の方、正直、時代に対し異端で、使うものも居ないだろうと思っていたガンランスが置いてある場所^{エリア}に防人がいることに驚き話しかけた。

「・・・・之、らんす？」

発音がなんとも・・・突然話しかけられて少し驚いたのか？

「まあ、確かにランスの仲間だな。ガンランスと言つて、火薬爆薬を使って爆発的な攻撃力を手に入れようとしたものだが・・・」

「・・・？」

「ただ、ランス以上に使い辛くて切れ味が落ちやすいんだ。」

「・・・！！」

「いや、玄人向けだからつて、目を輝かさないでくれよ。ランスが大体極めたから次はこれにに手を出したいのか？」

「・・・」コクコクッ！！

「・・・わかった、まず使い方を教える。・・・つと、これでいいか。弾は・・・四つでいいか。」

「了解、私も持っていく。」

「・・・はあ、これ、対人だと思いつきり過剰殺傷オーバーキルなんだけどな・・・」

防人が一番軽い物を持ち急ぎ足で外へ向かう・・・それをを確認して小声でつぶやく。

対大型獣、対竜装備だからな。

「・・・！！」ブンブンブン・・・

入口で大きく腕を振り早く来いと催促してきた。

「わかった、わかったそんなに急くな。」

大の大人がそれをやっても可愛くないからな。

つとまあ、普段無表情な奴が目を見開いて気分高揚していたからな・・・

ゲームと違って、弾は自分で装填しなくてはいけないし、数を持つ必要がある。

でも一発で人がパーンってなるから使う機会ないと思うけどな。

「はじめに、大体の使い方はランスと同じ、ただ、この引き金を引くと極短距離の弾が発射される。」

そして、実践する。

「・・・これか・・・」ガキツドンツ！！

やはり、反動で大きく跳ね上げられた。

「やってみて解ったと思うが反動が大きいからな。次のはちよつと大変だぞ、高速装填、一発射ってその勢いで回しながら空になった薬莢を落とし、そこに新しい弾をすべり込ませる。

重心とか、考えてあるから、うまい軌道で動かせばちゃんとできる。最大充填数で軌道を変える必要があるからな、要練習だ。」実践する。

「・・・承知。」流石にこれをすぐ試そうとはしない。

「次はいよいよ、最大攻撃力のトンデモ攻撃、竜撃砲だ。これは腰を落してしっかりと脇を締めて踏ん張って使う必要がある。隙が多いから注意しろ。この姿勢もそうだが、溜めがいるからその分さらに無防備になる。さらに、一回の使用で高熱になり、排熱のためにこの板、排熱板が開く。これが閉まるまで竜撃砲は使えないから注意しろ、通常弾は使える。」

「・・・うむ。」

「そしてここを押して溜め、この目盛が10…此処を超えたら引き金を引くんだ。試しにやってみな。」

「了解ッ!」

・

・

・

「ふう、さて、防人はどれくらいでガンランスを使いこなすようになるかな?」

防人と別れ、そろそろ鍛冶をしようと思い、とりあえず素材を見に行くことにした。

なぜか武器庫と鍛冶場が離れている。正直、作った武器を持っていくなのが面倒くさい。

阿?を使うか。

さて、素材庫はここだったな。

えーっと?鉄鉱石はたくさん、マカライトもあって、シーブライト、ベアライト、アイシス、ドラグライトまあ、大体は揃っているんだな。

阿?が嬉々としてピッケル持って採掘に行っていたからな。

いろいろ作れそうだが、

まずはピッケルの補充、それから・・・日本刀、いや、絶刀を作るか。前にはない材料もあるから本当に壊れず曲がらず刃こぼれしないものが作れるかもしれない。

しかし、まだレベルが20に達していないのでSP（使用可能魔力）に不安があるが・・・

まあ感を取り戻すための期間と思う。

・・・奴らが先に猪を狩るもんだから俺がまともに戦えない・・・だからレベルも上がらない。

さて、今回はどんな方向から不懷を目指すか・・・

ん？

あれは・・・

「ッー!!」

思考しながら城壁の上を散歩していた俺は急ぎ近くの小屋に入り、望遠レンズ付きのライトボウガンを構え確認をする。

「ッチー!!」

「そのの!!!皆で大人たちに装備を持ち、ここに来るように頼んで

くれ!!」

振り向き、壁の下で遊んでいる子供達を呼び、大人に対し緊急招集だというように頼む。

そして、その間に俺はバリスタに弦を張り、その他の砲台も使えるように準備をする。

数分後・・・

「おい、みんな集まったぞ!!」

「分かった、今行く。」

壁から飛び降りる。

ズンッ!!

「さて、迅速な集合、感謝する。」

「・・・そんな事より何が?」

「一昨日狩りに行った三人は知っているだろうが、この森に賊が侵入していた。」

ファンゴ
動物にやられてすぐに居なくなるかと思っていたら・・・

我々の使っている通路が見つかったようだ。しっかりと獣道に偽装していたのだが残念なことにな。」

「何イ？あそこの道があ見つかったのかあ？だが確かに荷台を運ぶときは極力う注意したのだがあ？」

「私たちもちゃんと偽装しましたよ？」

確かにしていた。俺も行なっていたんだ。それは分かっている。

「それはな、一番高倍率の弩の望遠鏡で確認したのだが・・・

唯の阿呆のようだ。

上司が獣道を知らないらしく、ただ人が通った道だと思っているようにでな、嬉々として騒ぎながら歩いていた。

後ろにいる奴の数名がハラハラしながら歩いていたからな・・・知っているのは一部のようだ。

もし、本当にファンゴの獣道だったら全滅だ。疾うの昔にな。

しかし、残念ながら我らの作った通路で獣も全く寄り付かないため此处から約5里（2.5 km）

偽装通路の方にも行っていたのでここに来るのはもう少ししてからだ。

なので、戦闘員、各員は直ちに城壁の上にて遠距離攻撃体勢で待機、俺はいちよう呼び掛けはするが恐く、戦闘になる。その場合、火を放たれては面倒なので早急に殲滅する。想定人数は30人前後――
――以上。――

《《御意！！》》

訓練していないんだけどなんでこんなに息がピッタリなんだか・・・

女性陣も混ざっているが・・・大丈夫なのか？

まあ、戦いたいものを止めたりはしないんだが・・・

さて、初の軍団戦、否、正確には殲滅戦か？

阿？を突撃させても終わりそうなんだがな・・・

十四歳・弐―開戦―一・静動騎士『防人』（後書き）

三人のステータスは次のが終わったら一話使って書く事にします。

十四歳・参―強くなりすぎた村民達―・不忍問者『草』（前書き）

なんか・・・雑な気がする・・・ゴメンナサイ・・・

次は何にしようかな

十四歳・参―強くなりすぎた村民達―、不忍間者『草』

さて、皆、戦闘準備が整ったようだ。
配置は、

バリスタに射手と弾の補充で一人ついて二人一組が四組
6人はヘビーボウガンを持ってすぐにしゃがみ撃ちの構えが取れる・
・外から見えないよう、壁に背を預けるような姿、素晴らしい力
バーの体勢で待機している。

女性陣は・・・十七人全員がライトボウガンを持って待機している。

賊が来るまでおそらく残り十から廿分。

実は、残り男性が三名残っている。

一人は剛力きんにくの阿？

一人は極技はいじんの防人

そして、最後は・・・

轟速ソウの草

轟速の由来は彼がしの不忍じゆんの忍者（間者）と言われるのと共通する。

彼は、普段は飄々としているがその気になれば小国の王ぐらいなら暗殺できる隠密能力と速さを持っている。（村全員で試して、誰も見つける事がなかった。）

だがしかし！！

奴は、忍者（間者）のくせに！！

派手好きなんだ・・・・・・・・！！

前に草の隠密技能はどれほどか試すための実験を行なったのだが……

その時、誰も自力で奴を見つけることは出来なかったッ！！

確かに出来なかったんだが…

野郎！！隠れているのに堪えなかったのか、ちよくちよく自分の存在を曝け出しやがった！！

爆薬（かんしゃく玉）を使って面白おかしく驚かせながらな！！

忍べよ！！自分で間者志望って言ったんだから忍べよ！！

フウ……（ハ、）ハア…

ツチ……

閑話休題！！

やつの主要武器は片手剣、双剣など自慢の速さを活かせる武器なら基本なんでもってスタイルだ。

無論、暗器、投擲武器も仕込んだ。

今度一本ヒ首でも作ってやろうかと思っている。

しかし何故だか妙に使い方が巧みでコイツを技に認定するのもいいかもしれないと思ったくらいだ。

……あとなぜか小さな火薬玉など、爆発物も良く多用する。

工作のために色々と教えたのだが……火と爆発に何らかの魅力を感じハマってしまったようだ。

故に轟音神速、略して轟速と皮肉と恨みと尊敬を込めてそう呼ばれている。

しかし、だ。

阿？はボウガンなどを使うのに向いていないのは分かっている、そ

して大量の石を用意しているから・・・何をするのかはなんとなく想像がつく。

防人は苦行廃人でガンナー系も現在進行形でやり込んでいて、俺からの指示を受けるために外が見える位置に陣取り、弓を装備している。拡散型曲射の弓だ。

此処までは解るが草はそういった武器は持っていない。暗器の投擲武器を使うのか、火薬を使うのか・・・

まあ良い、どうせ後で分かる。

俺は奴さん等が来たら取り敢えずの呼び掛けをすることに専念しよう。

そしてそのあと退避するか、下で戦うか・・・その場で考えるか。

バネを使った昇降機、降りるときには誰かの力を借りる必要があるが、登るときは一気に登れる不完成品。

それで、下に降りて門の前で暫く、十から五分待つ。

すると、奴らが此処に気がついたのか速度を上げてこちらへ向かっ

てきた。

そこですぐに話しかける、

「このような秘境の地に何のようだ？」

「なんだあ、ガキ・・・か？」

「何なんですかねえ？その微妙に疑問の点がズレた質問は？」

「なんでもねえよ！黙ってる！！

しかし、いい服着てんじゃねえか、どうやら結構金持ち当たりの村のようだな、

どうだ？金目のものを全部出せば命だけは助けてやるよ。」

「……今一度だけ問う、今すぐ此処から去る気はないか？今去り二度とここに近づかないならば追わないと約束しよう。」

「ア、アン、テメエ、状況解つてんのか？テメエは独りこつちは三十は居る、勝ち目なんてねえんだぜ？」

「交渉決裂か……で、後ろにいるアンタ等はどうかんだ？……残念ながら周りが許してくれないか……」

「なあに、ブツブツ言つてんだあ？どうせテメエはここで死ぬんだ……」

そこまで言つたところで攻撃許可を出す。手を挙げる

すると煙を吹きながら玉が落ちてきて地面に当たると同時に煙幕が発生する。

その煙に隠れ昇降機を動かし城壁の上に退避する。

上りながら見たものは大量の矢が一点に向かい飛んで行く光景だった。

城壁の上に着いて見ると、今まさに阿？が一般人の頭の大きさほどの石をを過剰投擲^{オーバーシュート}で投げるところだった。

戦況を見ると・・・怯て腰を抜かしている奴に、バリスタの弾で上半身吹き飛んだ奴、そして、ボウガンの矢で針山になったボス（さつき話していた奴）、近くの木に吊るされている奴・・・

何と言うか・・・地獄絵図？

そして今飛んでいった石がボスとその後ろに隠れていた者をまとめて四散させた・・・

分足らずで終了。

残心・・・生き残りがいないか確かめるが・・・

針鼠が約十人、木に吊るされたのが三人？赤い塊が・・・恐く七

人くらい、斬死体が一人・・・血で絵が書かれている・・・残りは四散していたり、穴だらけだったり・・・

周りの木々も一緒に被害を受けているので逃げられた者はいないの
だろう。

なにこのマップ兵器・・・門の正面から十メートル向こうの25m
四方で誰一人逃さず殲滅している。

しかも、無駄玉は一割もない・・・

ん？草が何していたかつて？

吊るしていたんだよ、煙玉を投げ込んだあと、俺と変わって下に降りて木の上とかで暗器の鋼線で吊るしていた。三人が疑問形がついていたのは一人、首が落ちていたからだ、多分使う系の細さを間違えたのだろう・・・さらにその合間、一人を惨殺、暗器の短刀で切りつけその飛ぶ血で簡単な花を描いていた。

とことん愉快に全力を尽くすやつだ・・・

.....あれ？俺何もしてない？

ステータス『**辺境の隠れ里三人衆**』**十四歳時（前書き）**

はい、ステータスです。

——
以上

ステータス『辺境の隠れ里三人衆』十四歳時

真名：阿^{アドン}？

性別：漢

年齢：23歳（系？）

身長：205cm（未だ増加中）

体重：約0.2t

性格：豪快、暑苦しい

渾名：剛力の阿？

主要武器：大槌、棍、巨塊を削り出したような大剣

自慢の武器：筋肉

誇れるもの：筋肉

体脂肪率：5%以下（完全に脂肪を落としたりはしない。）

好き：筋肉が増えること

嫌い：筋肉が衰えること

信仰対象：筋肉（神）

尊敬する人：村長（灰根）『（本人曰く）素晴らしい肉体をくれた神のような人』

習慣：一日三回のDCS、筋トレ

サーヴァント風ステータス《Cで大凡平均》

筋力 B+

耐久 B+

俊敏 C

知力 D+

技術 D+

デイスガイア風ステータス

LV:43

HP	1285
SP	133
ATK	618
DEF	618
INT	132
RES	397
HIT	264
SPD	309

所持スキル

鋼の肉体 B

鈍な武器なら弾くことができる。

剛腕 B

腕力の強さ。

Bなら瞬発的に筋力に補正がかかる

筋肉の導き B

筋肉で色々と分かるため、めったな事では迷いすら持たない、故に精神的な揺さぶりが効かない。

真名：防人^{サキモリ}

性別：男

年齢：20歳

身長：187.73cm

体重：81.4kg

性格：冷静沈着

渾名：極技の防人

主要武器：突撃槍^{ランス}（人）、弓、難しいもの

自慢の攻撃：精密攻撃

誇れるもの：努力

訓練時間：平均8時間

好き：身になる苦しい修行

嫌い：無意味な修行

尊敬する人：村長（灰根）

趣味：苦行巡り

サーヴァント風ステータス

筋力 B

耐久 C+

俊敏 C

知力 B

技術 B+

デイスガイア風ステータス

Lv. 39

HP 736

SP 561

ATK 401

DEF 361

INT 521

RES 441

HIT 441

SPD 280

所持スキル

苦行巡行者 A

臨むモノが困難であるほどやる気が出る。
持久力が上がる。

やり込み廃人 A

多くを極めることにより得たスキル
初見でもある程度の技術を持つことが出来る

冷静沈着 B

感情の振れ幅が小さいため常に冷静で居られる（一部の場合を除く）
揺さぶりがなかなか効かない、等精神攻撃に強くなる。

真名：草^{ソウ}

性別：男

年齢：24歳

身長：167.3cm

体重：61.2kg

性格：明るい、胡散臭い、騒がしい

渾名：轟速の草

主要武器：短剣類、暗器、火薬

自慢：絵心

誇り：気配遮断

戦闘傾向：派手な中に地味な必殺

好き：はしゃぐ事

嫌い：静か過ぎる事

芸術：爆発だ！！

尊敬する人：村長（灰根） 『爆発の素晴らしさを（ry』

習慣：火薬調合

サーヴァント風ステータス

筋力 C +

耐久 C

俊敏 B + +

知力 B

技術 B

デイスガイア風ステータス

Lv . 5 1

HP 7 8 6

SP 6 2 6

ATK 4 1 8

DEF 3 6 4

INT 6 2 5

RES 4 7 0

HIT 7 2 9

SPD 7 3 0

所持スキル

気配遮断 B +

Bランク以下の気配探知を無効化し、気配をほぼ無くす事が出来る。

派手好き B

派手な事が好きで、派手な事をするときに少しステータスが上昇する。

爆弾魔 B

爆弾の知識を持ち、爆発が好物。

爆裂系の攻撃に補正が掛かる。

■ 共通スキル

似非波紋の呼吸

出来損ないの波紋の呼吸法

新陳代謝を上げ、回復能力を僅かに上げてくれる。

筋力など身体能力が上がる。

老化がある程度遅くなる。

この世界では大凡の基準は

LV1～10：一般人

LV11～20：武を習った事が有る者

LV21～30：訓練を受けた軍人

LV31～40：下級武将

LV41～50：中級武将

LV51～：上級武将 呂布は100越え

と言った所とします。

．．．．．あ．．．

サーヴァント風で素質地決めてデイスガイア風ステータス作っちゃ
った．．．

まあ、いいや、原作開始時に素質地が確定するということでは
一つ．．．

十五歳―貿易、開始!― (前書き)

どうも、アイデアが浮かんでこなく・・・結構雑な物に成ってしまいました・・・

十五歳―貿易、開始!―

漸く十五歳になりました。

これで元服を迎えたわけだし、そろそろ村・・・否、森から出て外の村との貿易をしようかと思えますよ。

うまい作物ならいっぱいあるからそれを初めの商品にしようと思う。

部隊編成は守りに三人衆は残すとして・・・大体10人で行くか、男女五人ずつで。

誰にするか・・・募集でいいか、男女五人ずつ、物価、地理に詳しい奴がいたら是非、その程度の追記でいいか。

期限は明日の・・・日暮れ迄と・・・よし、食堂にでも貼って置くか。

その間に・・・足の用意か、ファンゴ二頭でなんとかなるかな・・・馬二頭で結構な量が運べるんだから問題ないはず。

だがどうやって捕獲して言う事を聞かせるか・・・

向く方向を強制して、発信停止加速減速ができればいい・・・いや待て、やっぱり此処は・・・

飴と鞭で調教するか・・・

一段階、鞭

死ぬ寸前までボコす

二段階、飴

治療する

言う事を聞かない

再び一段階、鞭

二段階、飴

まだ言うことを・・・

以下略

だんだんと怯えるようになり最後には言っ事を聞いてくれるようになった。

さて次の奴…

と思ったらやけにおとなしい、どうしたんだ？

少し覗き込むが・・・顔を背けられた・・・

調教見て恐怖覚えたか？

まあいい、好都合。

この調子なら・・・一週間後には出発できそうだ。

で、一番近い大きい街は？

え、洛陽？・・・

ま、まあ妥当なところ・・・かな？

そんな訳ないだろうがぁ!!

いきなり洛陽？

確か都じゃなかったか？あそこ・・・

・・・まあいい、野菜や穀物、果物売って猪以外の肉やあの村では手に入らない物を買って帰るだけなのだから変なフラグは建たないだろう。

・・・今度屋台作って食い物屋でもやってみようかな・・・

翌日!!

思ったより、集まったな・・・男17人女17人
総勢72名中38人が子供だ
つまり、大人は34人

・・・全員、志願しやがった・・・

だがしかし、まず三人脱落

特大戦力はもしもの為に村に残す。

で、えーと・・・こいつらは子供の世話のために残して・・・残り
10人ずつ

確かこいつは商人になるために勉強したって言っていたから連れて
行く、

こっちは地図を書く仕事をちょっとやっていたから地理に詳しい、

次は…

日が暮れて、漸く10人を絞り出せた。

皆物価、地理に詳しかったり、交渉術に長けていたりするものばかり

りだ。

最初の商売だからこそ、ここまでシツカリしたメンバーで行くわけだ。

舐められたら終わりだ、とまあ、ひたすら慎重にいつかと思っている。

荷車も大体作り終わっているからその当日に野菜・・・は長持ちするもので、後は米、小麦等等

一週間後が楽しみだ。

そして一週間後、

「じゃ、行ってくる、帰りは一週間後になる予定だ。」

「了解、村は任せろ。」

「ハッハア！！・・・筋肉にイよさそうな土産を頼んだぞオ。」

「私は・・・面白そうなものをお願いしますね。主に派手な方向で、

」

本当に、歪まないな後の二人・・・・・・・・

阿呑エ・・・

筋肉に良さそうな物ってなんだ？

食関係はほぼ最高の状況なんだが・・・

筋トレ用の道具とか、か？

否、そんなものこの時代には存在しない。

・・・帰ってきたら濃縮三倍DCSでも作ってやるか・・・
ドーピング コシヌメ

筋肉の付が更に大変な成長を見せる事に成るだろう。

唯でさえ現在進行形で体重が筋肉で毎月5kgずつ増えているのだから・・・！！

(注：現在、阿呑君(24)身長213cm体重約260kg)

面白く派手なものは・・・見てみないと分からないな。

しかし、いい加減、草には忍び耐える事を学んで欲しい。

防人には・・・なんか適当に買ってきてやるか。

御者として馬車・・・いや、猪車に乗って、隣にこちらの地理に詳しいものを座らせる。

「じゃあ、ちゃんと、見回りとかもしておいてくれよ」

返事を聞かず車を発車させる。

「ああ、そうだ！！子供たちに基礎体力作りをさせて置いてくれ！！——以上。」

自由すぎる子供たちに基礎体力作りのメニューを始めさせるのが大変なので押し付けて、是非を問わず逃げるように加速する。

後ろで何か言っているようだが・・・聞こえないッ！！

「ハッハア！！到着予定はどれくらいだ？」

「こ、この速さを維持できれば半日ほどッ・・・」

「すまん、やっぱりこの速さは辛い・・・速度を落とす」

「すみません、そうして頂けると・・・」

「いや、だから別に敬語じゃなくてもいいぞ。村人は皆家族の様なものなんだからな。」

「いえいえいえ、宗主様に対してそんなことは・・・」

うん、正しい使い方だ、でもこの場合宗主ってそのままの意味なのか俺が名乗った蒼朱を間違えたのか・・・

いや、でも真名とした灰根で呼べば良いといったはずだし・・・

「だあかあ、灰根でいいって。」

「ですから、私には・・・」

「だから・・・」

「しかし・・・」

・・・五分経過

「はあ、もういいよ解った解った、だけど何時かは自然体で話させてやるッ!!」

「お解り頂き有難う御座います。」

「ちくしょう!!その余裕がムカつく!!」

笑い声に包まれながら車は進む・・・まだ対話の駆け引きには慣れていないんだい!!

貿易収支・・・

《支出》

二週間分の食料

《収入》

村では手に入らない食料

装飾品

作物の種 e t c

フラグ？

原作キャラっぽい面影の子供にあったような気がしたが気のせいだ
！！

ただ、髪の色が珍しいだけの一般の人に違いないんだ！！

十六歳―絶刀完成!!?―（前書き）

はい、漸く書けました。

半分くらいからどうも上手くいかなくて・・・

十六歳―絶刀完成!!?―

ヒヤッハー!!

遂に、絶刀完成ダァー!!

超頑丈!!どのくらい頑丈かと言うと、阿吞が側面から思いっきり殴り付けても折れず曲がらず刃こぼれしなかったぜー!!

大変だった、作っては叩き折られ、作っては曲げられ……
苦節十年ひたすら層を増やし各々に違った耐性を付加して……

出来上がったのが之、絶刀・鉋（仮）

名前は後で決め直すかもしれない。

構造としては受けた衝撃を中で循環させて、最初に触れたものに全部流す。

もしくは次に入った衝撃と相殺させる。

問題点は受けた力が大きすぎると急いで流す必要がある。

流すには一瞬の接触ではいけない。

しかし、一瞬といってもそんな高速の打ち合いはほとんど無いだろう。

おおよそ0・1で溜めた力の四割弱を接触物に対して吐き出す。

許容限界は今の阿呑の全力3発で半秒後に軋む音が聞こえた、そんなレベルだ。

ちなみに、今の阿呑は、身長2・5m体重320kg。

何でも、筋肉の音が聞こえたそうで、それからどんどん大きくなっている。

阿呑はあと一年で筋肉を最高の状態にしてみせる、といっている。

問題は、どうやらその筋肉の声とやらに従い、波紋の呼吸を完成させたと言っ事。

それによって今、アイツは切り傷（業物での斬撃にもかかわらず、致命傷に程遠い。）くらいなら一分経たずに無くなる。

無論、腕力その他も上がっている。

本格的に人外になったな・・・

そんなことより絶刀だ、

ちょっと大きい目の直刀として作ったのだが・・・

柄が、両手で持てる大きさに、刃渡りは1m前後

そして、試し斬り、力と言えば阿呑。

と言うことで阿呑に持たせてみた。

まるで、脇差し・・・または、小太刀にしか見えない。いや、もしくは包丁？

そして阿呑の二倍、5～6mの大岩を切りつけてもらった。

大上段からの全力の振り下ろし、効果音で言うところドゴオオオン！！・・・ボガンツ！！

大岩が真っ二つに叩き割られ、切先が地面に着いた所で停止し、蓄積された力が破壊力として岩と地面に流れ炸裂した音だ。

なお、この後の実験でもある程度ずつ大気に逃げるが熱の蓄積も可能だと判明した。

これだと普通の金属と変わらないので言い直すと、大気への放熱が少なく触れた物に一気に流すようになった。色の変化もなし。

電気も蓄積可

・ 準備さえすれば単発使用の『火』と『雷』の属性を持つ魔剣だな・・・

しかし無論限界は在る。

しかし、今は知る事は出来ない。

だつて計測器無いもん・・・

今はもうすぐ三国志の時代？

草が月に数日外に行つて様子見てるけどやはり段々といろんな所で問題があつても対応が大分遅れていたりするようで、聞いた話有名なところの将も着々と仕官とかしている様で・・・
やっぱりそう言う人たちは確りとしている。

閑話休題

俺の作った絶刀は壊れない迎撃刀。カウンター

しかし、現状では阿呑パンチ×3が現界なので一応完成要改良といった所だ。

次の目標は斬刀、でも、“拠点”から持ってきたこれじゃなくて新しく創るつもりだ。

持ってきた斬刀は骨竜の低レベルなら斬れるといったものだ。

あいつ等おかしいよね、骨なのに鉄並みもしくはそれ以上に硬いか……

一体、何本アイツに折られた事やら……切味のみを鍛えたためか切れない物相手だとそのまま刀の耐久度越えてぼつきり折れてしま

う。

切れること前提で打ち合うことを考えていないから……

この世界には異能……魔法魔術の類はほぼ無いはずだから、此処では対物のみ考えた斬刀……持ってきたものはまだ切れない場合を考えてしまい強度もそこそこあるため今度は刀のリソースを全部切味にまわす事にした、そのため通常の耐久のみ。

分子、原子間結合への干渉方法が判明すれば即座に型が付くのだが・

まだそこまで細かい干渉付加は出来ない付加の熟練度が足りない。おそらく300は超えないといけないだろう。

絶刀のおかげで100ちよつとまで上がった物の上昇するにつれ上がり難くなるのは当たり前なので単純三倍どころの問題ではないだろう。

だからしばらく絶刀の強化を行っていきその中でも斬刀を原子間結合への干渉以外での方法の何でも斬れるを目標に頑張っていこうと思う。

具体的には今までの斬るの概念を他の切断形式……そうだな・

・断つとか良いんじゃない？
よし、それで行こう。

さて、そろそろ村の方の仕事・・・今日は・・・採掘に行くか、
全員分専用武器とか防具作ってたら珍しい鉱物が尽きたからな・・・
鉄鉱石はまだあり余ってるけど・・・輸出するのもいいかも・・・
坑道をもっと奥まで伸ばしてみようそうすれば上級の鉱物が出てく
る確率が上がるかもしれない・・・

でもなんか行き止まりの壁が他の所と違う気がする・・・

十七歳――・・・（。Д）・・・―（前書き）

ど・う・し・て！―！こうなつた・・・

おかしいな―

ついでにこの物語では一刻＝一時間とします。

十七歳――・・・（。ん）・・・――

本当に・・・驚いた・・・まだ何かありそうと思っていたが本当に有るなんて・・・

アレは去年からだったな。

いくらでも出てくるもんだからほとんどの金属製品を上位鉱石で作って（生活用品も）でもやっぱり出てくる確率は低いもんだからもっと掘れば、もっと深いところなら確率が上がらないかな

と、思ってた掘っていたら

・・・行き止まりだった所が他と違う・・・岩盤じゃなかったから不思議に思っていたんだ。

三ヶ月間、余裕のある奴らで採掘、掘って出た土を外へを繰り返し

たら漸く行き止まり・・・と言うより貫通した。

最後だけは硬い、しっかり硬く固めて岩みたいになっていた。

もしかしたら熔接みたいなのをして有ったのかもしれない。

その先には一つの扉・・・地下にあり木製の様でありながらも痛んでいない・・・大きさは・・・城門並み。

明らかに爺さんに関係が有りそうだ。

これがちょうど一月前。

その後、しっかりと準備して装備も新調し手になじむよう訓練もした。

そして、阿呑、防人、草の三人も完全装備で連れて、扉の先に進む事にしたのが昨日、そして今日出発。

「さて、準備はいいか？」

「無論、絶好調だ！！」

「・・・無問題」

「大丈夫ですよ、しかし我々三人衆を完全装備で・・・しかも貴方

まで完全装備だなんて・・・一体何が？」

だよな、そう思うよな、最近じゃドスファンゴ出てきても一人で余裕だもんな、ほぼ無傷で。

「分からない、そして恐らくいや、ほぼ確実に何かがある。万ーを考えてだ、今日は様子見だから深入りするつもりは無い。しかし、油断はするなよ。」

「ウム」「・・・ン」「了解しました」

「じゃあ、行くぞ。」

扉を開ける

そこは・・・

「え？」

「ぬ？」

「・・・!？」

「ほう・・・」

だだっ広い半円状の広間、入ってきた反対には巨大な鉄格子
周辺には等間隔に門がある。

そして真ん中に、

大剣、太刀、双剣、片手剣、ハンマー、狩猟笛、ランス、ガンラン
ス、弓、ライトボウガン、ヘビーボウガン

が刺さり一本の看板《ようこそ、ハンター達良き狩りを》がある。

更にそれらの武器は鉱石の武器では無く生物のもの骨、牙や鱗など

から造られた武器だ。

「ぬ？なんだあこの武器は？金属うではないなあ・・・竜の鱗かあ？」

「見た目からして竜の鱗ですね。」

「・・・不明素材」

大剣を見ながら口々にそう言う

まあ、他はネタ武器が多いからな・・・大南瓜のハンマー、猫の手型の片手剣、何故か皿の上に団子の双剣おそろくその左右に大きなナイフとフォーク一体何のつもりでこの配置に？

ん？下に何か書いてある・・・

《それぞれの門の表札を見てその後、この立て札を引き抜け》

・・・どういう事なんだ？

・・・むう、仕方ない従うしかないか。

一つ目・・・密林

二つ目・・・溪流

三つ目・・・樹海

四つ目・・・雪山

・・・MHのフィールド！？

見て回った結果、2nd G、3rdのフィールドはそろっているようだ。

で、看板引き抜いたら箱が出てきて中に説明書が・・・

まあ、予想通りそれぞれの門はフィールドに繋がっていて、リアルハントが出来る。

坑道入り口の掲示板で依頼書と取って入ればそのモンスターが出てくる、もって無いと大型が居る居ないからランダムだそうだ。

で、表記の無い一つの門はリアルモンハン世界・・・早い話が別の世界に繋がっているとの事だ。

此処は闘技場で、決まった量以上の供物で檻からモンスターが呼べる。

あとは武具の設計図だった。

これで完全に判明、

爺さんの能力はモンハンと波紋。

ハンターの性能に波紋の強化、正直下位とか楽勝だったのでは？

で、皆で武器を持って帰還、阿吞は南瓜ハンマー・・・霊槌力ボチャ王を持って早速狩りに言った

持つて行った依頼書は討伐で目標はアオアシラだったか？

依頼書は無駄に上手い絵も描いてあるから知らない奴でもわかりやすいな。

しかし、一人で・・・大丈夫そうだな。あの装備一応上位の鉱石で作った賊刀・鎧モドキ、ダメージの半分は受け流せる一品だから・・・

更に阿吞だ、むしろあの南瓜が壊れないかって方が心配だな・・・

あ、そうだ修行と称して狩りに行かせるのも手だな。

人数制限無いからあの巨大な竜に十人くらいで行かせるとかいいかもしれない。

最終的には数日かけてチーム対抗戦みたいなのをやろう。
同じステージで同じのを相手に、大きさは……まあ、運
も重要な要素ということだ。
それでタイムアタックだな。

それにしても……やっぱりもう少し村民増やすか……百足ら
ずじゃちよつとこれから先きつか？

最低百人を五部隊欲しい所だ。

部隊の編成は決めてあるのだが……人材が足りない。

隊長は俺、阿呑、防人、草、朱麗（ボウガンが一番凄い女性の真名）

其々の隊は順に黄竜、玄武、白虎、蒼竜、朱雀

玄武が重装甲部隊

白虎が軽装甲部隊

蒼竜は全員が間者でありながら戦場にも立つ遊撃

朱雀は全員遠距離専門の完全後衛

黄竜、俺の部隊は……気の向くままに育てようと思う。

こんな感じで考えてはいる物の……如何せん、人が少なすぎる。
それぞれ小隊規模が限界なのが現状だ。

草に人材集めでもさせるか？あいつの弟子がたしか十人くらい居る
って言っていたから総出で……いや、伝令ように一人残してだ
な。

「草……居るんだったら出て来い……」

「はいはい、ここに居ますよ、何の御用で？」

天井から逆さまに頭を出してくる。

「相変わらずの隠密能力だな気が付かなかったぞ・・・仕事だ、人が少ないので此処に来て問題無さそうな者を四百ちよつと・・・ついでに才能があるか如何かも見て考えてくれ。」

今居る村民とあわせて大体五百・・・いや、五百五人か？俺と三人集に朱麗彼女を隊長として百人の部隊を五作りたい。

お前たち三人と朱麗の隊に入れる者はそれぞれに合った才能が要るだろうからそれで頼む。

他にもその他の労働力として多くても100までは別で連れて来たいと思つた者を連れて来ていい。

これはお前の弟子たちとの合計だ。如何分けるかはそつちで決めてくれよ、以上だ。」

「了解！こんな事も有るかと思つてある程度そういう人は見つかっていますか・・・五百から六百ですか・・・ちよつと範囲を広げないといけませんね」

ワアアアア！！

「ん？何だ、外が騒がしいな・・・」

「そうですね・・・ん？何ですか柳・・・そうですね、分かりました。主よ如何やら阿香が帰つて来たようです。巨大な青い毛の熊を狩つて来た様でそれで皆が声を上げたようです・・・」

「何！？もう帰つてきたのか？」

まだ四半刻すら経っていないのに・・・あれ？何かおかしいと思えない・・・

「はい、一番弟子の報告なので間違えないかと。」

「フム・・・熊と言ったならば早々に加工し明後日に鍋にするか、あと毛皮や爪、手甲は何かに加工できるだろうからそういった物も回収しないとな。」

よし、行くぞつとその前にその場所に居ない大人に来るよう言うておいてくれ、説明したい事がある無論お前たちにもだ。」

「分かりました。」

・・・移動中・・・ついでに夕食の下ごしらえ

「よし、良く帰って来た阿吞・・・というか何処から出てきた？」

「うぬ、二足歩行して喋る奇怪な猫が案内してくれたあ道を通ったらあ？そこから出てきたのだあ」

坑道のある小屋の真下、ただの岩壁かと思ったたらそこがパカッと開いてアイルー達が荷車を引いて帰っていくところだった・・・

「なるほど・・・皆、これについては深く考えるな、そう言うものだと思うてくれ。」

「如何言つものですか？」

「・・・深く考えるなど言つたる？」

「・・・はい」

よろしい

「ではこれの事について言おう、本日坑道奥にて発見した場所よりこのような生き物の居る場所に行け、其処から帰つてこれるようになつた。」

さつき開閉していた所を指しながら言う。

「そしてコイツはまだ弱い方に部類されるアオアシラと言う。私は其処から出てきた資料により大体把握して考えた結果、

これより全員にハンターランク狩人階位を付ける！！

ハンターランク

狩人階位とはその名の通り何処までの実力を持っているかだ。

しかし対象がさっきの様な大型獣時には竜種まで出るそうなので全員壱から始める。

出入り口にある掲示板の手配書を明日までにそれぞれのランクに分けて並べるので、明日より行く事を許可する。

なお、ハンターランク上昇の試験は二月に一度行つう。

ただし、注意をしておく

自分のランク以上のものは決して選んではいけない！！

絵付きのもの―大型狩猟―はなるべく人を揃え行くこと！！

ちゃんとした装備で赴く事！！

詳しい事が知りたい者は夕食後会議場へ来い其処でなら、質問も認める。

以上一部の物は此処に残りこれの解体、他の物は解散——以上！
」

さて、古竜種一番乗り目指して俺も頑張るか……無論、明日からだがな

十七歳――・・・（。Д）・・・―（後書き）

うん、改変が進まないんだ。でも先には進むと言う・・・
書き換えより先を書くほうが楽なのは何故なんだろう・・・

原作の足音・・・異変？（前書き）

別の話が浮かんできて仕方がない。

新しいのやりたいが、増やすと一つ一つの進みが遅くなってしまう・
・・どうしよう・・・

増やしても良い、これを進めろ、寧ろこれを始めてくれなど

そんなアンケートをとりたいと思います。

期限はありません。

意見からじゃあこっちやるか・・・とかネタが降りてきた物から書きます。

感想ぶりーず！！

原作の足音・・・異変？

何でだろう、最近この森に来る物が多い。

大半は森の動物にやられてしまっているが運良く我々の狩りの時に助けられた物も居るが全体の二割にも満たないだろう。最近には猪狩^{ファンゴ}りにあまり行かないから

時折、結構近くまで来るが・・・やっぱりファンゴたちにやられている。

まあ、外にはあんな大きな猪は居ないだろうから無理も無い。ドスになると全長5mは余裕だからもつと勝ち目が無い。

助けた人に聞くと住んでいた所が重税で暮らしていけなくなったとか・・・

無論、村民に加えてあげました。

問者の心配？草と防人、俺が厳重な審査を行ったから大丈夫。

それにしても・・・

外は、大変ダナー

外に行き無く募るに
閑話休題

しかし・・・三人衆はともかく、他のやつらまで上位にあんな早く行く事になるとは思わなかった。

まず、一月目、一回目の昇格試験で三人衆・・・いや後一人居るか
らあわせて四天王としておこう

やつらは一個飛ばしの实力を持っていたから大型の一部解放、他の
やつらは一つ上昇で範囲拡大。

次で、四天王は四人で上位個人で下位全解放他の人たちは下位大型

一部解放

と、まあそんな感じで行った結果、巨大種を半年で狩りに行くまでになった四天王

数で攻めれば何とかなる一般？兵半年の時点でレウスレイヤ同時を十人で出来るように成っていた。

みんな、強い！！

え？俺？斬刀でサクリ、チート武器のおかげで下位なら最速組み、上位は・・・斬り難いの居たりで流石に単独は無理だった。

で、今は四天王と俺は自由狩猟でほかの人は殆どが上位一部禁止G級とかのおかしな奴は全員で交代して戦うと言う形に成っている。

更に、イベントとして四半年置きに大人数でで上位の巨大種を狩りに行っている。

前はジェン・モーラン相手におおよそ十人で行った。

船は四人用のところを十人、半分ガンナーのあまりに外道な組み合わせで行った。

このとき、半分は上から、もう半分は下から選ばれる。

アレは酷かった。

離れて居る時、接近専門はひたすら大砲、ガンナー陣が撃ちまくる。

凄い速さで牙は折れた。

近付いたら剣士陣の番、飛びついて採掘、攻撃……尾びれがズタズタになった。

撃竜槍？阿吞が使ってたな、取り外して側面からの攻撃に。

決戦ステージの時にはもう死に体だった。

近付いてくるまで皆、まだかまだかと待ち構え、十全にして一斉攻撃はい、すぐ終わりました。

一番攻撃した数が多いのは朱麗、一番大きなダメージを与えたのは阿吞。

まあそうだろうな。全部を持ち帰るのは無理だったからかなり解体バラして持ってかえって宴を行った。

尾びれ破壊の時は酷かった。防人が何発か叩いて楔を打ち其処を阿吞がドカンッ！！面白いようにヒビが入って行き効率よく破壊していた。

アレは酷かった。次は……近接禁止で行かないと可哀想で仕方がない。

しかし、阿吞でもまともに攻撃しても破壊まで二桁近く必要な頑丈さには驚く余りだ。

あのハンマーなら鉄塊を余裕でひしゃげさせる事が出来るのに軽く

罅が入るだけと言うのが恐ろしい。

それなら他の竜種は当て辛いのだが如何するのか前着いていつてみたら・・・腹とか薄い所狙って怯んら脚を叩いてを繰り返して倒して更に追い討ちで最終的には立てなくしてから止めでボッコボコ・・・でもちゃんと欲しい素材のあるところは避けているからしつかり考えている。

他にもちゃんと閃光玉とかの道具も使っていて、まったく油断が見られない。

まあ、ハンターライフを語るのはここまでにしよう。

皆対人、軍は全くと言って良いほどやっていないのでこの先が心配だ・・・

フェイント、様子見、みたいな物は一切使わず全てが本気力を入れた攻撃だ。双剣、片手剣、遠距離ならまだ何とかなるが、大剣、ハンマー類は大振りすぎて小さい人には当て辛いだろう。

ということ、それぞれの部隊の防具を決めそれを手に入れたら基本、狩りは中断、対人の訓練を始めた。

皆回避性能は以上に高く互いに全然当たらず最初大振りだったのもどんどんコンパクトになって時々行く狩りも上手くなった。

とは言ったものの実は半年以上掛かった。

慣れって怖いね。最初是对人ばつかでも死と隣り合わせの狩りを二年ずっとやっていればそれはもう、对人の癖なんか無くなる訳です。

まあ、半年で戻せたのはよかった。でも皆隠密が上がった。

奴等は人に比べそういうのが高かったもんだから隠れる力も探る力も皆上がった訳ですよ。

一歩間違えれば即座に死に繋がるのが上位ですから。

そして今、我々は、近くに賊が大量に居て数に物を言わせファンゴの乱獲をしているらしく、これ以上ファンゴの質が上がらないように賊退治のため、初めての軍団での戦闘をするための移動中。

玄武隊、白虎隊、黄竜隊、朱雀隊の順で、周辺の木の上を蒼竜隊が移動中

それぞれの隊の色（蒼竜隊は青竜の色、蒼ではなく緑の装備）の防具を装備している。

しかし、いくらなんでも竜の装備が之ほど揃っているのはおかしいし、この世界に居るのはあの蛇のような龍なので、存在しない竜の装備は無いということで問題ないレベルで混ぜて殆んど金属で製作した。

十分目立つ集団だが・・・

「報告です。奴等は約二千、森から少し離れた所にある古城を拠点としているようです。」

「そうか・・・今は何処に？」

「殆んどが中に居るようです。流石に数を数えては居ないので少量外に居るかもしれませんが・・・」

「解った。所で・・・どの方向だ？この森はかなり広いから進む方向を間違えると明後日の方向に出るぞ？此処まではいいが此処からは方向を考えないといけないんだが？」

「ああ、それならこの方向であっています。先頭をちゃんと誘導していますから安心してください。」

「解った、任せたぞ。」

「あと、もしかしたら近くの領主は来なくてもちよつと離れた所の・・・曹操でしたかな？其処のものが来る可能性が少々あるので・・・」

「

「おいおい、この森、そんな所まで繋がってんのか？」

「まあ、ファンゴ等の固有種が出てくるのは一定の深さからだけですからね・・・もうここら辺では影もありません。大猪の噂も我々の拠点に程近い（それでも結構な距離）場所でのみですから・・・」

「つまりはここらは唯の森であると？」

「はい、そうです。」

ファンゴ

「道理で、猪車を使って居るせいか一切野生動物が出てこないわけだ。」

そつ、移動速度を上げるため、最小限のファンゴを使い移動している。

全軍使用すれば片道一日で済むのだがそれでは目立ちすぎるので仕方なく片道二日半ほどの時間を掛けていくことにしたのだ。少数精鋭なのでこの程度の時間で済む。

「に、しても初戦闘で四倍の籠城から開始か・・・まあ籠城戦になろうと阿吞が城門ぶち破って終了か・・・」

「ははは、私たちからすれば壁にすら成りませんしね。」

「そついえば、お前の内弟子たちは如何した？」

「有力な情報を持つてくることを最終課題として放流しました。」

「・・・え？放流？」

「放流しました。」

「如何いうことだ？外に出したと？お前の弟子を？」

「え？い、いやいやそういうわけではなく、そのままの意味で、流れに放しました。」

それぞれに時間差で起きるように特製の薬を盛って別々に箱に入れて一斉に・・・」

な、何と言う『いとDirty たやすくDeeds 行われるDone えげつないDirty C
行為

h e a p だ!!

「えげつないな、さすが変態外道忍者。」

「何ですか変態って変態は無いじゃないですか。」

「外道は認めるんだな。」

「忍者は道に外れるのが当たり前じゃないですか。それで、何で変態なんですか？」

それはな、

「忍者なのに派手好き、薬物の玄人なら分かるけど爆発物の玄人って何だ!!」

「薬物なら主やほかの人が出来るから問題ないでしょう?」

「そういう理由じゃない!!」

「だって・・・薬物って地味じゃないですか!!」

「何を言う!! 忍者は地味に密かにひっそりとして無いと駄目だろ!! 間者は一般兵に偽装して紛れ込むのが仕事で・・・」

「私も幾つか薬作りましたよ?」

「体内でドカンは薬じゃない!!」

「飲むんだから薬でしょ?」

「そんな薬の定義は認めない!!」

「じゃあ如何しろってんですか?」

「・・・もうお前は薬物に手を出すな、使うにしてもほかの人に用意してもらえ・・・」

「御意♪」

「はぁ・・・今は狩りのおかげで大分仕事に集中できているが前はもつと酷かったんだよなぁ・・・」

「いやゝあの時は私も若かった、と言うことで・・・」

「情報収集だけの任務で汚職官僚の屋敷を爆破するのが若いで済むか?」

「・・・はははは・・・」

「ふう・・・もうそろそろ戻れ、次は・・・目標位置付近で報告に
来い。」

「分かりました。」

「まったく・・・皆、伽羅濃キヤラすぎだよ・・・」

たぶん十八歳・・・原作の足跡が聞こえてきた今日この頃

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8496s/>

戦うかじ師の多重転生記

2012年1月10日11時46分発行